

平成23年度研修事業の概要

(各研修事業別個表)

① 各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長、副校長・教頭及び中堅教員等に対する学校経営研修

1. 教職員等中央研修	
第1回 校長マネジメント研修	1
第2回 校長マネジメント研修	3
第1回 副校長・教頭等研修	5
第2回 副校長・教頭等研修	7
第3回 副校長・教頭等研修	9
第4回 副校長・教頭等研修	11
第5回 副校長・教頭等研修	13
第1回 中堅教員研修	15
第2回 中堅教員研修	17
第3回 中堅教員研修	19
第4回 中堅教員研修	21
2. 英語教育海外派遣研修	23

② 学校現場が抱える喫緊の重要課題について、地方公共団体が行う研修等の講師や企画・立案等を担う指導者の養成等を目的とした研修

1. 学校組織マネジメント指導者養成研修	
第1回	25
第2回	27
第3回（高等学校事務職員）	29
第4回（小・中学校事務職員）	31
2. 国語力向上指導者養成研修 ～各教科等における言語活動の充実に向けて～	
東部ブロック	33
西部ブロック	35
3. 道徳教育指導者養成研修	
中央指導者研修	37
北海道・東北ブロック	39
関東・甲信越ブロック	41
東海・北陸ブロック	43

近畿ブロック	45
中国・四国ブロック	47
九州ブロック	49
4. 学校教育の情報化指導者養成研修	
第1回	51
第2回	53
5. 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修	
東部ブロック	55
西部ブロック	57
6. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修	
管理者用コース	59
日本語指導者用コース	61
7. 生徒指導指導者養成研修	63
8. 人権教育指導者養成研修	65
9. キャリア教育指導者養成研修	
東部ブロック	67
西部ブロック	69
10. 教育相談指導者養成研修	71
11. 子どもの体力向上指導者養成研修	
東部ブロック（福島県：東日本大震災のため中止）	
西部ブロック	73
12. 健康教育指導者養成研修	
健康（推進）コース・東部ブロック	75
健康（推進）コース・西武ブロック	77
健康（専門）コース・東部ブロック	79
健康（専門）コース・西部ブロック	81
食育（推進）コース	83
食育（専門）コース	85
学校安全コース・東部ブロック	87
学校安全コース・西部ブロック	89
13. 外国語指導助手研修	
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・第2次）	91
14. 教育課題研修指導者海外派遣プログラム	
学校評価と学校改善：A－1団	95
学校評価と学校改善：A－2団	96
学校評価と学校改善：A－3団	97
国語力・読解力：B－1団	98
理数系教育：C－1団	99
理数系教育：C－2団	100
小学校英語：D－1団（タイ：洪水のため派遣中止）	
生徒指導・教育相談：E－1団	101
生徒指導・教育相談：E－2団	102
生徒指導・教育相談：E－3団	103
キャリア教育：F－1団	104
キャリア教育：F－2団	105
心身の健康教育：G－1団	106

学校教育の情報化：H－1団	107
学校教育の情報化：H－2団	108
特別支援教育：I－1団	109
特別支援教育：I－2団	110
地域の教育力の活用：J－1団	111
地域の教育力の活用：J－2団	112

③ 地方公共団体の共益的事業として委託等により例外的に実施する研修

1. 産業・理科教育教員派遣研修	115
2. 産業・情報技術等指導者養成研修	
農業：A－1（生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習）	117
農業：A－2（動物・微生物バイオテクノロジーに関する講義と実習）	119
工業：B－1（環境工学に関する講義と実習）	121
工業：B－2（知的財産教育に関する講義と実習）	123
商業：C－1（マーケティングと経済に関する講義と実習）	125
水産：D－1（海洋環境の保全に関する講義と実習）	127
家庭：E－1（新学習指導要領に対応した「生活産業基礎」の指導力向上のための講義と実習）	129
看護：F－1（看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習）	131
情報：G－1（ネットワークとシステムの構築・運営管理とシステム設計に関する講義と実習）	133
福祉：H－1（介護福祉士養成の新課程に対応した教育内容とその教授法に関する講義と実習（教員介護知識技能講習を含む））	135
福祉：H－2（受講者を推薦した都道府県がなかった（中期計画に基づき、平成23年度をもって廃止））	
技術家庭：I－1（社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領への対応を目指して）	137
技術家庭：I－2（社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領への対応を目指して）	139
技術家庭：J－1（学校における食育の推進：技術家庭科における食に関する指導（講義と実習））	141
技術家庭：J－2（幼児と触れ合う活動と幼児理解に関する指導（講義と実習））	143
3. 産業教育実習助手研修	
農業（教科「農業」及び農業科指導法に関する講義と実習）	145
工業（工業実習に関する講義と実習）	147
水産（水産及び水産科教育法に関する講義と実習）	149
4. 学校評価指導者養成研修	151
5. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	153

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回校長マネジメント研修 【第353回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校の校長 小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の新任校長（校長就任2年目まで）で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者					
開 催 期 日	平成23年 9月 26日（月）～平成23年 9月30日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	50	人	受講者数	81	参加率 162.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,800 人、受講者数 1,531 人、参加率 85.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	69	85.2	11	13.6	1	1.2	0	0.0	81
		81	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・ 5日間、大変密度の高い研修となりました。 ・ 素晴らしい講師の方々に意欲づけをしていただき、大いに勉強になった。 ・ 非常に充実度が高かったです。交流もできました。 ・ 優れた講師陣から国レベルの教育行政の動向、最新の知見を講義、充実した演習を実施していただき、学校マネジメントについて、格段に視野を広げることができました。全国各地の校長先生とふんだんに協議でき、今後も情報の交換が可能となり幸いです。 ・ 素晴らしい講師の方々の講義内容で、県単位の研修では得られない刺激を受けました。 ・ 講師の先生方が非常に熱心に指導され、講義の内容もすぐに役立つもので満足しています。ただ、短時間に多くの講座が盛り込まれているので時間に追われている感じがした。 ・ 最高の講師陣で、最高に内容の濃い研修だった。管理職養成として、中堅の教職員にも受けさせたい内容だ。 ・ トップレベルの講師から講義していただき、ありがたかった。マネジメントという言葉は知っていても、何にどのよう に生かせばよいかが明確でなかった。明日からの学校経営にすぐに生かしていきたいと感じる講義ばかりであった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分けた。 ・ 校長マネジメント研修を学校経営力に特化するとともに校長が参加しやすいよう研修日数を5日間とした。
次年度に向けて ・ 受講対象を拡大するため、募集要項等の「新任」の条件を外し、 校長相当の行政職員も受講対象であることを明確にする。 ・ 平成23年度の参加者状況を踏まえ募集定員を100名から150名に変更する。 ・ 受講者が参加しやすい時期を考慮し、春と秋に実施する。 ・ 受講者からの要望により、3日目に行っていた講義「人材育成と組織改善」を「学校評価」をテーマとしたグループ協議を中心とした内容に改める。 ・ 「新しい時代の教育」、「リスクマネジメント」の時間を延長し、研修の定着を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度教職員等中央研修

第1回校長マネジメント研修(第353回)

小・中・高等学校 校長 50人

平成23年9月26日(月)～平成23年9月30日(金)

	9月26日(月)	9月27日(火)	9月28日(水)	9月29日(木)	9月30日(金)
8:30～9:00		8:30～9:45 実践研究①	8:30～9:00 実践研究②	8:30～9:00 実践研究③	8:30～9:00 実践研究④
午前1 9:15～10:30	9:00～9:30 受付		10:00～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅡ (新しい時代の学校マネジメント実践) 藤原 和博	9:15～11:45 講義・演習 学校組織マネジメントⅢ (人材育成と組織改善)	9:15～11:45 講義・演習 学校組織マネジメントⅣ (教職員のメンタルヘルス)
	9:30～10:15 オリエンテーション				
午前2 10:30～11:45	10:30～11:00 開講式		飯野 眞幸	河村 茂雄	浅野 良一
	11:00～12:00 講義 新しい時代の教育				
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅠ (学校ビジョンと戦略)		13:00～17:00 講義・演習 リスクマネジメント	13:00～17:00 講義・演習 スクールコンプライアンス (学校運営演習) 文部科学省	13:30～15:00 講義 リーダーシップとマネジメント～民間に学ぶ～ 柴田 励司
午後2 14:15～15:30	浅野 良一				15:00～15:20 閉講式
午後3 15:45～17:00					
午後4 17:15～18:00					

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回校長マネジメント研修 【第355回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校の校長 小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の新任校長（校長就任2年目まで）で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者					
開 催 期 日	平成23年 11月 14日（月）～平成23年11月18日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	50	人	受講者数	73	参加率 146.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,800 人、受講者数 1,531 人、参加率 85.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	62	84.9	11	15.1	0	0.0	73
		73	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・ 内容が充実しており、自校や地域の現場で即活用可能な内容であり、是非、本研修内容を広めていきたい。 ・ 素晴らしい講師ばかりで、来て良かったと思える研修であった。今後に変えたいと確信している。 ・ 他県との情報交換もでき、研修内容が魅力的で自信の意識改革にとっても役に立つ内容であった。 ・ 非常に先進的な講師の方から刺激を受けました。 ・ 考え方の整理がつき、先々の学校経営の在り方、学校マネジメントを自信を持ってやれると思います。実践として頑張っていきたい。 ・ 日本を代表する方々の姿にエネルギーを感じました、自信にあふれた姿から努力と自身・信念を感じました。これまでの自分の考え方に豊かさや深さを与えていただいたと思います。マネジメントをする上で、見方が変わりました。 ・ 中身が非常に濃いもので、5日間という日程が非常にタイトであった(精神的・肉体的なゆとりの面で)。しかし、一つ一つは十分これからの職務に生かせるものであり、やりがいや意欲をかきたてられた。 ・ 先進的といわれるものから、伝統的と思われるものまで、バランスがとれていた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分けた。 ・ 校長マネジメント研修を学校経営力に特化するとともに校長が参加しやすいよう研修日数を5日間とした。 次年度に向けて ・ 受講対象を拡大するため、募集要項等の「新任」の条件を外し、校長相当の行政職員も受講対象であることを明確にする。 ・ 平成23年度の参加者状況を踏まえ募集定員を100名から150名に変更する。 ・ 受講者が参加しやすい時期を考慮し、春と秋に実施する。 ・ 受講者からの要望により、3日目に行っていた講義「人材育成と組織改善」を「学校評価」をテーマとしたグループ協議を中心とした内容に改める。 ・ 「新しい時代の教育」、「リスクマネジメント」の時間を延長し、研修の定着を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成23年度 第2回 校長マネジメント研修

平成23年11月14日(月)～平成23年11月18日(金)

	11月14日(月)	11月15日(火)	11月16日(水)	11月17日(木)	11月18日(金)	
8:30～9:00		8:30～9:40 実践研究①	8:30～9:00 実践研究②	8:30～9:00 実践研究③	8:30～9:00 実践研究④	
午前1 9:15～10:30	9:00～9:30 受付		9:50～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅡ (新しい時代の学校マネジメント実践) 藤原 和博	9:15～11:45 講義・演習 学校組織マネジメントⅢ (人材育成と組織改善) 飯野 真幸	9:15～11:45 講義・演習 学校組織マネジメントⅣ (教職員のメンタルヘルス) 河村 茂雄	9:15～12:15 講義・演習 学校組織マネジメントⅤ (マネジメントの実践に向けて) 浅野 良一
	9:30～10:15 オリエンテーション					
午前2 10:30～11:45	10:30～11:00 開講式					
	11:00～12:00 講義 新しい時代の教育					
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 講義・演習 学校組織マネジメントⅠ (学校ビジョンと戦略)		13:00～17:30 講義・演習 リスクマネジメント	13:00～17:00 講義・演習 スクールコンプライアンス (学校運営演習) 文部科学省	13:30～15:00 講義 リーダーシップとマネジメント～民間に学ぶ～ 柴田 励司	
午後2 14:15～15:30	浅野 良一					15:00～15:20 閉講式
午後3 15:45～17:00						
午後4 17:15～18:00 (自主研修)						

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回副校長・教頭等研修 【第349回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県その他の小学校・中学校等の副校長・教頭等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。							
開 催 期 日	平成23年 7月26日（火）～平成23年 7月29日（金）平成23年 8月 2日（火）～平成23年 8月12日（金）					15日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	86	人	参加率	86.0%
開 催 場 所	新梅田研修センター（大阪府大阪市福島区福島6-22-20）							

※ 全体受講定員 1,800 人、受講者数 1,531 人、参加率 85.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	76	88.4	10	11.6	0	0.0	86
		86	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・とても勉強になった研修であり、今後の学校現場において多くの財産になったと思います。 ・本当に素晴らしい講師陣によるとてもよい研修でした。私が今まで体験した研修の中で最高の13日間でした。 ・日に日に内容の濃い演習となったのはご参加の先生方の情報交換の中で具体性のある研修となったためだと感じています。通いの研修では、十分に交流できるかどうかと思っていましたが、同じ関西圏の皆様とともに打ち解けて研修ができ、今後もより良い交流の中でより良い学校運営に努められると思います。 ・コミュニケーション力、模擬記者会見などもめったに体験できない演習であるので、こうした研修には欠かせないと思う。 ・リスクマネジメントとメンタルヘルスマネジメントは必ず今後も設けて下さい。特にリスクマネジメントは誰も教えてくれないし教えられませんから、お願いします。 ・無駄な時間がなくて、気がつくとい日が終わっていたという感じでよかったです。 ・素晴らしいプログラムでした。 ・講義だけでなく演習をすることでより理解が深められた。様々な学校の情報を知ることができ有意義であった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分けた。 ・副校長・教頭等研修は、研修日数を2日間延長し、「特別支援教育」「コミュニケーション力」「メンタルヘルス」講義等を新たに加えた。 次年度に向けて ・「防災管理」を新規に導入する。 ・「児童虐待」又は「自殺予防」を新規に導入する。 ・「新しい時代の教育」、「コミュニケーション力」の時間を延長し、定着を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年7月26日(火)～平成23年8月12日(金)

第1週		7月26日(火)	7月27日(水)	7月28日(木)	7月29日(金)	7月30日(土)	7月31日(日)
			9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明		
午前1		9:30～9:50 受付	9:45～12:15 教育法規Ⅰ	9:45～15:00 教育法規Ⅱ	9:45～12:15 メンタルヘルスマネジメント		
午前2		10:00～11:30 オリエンテーション	坂田 仰	三ツ角 直正	真金 薫子		
午後1		13:00～13:20 開講式	13:30～16:30 実践研究①		13:30～16:30 コミュニケーション力		
		13:30～14:30 新しい時代の教育			音楽座		
午後2		写真撮影		15:15～16:30 実践研究②			
		15:00～16:30 特別講義 杉田 正明					
第2週	8月1日(月)	8月2日(火)	8月3日(水)	8月4日(木)	8月5日(金)	8月6日(土)	8月7日(日)
		9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明		
午前1		9:45～12:15 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)	9:45～12:15 教育指導上の課題 (特別支援教育)	9:45～16:30 教育指導上の課題 (学習指導と評価)	9:45～16:30 教育指導上の課題 (生徒指導)		
午前2		柳澤 良明	徳永 豊	角屋 重樹	飯野 眞幸		
午後1		13:30～15:30 リーダーとなるためにⅠ 杵屋 五司郎	13:30～16:30 実践研究③				
午後2		15:45～16:30 オリエンテーション					
第3週	8月8日(月)	8月9日(火)	8月10日(水)	8月11日(木)	8月12日(金)		
	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～16:30 学校運営演習	9:30～16:00 学校運営演習		
午前1	9:45～16:30 リスクマネジメント (メディアトレーニング)	9:45～16:30 学校組織マネジメントⅡ 北神 正行	9:45～11:45 リーダーとなるためにⅡ 酒巻 久				
午前2							
午後1			13:00～16:30 実践研究④				
午後2					16:15～16:30 閉講式・事務連絡		

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回副校長・教頭等研修 【第351回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、その他の小学校・中学校等の副校長・教頭等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。							
開 催 期 日	平成23年 8月 2日（火）～平成23年 8月12日（金）平成23年 8月16日（火）～平成23年 8月19日（金）					15日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	100	人	受講者数	81	人	参加率	81.0%
開 催 場 所	フォーラムエイト（東京都渋谷区道玄坂2-10-7）							

※ 全体受講定員 1,800 人、受講者数 1,531 人、参加率 85.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	78	96.3	3	3.7	0	0.0	81
		81	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・全体を通して、これほど充実した講師が行った研修を今まで受けたことがありませんでした。今後も是非、一流の先生方でこの研修を継続していただければありがたいと思います。 ・「学ぶなら一流のものを」という意向のよく伝わる内容でした。素晴らしい指導を毎日いただける幸せを感じながら過ごすことができました。 ・今回の研修では、講義演習内容と最高の講師陣の指導により、充実した3週間を過ごすことができました。貴重な時間であり、心より感謝申し上げます。このことを地元で活用し、明日からの教育を力強く推進してまいります。 ・大変有意義で、洗練されたこの研修に参加させていただき、ありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。 ・コミュニケーション、リスクマネジメント、各領域で大変見識あるトップの方の講義は大変有意義だった。 ・企業等、教員以外の目線による講義は新鮮で大変勉強になる。今後も引き続きお願いしたい。 ・素晴らしい講師陣で、この研修に出られたことを誇りに思い、光栄に感じております。勢いのある活気みなぎる参加者の教頭先生方に会え、感謝の思いでいっぱいです。 ・演習をする事により、他人の意見を聞くことができ新たな視点を与えていただいたこと。とても学ぶことが多かった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分けた。 ・副校長・教頭等研修は、研修日数を2日間延長し、「特別支援教育」「コミュニケーション力」「メンタルヘルス」講義等を新たに加えた。 次年度に向けて ・「防災管理」を新規に導入する。 ・「児童虐待」又は「自殺予防」を新規に導入する。 ・「新しい時代の教育」、「コミュニケーション力」の時間を延長し、定着を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度教職員等中央研修

第2回副校長・教頭等研修(第351回)

平成23年8月2日(火)～平成23年8月19日(金)

8月1日(月)	8月2日(火)	8月3日(水)	8月4日(木)	8月5日(金)	8月6日(土)	8月7日(日)
	9:30～9:50 受付	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明		
	10:00～11:30 オリエンテーション	9:45～12:15 教育法規Ⅰ 菱村 幸彦	9:45～15:00 教育法規Ⅱ 松崎 勝	9:45～12:15 メンタルヘルスマネジメント 藤原忠雄		
	13:00～13:20 開講式	13:30～16:30 実践研究①	15:15～16:30 実践研究②	13:30～16:30 コミュニケーションカ		
	13:30～14:30 新しい時代の教育			音楽座		
	写真撮影					
	15:00～16:30 特別講義 衣笠祥雄					
8月8日(月)	8月9日(火)	8月10日(水)	8月11日(木)	8月12日(金)	8月13日(土)	8月14日(日)
9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明		
9:45～12:15 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 大野裕己	9:45～16:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 松田 素行	9:45～16:30 教育指導上の課題 (学習指導と評価) 角屋 重樹	9:45～12:15 特別支援教育 中井 滋	9:45～16:30 リスクマネジメント		
13:30～15:30 リーダーとなるためにⅠ 杵屋五司郎			13:30～16:30 実践研究③			
15:45～16:30 オリエンテーション						
8月15日(月)	8月16日(火)	8月17日(水)	8月18日(木)	8月19日(金)		
	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～16:30	9:30～16:00		
	9:45～16:30 学校組織マネジメント 北神 正行	9:45～11:45 実践研究④	学校運営演習	学校運営演習		
		13:00～14:15 児童虐待 関口博久 宮城教育大学教授				
		14:30～16:30 リーダーとなるためにⅡ 遠藤 功		16:15～16:30 閉講式		

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第3回副校長・教頭等研修 【第352回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	高等学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。						
開 催 期 日	平成23年 9月 5日（月）～平成23年 9月22日（木）					18日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	150	人	受講者数	130	人	参加率 86.7%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,800 人、受講者数 1,531 人、参加率 85.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	115	88.5	15	11.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	130	
		130		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・大変貴重な経験、研修ができました。ありがとうございました。 ・ほぼ全ての講義・演習が有益なものでありました。また、講師の先生方の質の高さは特筆されると思います。 ・講義・演習・研究のバランスが取れていて、全てに一貫した内容で、とても充実していました。時代をリードする方々の講義はどれも素晴らしく、このことを伝えるのに、やはり所属県でお呼びできたと思うほどです。 ・特別講義はそう簡単には聞くことのできない、そして大変役立つお話を聞かせていただきました。 ・講座によっては内容が充実しすぎており、やや余裕に欠けていたように感じました。 ・学習評価は、高校はH25から全面实施になるのももう少し突っ込んだ内容が聞きたかった。 ・企業のリーダーの方の講義は聞く機会が少なく、もう少し多くあったらよいと思いました。 ・コミュニケーション力の講義の時間がもっとあればよいと思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分けた。 ・副校長・教頭等研修は、研修日数を2日間延長し、「特別支援教育」「コミュニケーション力」「メンタルヘルス」講義等を新たに加えた。 次年度に向けて ・「防災管理」を新規に導入する。 ・「児童虐待」又は「自殺予防」を新規に導入する。 ・「新しい時代の教育」、「コミュニケーション力」の時間を延長し、定着を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度教職員等中央研修

第3回副校長・教頭等研修(第352回)

高等学校副校長・教頭、指導主事等

平成23年9月5日(月)～平成23年9月22日(木)

第1週	9月5日(月)	9月6日(火)	9月7日(水)	9月8日(木)	9月9日(金)	9月10日	9月11日
		8:30～9:30 オリエンテーション②	8:30～9:00 実践研究③	8:30～9:00 実践研究⑤	8:30～9:00 実践研究⑥		
午前1	9:30～9:50 受付	9:45～10:30 班別協議①	9:15～15:30	9:15～11:45	9:15～15:30		
午前2	10:00～11:45 オリエンテーション①	10:45～11:45 実践研究①	教育法規Ⅱ 清水 幹裕	コミュニケーション力 音楽座	教育指導上の課題 (学習指導と評価) 角屋 重樹		
午後1	13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ		13:00～17:00			
午後2	13:30～14:30 新しい時代の教育	樋口 修資		研修講師 となるための 知識・技術			
	14:30～15:00写真撮影						
午後3	15:15～16:45 特別講義 小川 三夫	15:45～17:00 実践研究②	15:45～17:00 実践研究④	永尾 剛 池田 範夫	15:45～17:00 実践研究⑦		
第2週	9月12日(月)	9月13日(火)	9月14日(水)	9月15日(木)	9月16日(金)	9月17日	9月18日
	8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～8:50 オリエンテーション④	8:30～9:00 実践研究⑨	8:30～9:00 実践研究⑩	8:30～9:00 実践研究⑫		
午前1	9:15～15:30	9:00～17:00	9:15～11:45	9:15～11:45	9:15～17:00		
午前2	教育指導上の課題 (生徒指導)	リスクマネジメント 伊原 正俊	メンタルヘルスマネジメント 藤原 忠雄	学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 窪田 眞二	学校組織マネジメントⅡ 北神 正行		
午後1	飯野 眞幸		13:00～15:30 教育指導上の課題 (特別支援教育)	13:00～14:15 自殺予防 新井 肇			
午後2			梅永 雄二	14:30～17:00 実践研究⑪			
午後3	15:45～17:00 実践研究⑧		15:45～17:00 教育と芸術 清水良一・清水知子				
第3週	9月19日(月)	9月20日(火)	9月21日(水)	9月22日(木)			
		8:30～9:00 オリエンテーション⑤	8:30～9:30 グループ別協議	8:30～9:00 班別協議②			
午前1		9:15～17:00	9:45～17:00	9:15～10:45 リーダーとなるための リーダー			
午前2		学校運営演習	学校運営演習	石坂 芳男			
午後1	敬老の日			11:00～11:20 閉講式			
午後2							
午後3							

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回副校長・教頭等研修 【第357回】					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受 講 対 象	幼稚園・小学校・中学校の副校長・教頭等、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。					
開 催 期 日	平成24年 1月 5日（木）～平成24年 1月24日（火）					20日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	150	人	受講者数	178	人 参加率 118.7%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 1,800 人、受講者数 1,531 人、参加率 85.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	172	96.6	6	3.4	0	0.0	0	0.0	178
		178	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・総じてすばらしい講義内容でした。これから大いに生かしていきたいと思います。 ・本当に全てが充実したプログラムでした。講師の方々についてもそれぞれの分野の第一線でご活躍されている方々ばかりで、本当に充実した3週間でした。今後の業務にぜひ生かしていきたいです。 ・3週間の長期でしたが、一流の講師陣の講義・演習を受講することができ、大変有意義な研修でした。私自身も職務上、研修を企画・運営しますので難しさはとてわかります。ましてや3週間の長さになると、事務局の方のご苦労もいかばかりかとお察しいたします。研修運営をはじめ、資料配付や会場設営等、きめ細かい配慮をしていただき、感謝申し上げます。 ・これまでに受けた研修の中で最も素晴らしい研修であり、一生忘れないと思います。 ・講義はどれもよかったのですが、内容があまりに多く、スピードについていけないものもありました。 ・今回の研修にも設定していただいたように、コミュニケーション力やメンタルヘルスマネジメント、特別支援教育は、今後も継続していただきたいと思います。社会の価値観の多様化・情報の煩雑化の中で、私たちにとって必要なことだと考えます。 ・演習形式が取り入れられ、講義の内容を活用する場面があり主体的に研修を深めていくことができました。とても充実した研修になりました。 ・個性的で高名な講師の方々の講話は、どれも大変勉強になりました。今後とも、ぜひこの水準を維持、発展していただくことを希望します。また、演習とのバランスも絶妙で、自分の力量向上が実感できたとともに、今後の自分の課題も発見できた、有意義な研修になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分けた。 ・副校長・教頭等研修は、研修日数を2日間延長し、「特別支援教育」「コミュニケーション力」「メンタルヘルス」講義等を新たに加えた。
次年度に向けて ・「防災管理」を新規に導入する。 ・「児童虐待」又は「自殺予防」を新規に導入する。 ・「新しい時代の教育」、「コミュニケーション力」の時間を延長し、定着を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度教職員等中央研修

第4回副校長・教頭等研修(第357回)

幼稚園・小・中学校副校長・教頭等、指導主事等 150人

平成24年1月5日(木)～平成24年1月24日(火)

第1週				1月5日(木)	1月6日(金)	1月7日(土)	1月8日(日)
8:30～9:00					8:30～9:30 オリエンテーション		
午前1 9:15～10:30				9:30～9:50 受付	9:45～11:45 実践研究		
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション			
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ		
午後2 14:15～15:30				13:30～14:30 新しい時代の教育	辻村 哲夫		
午後3 15:45～17:00				14:30～15:00写真撮影			
				15:15～16:45 特別講義 西田 善夫	15:45～17:00 実践研究		
第2週	1月9日(月)	1月10日(火)	1月11日(水)	1月12日(木)	1月13日(金)	1月14日(土)	1月15日(日)
8:30～9:00		8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30		9:15～15:30	9:15～11:45	9:15～15:30	9:15～17:00		
午前2 10:30～11:45		教育法規Ⅱ 松崎 勝	コミュニケーション力 音楽座	教育指導上の課題 (生徒指導) 小中学校 柳生 和男	リスクマネジメント 伊原 正俊		
午後1 13:00～14:15			13:00～17:00	幼稚園 豊田 一秀			
午後2 14:15～15:30			研修講師 となるための 知識・技術				
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究		15:45～17:00 実践研究			
第3週	1月16日(月)	1月17日(火)	1月18日(水)	1月19日(木)	1月20日(金)	1月21日(土)	1月22日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30	9:15～11:45	9:15～11:45	9:15～17:00	9:15～17:00		
午前2 10:30～11:45	教育指導上の課題 (学習指導) 小中学校 角屋 重樹	学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 浜田 博文	メンタルヘルスマネジメント 諸富 祥彦 明治大学教授	学校運営演習	学校運営演習		
午後1 13:00～14:15	幼稚園 岩立 京子	13:00～17:00 新しい時代の 学校マネジメント 藤原 和博	13:00～15:30 特別支援教育 玉井 邦夫				
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究		15:45～17:00 教育と芸術 冢田、金井				
第4週	1月23日(月)	1月24日(火)					
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究					
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00	9:15～10:45 リーダーとなるために					
午前2 10:30～11:45	学校組織マネジメントⅡ 北神 正行	木村 政雄 11:00～11:20 閉講式					
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00							

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第5回副校長・教頭等研修 【第358回】							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校の副校長・教頭、指導主事等 幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。							
開 催 期 日	平成24年 1月 25日（水）～平成24年 2月10日（金）					17日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	100	人	受講者数	166	人	参加率	166.0%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 1,800 人、受講者数 1,531 人、参加率 85.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	153	92.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	166
		166	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・ どの講義もたいへん意味のあるもので自分自身を伸ばすことができました。とても有意義なものでした。地元には必ず成果活用していきます。 ・ 中央研修ならではの講師陣で、本当に中身の濃い内容だった。これからの職責遂行のために大いに役だった。 ・ これほど充実した講師の方々から研修を受けられたことに感謝します。 ・ 全体としてよく練られた研修だと思いました。満足しています。 ・ 地方では決して出来ない(受けられない)研修、例えばコミュニケーションや教育と芸術などをもっともっと増やしていただきたいと思います。 ・ 宿泊しての研修で、その日の日程終了後の全国からの情報交換も大変有意義でした。 ・ 演習が適度に配置されたプログラムで全体としてバランスがよかった。 ・ 普段地元ではなかなか受けることができない講義や演習ばかりで本当に幸せだと感じました。また、私一人の財産にしてはいけなと痛感しました。市教委から「未来への投資だよ」と言われた訳がよく分かりました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分けた。 ・ 副校長・教頭等研修は、研修日数を2日間延長し、「特別支援教育」「コミュニケーション力」「メンタルヘルス」講義等を新たに加えた。
次年度に向けて ・ 「防災管理」を新規に導入する。 ・ 「児童虐待」又は「自殺予防」を新規に導入する。 ・ 「新しい時代の教育」、「コミュニケーション力」の時間を延長し、定着を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度教職員等中央研修

第5回副校長・教頭等研修(第358回)

小・中学校副校長・教頭、指導主事等

平成24年1月25日(水)～平成24年2月10日(金)

第1週			1月25日(水)	1月26日(木)	1月27日(金)	1月28日(土)	1月29日(日)
				8:30～9:30 オリエンテーション②	8:30～9:00 実践研究③		
午前1			9:30～9:50 受付	9:45～10:45 班別協議①	9:15～15:30 教育法規Ⅱ		
午前2			10:00～11:45 オリエンテーション①	11:00～11:45 実践研究①	清水 幹裕		
午後1			13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ			
午後2			13:30～14:30 新しい時代の教育	伊勢呂裕史			
午後3			14:30～15:00写真撮影 15:15～16:45 特別講義 米長 邦雄	15:45～17:00 実践研究②	15:45～17:00 実践研究④		
第2週	1月30日(月)	1月31日(火)	2月1日(水)	2月2日(木)	2月3日(金)	2月4日(土)	2月5日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～12:00 研修講師 となるための 知識・技術 池田 範夫 吉川 正貴	8:30～9:00 実践研究⑦	8:30～9:00 実践研究⑧	8:30～8:50 オリエンテーション④		
午前1	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導)		9:15～15:30 教育指導上の課題 (学習指導と評価)	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)	9:00～17:00 リスクマネジメント 伊原 正俊		
午前2	嶋崎 政男		角屋 重樹	小松 郁夫			
午後1		13:15～13:45 実践研究⑥		13:00～17:00 新しい時代の 学校マネジメント 藤原 和博			
午後2		14:00～17:10 コミュニケーションカ 音楽座					
午後3	15:45～17:00 実践研究⑤		15:45～17:00 教育と音楽 市川、竹澤、岩河				
第3週	2月6日(月)	2月7日(火)	2月8日(水)	2月9日(木)	2月10日(金)		
	8:30～9:00 オリエンテーション⑤	8:30～9:00 実践研究⑩	8:30～9:00 実践研究⑪	8:30～9:00 班別協議②	8:30～9:00 班別協議③		
午前1	9:15～11:45 メンタルヘルスマネジメント	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅡ	9:15～17:00 学校運営演習	9:15～17:00 学校運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 竹内 一郎		
午前2	諸富 祥彦	浅野 良一			11:00～11:20 閉講式		
午後1	13:00～15:30 特別支援教育						
午後2	梅永 雄二						
午後3	15:45～17:00 実践研究⑨						

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回中堅教員研修 【第348回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	高等学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者						
開 催 期 日	平成23年5月10日（火）～平成23年6月3日（金）					25日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	190	人	受講者数	131	人	参加率 68.9%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,800 人、受講者数 1,531 人、参加率 85.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計		
		大変有意義		概ね有意義								
人数 (人)	割合 (%)	121	92.4	10	7.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	131
		131		100.0								

2. 研修内容に関する主な意見

・全国のバイタリティのある先生方と共有できた時間は、今後の教員としてだけでなく、人間としても大変貴重な体験をさせていただきました。必ず、生徒達への教育実践や地元の先生方への成果活用の形でお返ししていきたいと思っています。 ・研修内容が大変勉強になったことは言うまでもないが、全国の素晴らしい先生方と知り合えて情報交換できたこと、ネットワークを作れたことが何よりの財産である。不安でスタートした研修だったが、充実感で一杯である。 ・教員人生の中で、後にも先にもない最高の研修でした。自分自身が講師となった時、このように心に響き、記憶に残る研修が実践できるよう、今後とも研鑽を重ねていきたいと思います。このような機会をいただき、ありがとうございます。 ・自らの資質の向上に向けた大変素晴らしいプログラムでした。この経験は生涯忘れられないものとなりました。 ・質問をする時間があまりなかったので、もう少しとっていただくとよかったです。 ・演習によっては内容が多すぎて時間が不足したものがありません。より充実して演習のために時間配分と内容についてバランスのよいものにして欲しいと思うものもありました。 ・各講師が使ったパワーポイントを頂くと大変役に立ちます。 ・スクールコンプライアンス、組織マネジメント+カリキュラムマネジメント、特別支援の内容はもっと増やしてもいい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「特別支援教育」の時間を増やし、充実させるとともに、「コミュニケーション力」の講義を新たに組み入れた。
次年度に向けて ・中堅教員が参加しやすい夏季休業期間を中心に2回開催できるよう日程を組む。 ・「カリキュラムマネジメント」を廃止し、「メンタルヘルスマネジメント」を新規に導入する。 ・「新しい時代の教育」、「学校運営演習」、「キャリア教育」などの時間配分を見直す。 ・参加人数の実績を考慮して中堅教員研修の定員を1,100人から950人に改める。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度教職員等中央研修 第1回中堅教員研修(第348回)

参加者: 高校教諭

平成23年5月10日(火)～平成23年6月3日(金)

参加者：同区研修		平成29年5月10日(火)		平成29年5月11日(水)		平成29年5月12日(木)		平成29年5月13日(金)		平成29年5月14日(土)		平成29年5月15日(日)			
第1週		5月10日(火)		5月11日(水)		5月12日(木)		5月13日(金)		5月14日(土)		5月15日(日)			
				8:30～10:00 オリエンテーション②		8:30～9:00 演習準備①		8:30～9:00 演習準備②							
午前1		9:30～9:50 受付				9:15～15:30 教育法規Ⅱ		9:15～11:45 道徳教育							
午前2		10:00～11:45 オリエンテーション①		10:15～11:45 地方教育行財政制度 笠沙 知章		清水 幹裕		横山 利弘							
午後1		13:00～13:20 開講式		13:00～15:30 教育法規Ⅰ				13:00～17:00 コミュニケーションカ							
午後2		13:30～14:30 新しい時代の教育 14:30～15:00写真 15:15～16:45		坂田 仰				柴田励司 音楽座							
午後3		特別講義 柳本晶一		15:45～17:00 班別協議①		15:45～17:00 実践研究①									
第2週		5月16日(月)		5月17日(火)		5月18日(水)		5月19日(木)		5月20日(金)		5月21日(土)		5月22日(日)	
		8:30～9:00 オリエンテーション③		8:30～9:00 演習準備③		8:30～9:00 演習準備④		8:30～9:00 オリエンテーション④		8:30～9:00 演習準備⑤					
午前1		9:15～15:30 カリキュラムマネジメント		9:15～11:45 国際理解教育		9:15～11:45 人権教育		9:15～11:45 リスクマネジメント		9:15～17:00 リスクマネジメント					
午前2		大杉 昭英		岡本行夫		福田 弘		上地 安昭							
午後1				13:00～15:30 キャリア教育		13:00～15:30 生徒指導		13:00～17:00 リスクマネジメント							
午後2				藤田 晃之		飯野 眞幸									
午後3		15:45～17:00 実践研究②		15:45～17:00 実践研究③		15:45～17:00 実践研究④									
第3週		5月23日(月)		5月24日(火)		5月25日(水)		5月26日(木)		5月27日(金)		5月28日(土)		5月29日(日)	
		8:30～9:00 オリエンテーション⑤		8:30～9:00 演習準備⑥		8:30～9:00 演習準備⑦		8:30～9:00 演習準備⑧		8:30～9:00 演習準備⑨					
午前1		9:15～15:30 特別支援教育		9:15～15:30 学習指導と評価		9:15～15:30 生徒指導		9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 情報教育 小泉 カー ボランティア教育 長沼 豊 健康教育 西岡伸紀 環境教育 高田 研		9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 浜田博文					
午前2		花輪 敏男		二井 正浩		河村 茂雄				13:00～17:00 研修講師となるため の知識・技術					
午後1															
午後2															
午後3		15:45～17:00 実践研究⑤		15:45～17:00 実践研究⑥		15:45～17:00 教育と芸術 腰越、丸山		15:45～17:00 班別協議②							
第4週		5月30日(月)		5月31日(火)		6月1日(水)		6月2日(木)		6月3日(金)					
		8:30～9:00 オリエンテーション⑥		8:30～9:30 演習準備⑩		8:30～9:30 班別協議③		8:30～9:30 班別協議④		8:30～9:00 班別協議⑤					
午前1		9:15～17:00 学校組織マネジメントⅡ		9:45～17:00 学校運営演習		9:45～17:00 学校運営演習		9:45～17:00 学校運営演習		9:15～10:45 リーダーとなるために 小杉俊哉					
午前2										11:00～11:20 閉講式					
午後1															
午後2															
午後3															

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第2回中堅教員研修 【第350回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者						
開 催 期 日	平成23年7月28日（木）～平成23年8月23日（火）					27日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	320	人	受講者数	282	人	参加率 88.1%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,800 人、受講者数 1,531 人、参加率 85.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	267	94.7	15	5.3	0	0.0	282
		282	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・講義内容が概論的なものが多かった。対象は中堅教員なので、大学での内容ではなく、現場にとって必要な最近の情報に絞っていただけるとさらに学び多きものとなる感じた。 ・バランスよく講義が設定され、講師も素晴らしい方々ばかりでした。 ・これまでの教員人生のなかでも最も有意義な貴重な研修となりました。 ・どれも重要な講義演習であり、大変勉強になりました。今後も今回と同じ内容でよいと考えます。 ・講義だけでなく演習を通すことで理解がかなり深まると思います。今後もたくさん演習を取り入れて下さい。 ・とにかく4週間、講義あり、演習あり、小グループのメンバーも常にシャッフルされ、よく練られたまた中身の詰まった素晴らしい研修でした。 ・研修が多岐にわたるので、座学だけでは集中力が持たない。演習を取り入れることで、集中力を保って研修を受けることができ、印象に残った。 ・地方ではなかなか感じる事ができませんので、最新の情報は得たいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「特別支援教育」の時間を増やし、充実させるとともに、「コミュニケーション力」の講義を新たに組み入れた。
次年度に向けて ・中堅教員が参加しやすい夏季休業期間を中心に2回開催できるよう日程を組む。 ・「カリキュラムマネジメント」を廃止し、「メンタルヘルスマネジメント」を新規に導入する。 ・「新しい時代の教育」、「学校運営演習」、「キャリア教育」などの時間配分を見直す。 ・参加人数の実績を考慮して中堅教員研修の定員を1,100人から950人に改める。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度教職員等中央研修 第2回中堅教員研修(第350回)

参加者: 小学校・中学校・高等学校教諭

平成23年7月28日(木)～平成23年8月23日(火)

第1週				7月28日(木)	7月29日(金)	7月30日(土)	7月31日(日)
					8:30～10:00 オリエンテーション②		
午前1				9:30～9:50 受付			
午前2				10:00～11:45 オリエンテーション①	10:15～11:45 地方教育行財政制 大桃 敏行		
午後1				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ		
午後2				13:30～14:30 新しい時代の教育	樋口 修資		
午後3				14:30～15:00写真 15:15～16:45 特別講義 平尾 誠二	15:45～17:00 班別協議①		
第2週	8月1日(月)	8月2日(火)	8月3日(水)	8月4日(木)	8月5日(金)	8月6日(土)	8月7日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～9:00 演習準備①	8:30～9:00 演習準備②	8:30～9:00 オリエンテーション④	8:30～9:00 リスクマネジメント準備		
午前1	9:15～15:30 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 生徒指導	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント	9:15～11:45 リスクマネジメント	9:15～17:00 リスクマネジメント		
午前2	三ツ角 直正	石隈 利紀	村川 雅弘	飯野 眞幸	NKSJリスクマネジメント		
午後1		13:00～17:00 コミュニケーションカ		13:00～17:00 リスクマネジメント			
午後2		音楽座		NKSJリスクマネジメント			
午後3	15:45～17:00 実践研究①		15:45～17:00 実践研究②				
第3週	8月8日(月)	8月9日(火)	8月10日(水)	8月11日(木)	8月12日(金)	8月13日(土)	8月14日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション⑤	8:30～9:00 演習準備③	8:30～9:00 演習準備④	8:30～9:00 演習準備⑤	8:30～9:00 演習準備⑥		
午前1	9:15～11:45 人権教育	9:15～11:45 国際理解教育	9:15～15:30 学習指導と評価	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義)	9:15～15:30 生徒指導		
午前2	有村 久春	多田 孝志	加藤 明	情報教育 野中 陽一	河村 茂雄		
午後1	13:00～15:30 道徳教育	13:00～15:30 キャリア教育		ボランティア教育 池田 幸也			
午後2	七條 正典	白木 みどり		健康教育 野津 有司			
午後3	15:45～17:00 実践研究③	15:45～17:00 実践研究④	15:45～17:00 教育と芸術 市川・竹澤・岩河	15:45～17:00 班別協議②	15:45～17:00 実践研究⑤		
第4週	8月15日(月)	8月16日(火)	8月17日(水)	8月18日(木)	8月19日(金)	8月20日(土)	8月21日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション⑥	8:30～9:00 演習準備⑦	8:30～9:00 演習準備⑧	8:30～9:00 演習準備⑨	8:30～9:00 演習準備⑩		
午前1	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅡ	9:15～17:00 学校運営演習	9:15～17:00 学校運営演習	9:15～17:00 学校運営演習		
午前2	天笠 茂	産業能率大学					
午後1	13:00～17:00 研修講師となるための 知識・技術						
午後2	池田 範夫 鈴木 実						
午後3							
第5週	8月22日(月)	8月23日(火)					
	8:30～9:00 オリエンテーション⑦	8:30～9:00 班別協議④					
午前1	9:15～15:30 特別支援教育	9:15～10:45 リーダーとなるために 黒岩 禪					
午前2	花輪 敏男	11:00～11:20 閉講式					
午後1							
午後2							
午後3	15:45～17:00 班別協議③						

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第3回中堅教員研修 【第354回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	小学校・中学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者						
開 催 期 日	平成23年10月3日（月）～平成23年10月28日（金）					26日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	270	人	受講者数	134	人	参加率 49.6%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,800 人、受講者数 1,531 人、参加率 85.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	133	99.3	1	0.7	0	0.0	134
		134	100.0	0	0.0	0	0.0	

2. 研修内容に関する主な意見

・一流の講師の方々に出会えたことが宝でした。内容もですが、それよりも人として、教師としての姿が心に残りました。また、講義という1つの授業の組み立て方が上手で参考になりました。 ・講義と演習がうまく組み合わさっていて本当にありがたかったです。講師の先生方も素晴らしい先生ばかりで、地方ではこのようなチャンスはなかなかなく、本当によい機会をいただいたと感謝しています。 ・一流の講師に出会えて幸せでした。地方ではなかなか会えることのできない方々の講習は今後も続けて欲しいです。 ・ここでの毎日はとても有意義な日々であり、生涯忘れられないものです。この地に集い、全国の仲間とともに研修を深め合ったこと、幸せに思います。 ・どの講師も素晴らしく、ありがたかった。 ・4つの領域がバランスよく設定されていてよかったです。 ・全てが素晴らしい講義でした。プログラミングが素晴らしいと思います。 ・なかなかお話を聞くことができないような講師の先生方の講義を受けることができました。日頃の実践で課題を抱えている先生方もいるのではないかと思いますので、質問場面があるとよいのではないかと思います。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「特別支援教育」の時間を増やし、充実させるとともに、「コミュニケーション力」の講義を新たに組み入れた。
次年度に向けて ・中堅教員が参加しやすい夏季休業期間を中心に2回開催できるよう日程を組む。 ・「カリキュラムマネジメント」を廃止し、「メンタルヘルスマネジメント」を新規に導入する。 ・「新しい時代の教育」、「学校運営演習」、「キャリア教育」などの時間配分を見直す。 ・参加人数の実績を考慮して中堅教員研修の定員を1,100人から950人に改める。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度教職員等中央研修 第3回中堅教員研修(第354回)

参加者:小中学校教諭

平成23年10月3日(月)～平成23年10月28日(金)

第1週	10月3日(月)	10月4日(火)	10月5日(水)	10月6日(木)	10月7日(金)	10月8日(土)	10月9日(日)
		8:30～10:00 オリエンテーション②	8:30～9:00 演習準備①	8:30～9:00 演習準備②	8:30～9:00 演習準備③		
午前1	9:30～9:50		9:15～15:30	9:15～15:30	9:15～11:45		
	受付		教育法規Ⅱ	カリキュラムマネジメント	国際理解教育		
午前2	10:00～11:45 オリエンテーション①	10:15～11:45 地方教育行財政制度 大桃 敏行	三ツ角 直正	田村 知子	佐藤 郡衛		
午後1	13:00～13:20 開講式	13:00～15:30			13:00～15:30		
	13:30～14:30 新しい時代の教育	教育法規Ⅰ			キャリア教育		
午後2	14:30～15:00写真 15:15～16:45	坂田 仰			三川 俊樹		
午後3	特別講義 大島 昌子	15:45～17:00 班別協議①	15:45～17:00 実践研究①	15:45～17:00 実践研究②	15:45～17:00 実践研究③		
第2週	10月10日(月)	10月11日(火)	10月12日(水)	10月13日(木)	10月14日(金)	10月15日(土)	10月16日(日)
		8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～9:00 演習準備④	8:30～9:00 オリエンテーション④	8:30～17:00		
午前1		9:15～11:45	9:15～11:45	9:15～11:45	リスクマネジメント		
		リスクマネジメント	生徒指導	人権教育	NKSJリスクマネジメント		
午前2	体育の日	飯野 真幸	石隈 利紀	梅野 正信			
午後1		13:00～15:30	13:00～17:00	13:00～17:00			
		道徳教育	コミュニケーションカ	リスクマネジメント			
午後2		押谷 由夫	音楽座	NKSJリスクマネジメント			
午後3		15:45～17:00 実践研究④					
第3週	10月17日(月)	10月18日(火)	10月19日(水)	10月20日(木)	10月21日(金)	10月22日(土)	10月23日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション⑤	8:30～9:00 演習準備⑤	8:30～9:00 演習準備⑥	8:30～9:00 演習準備⑦	8:30～9:00 演習準備⑧		
午前1	9:15～11:45	9:15～15:30	9:15～15:30	9:15～15:30	9:15～15:30		
	学校組織マネジメントⅠ (学校評価) 浜田 博文	生徒指導 河村 茂雄	学習指導と評価 相澤 秀夫	特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 情報教育 堀田 龍也 ボランティア教育 長沼 豊 健康教育 川畑 徹朗 環境教育 藤本 勇二	特別支援教育 花輪 敏男		
午後1	13:00～17:00						
	研修講師となるための 知識・技術						
午後2							
午後3	西村 雅司 佐藤 恭	15:45～17:00 実践研究⑤	15:45～17:00 教育と芸術 村上 敏明	15:45～17:00 班別協議②	15:45～17:00 実践研究⑥		
第4週	10月24日(月)	10月25日(火)	10月26日(水)	10月27日(木)	10月28日(金)		
	8:30～9:00 オリエンテーション⑥	8:30～9:30 演習準備⑨	8:30～9:30 班別協議③	8:30～9:30 班別協議④	8:30～9:00 班別協議⑤		
午前1	9:15～17:00	9:45～17:00	9:45～17:00	9:45～17:00	9:15～10:45		
	学校組織マネジメントⅡ	学校運営演習	学校運営演習	学校運営演習	リーダーとなるために 鍵山 秀三郎		
午前2	産業能率大学				11:00～11:20 閉講式		
午後1							
午後2							
午後3							

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回中堅教員研修 【第356回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の適切な運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	小学校・中学校・高等学校の教諭 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の主幹教諭・指導教諭・教諭で、今後、学校経営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者						
開 催 期 日	平成23年11月21日（月）～平成23年12月16日（金）					26日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	320	人	受講者数	189	人	参加率 59.1%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 1,800 人、受講者数 1,531 人、参加率 85.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	176	13	0	0	0	0	189
割合 (%)	93.1	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	189	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・全ての講義・演習にとっても満足しています。 ・4週間は長いだろうと思っていたのですが、過ぎ去ってみると、あっという間でした。充実した講義・演習内容だったからこそだと思います。 ・普段聞くことのできない講師の先生ばかりであり、また、講義内容もとても充実していた。 ・地域にいたら体験できない研修が多く、身になった。 ・理論的に講義において説明していただくことも貴重ですが、その講義に関する内容について事例検討など、演習がある講義は大変有意義だと思いました。 ・1週目から3週目までを通し、全体のことが一つに結びついていく過程が大変すばらしく、多くのことを学ぶことができました。すばらしい研修の場をありがとうございました。 ・全国各地の先生方の講習のたびに、バランスよく配置されるご苦労は大変なものだったと思いますが、そのお陰で短期間の中でとても多くの方々と交流することができました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「特別支援教育」の時間を増やし、充実させるとともに、「コミュニケーション力」の講義を新たに組み入れた。 次年度に向けて ・中堅教員が参加しやすい夏季休業期間を中心に2回開催できるよう日程を組む。 ・「カリキュラムマネジメント」を廃止し、「メンタルヘルスマネジメント」を新規に導入する。 ・「新しい時代の教育」、「学校運営演習」、「キャリア教育」などの時間配分を見直す。 ・参加人数の実績を考慮して中堅教員研修の定員を1,100人から950人に改める。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度教職員等中央研修 第4回中堅教員研修(第356回)

参加者: 小学校・中学校・高等学校教諭

平成23年11月21日(月)～平成23年12月16日(金)

第1週	11月21日(月)	11月22日(火)	11月23日(水)	11月24日(木)	11月25日(金)	11月26日(土)	11月27日(日)
		8:30～10:00 オリエンテーション②	勤労感謝の日	8:30～9:00 演習準備①	8:30～9:00 演習準備②		
午前1	9:30～9:50 受付			9:15～15:30	9:15～11:45 生徒指導		
午前2	10:00～11:45 オリエンテーション①	10:15～11:45 地方教育行財政制度 宮腰 英一		教育法規Ⅱ 三ツ角 直正	(小中)嶋崎 政男 (高校)飯野 真幸 13:00～17:00 コミュニケーションカ 音楽座		
午後1	13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ					
午後2	13:30～14:30 新しい時代の教育	伊勢呂 裕史					
午後3	14:30～15:00写真 15:15～16:45 特別講義 童門 冬二	15:45～17:00 班別協議①		15:45～17:00 実践研究①			
第2週	11月28日(月)	11月29日(火)	11月30日(水)	12月1日(木)	12月2日(金)	12月3日(土)	12月4日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション③	8:30～9:00 演習準備③	8:30～9:00 演習準備④	8:30～9:00 オリエンテーション④	8:30～17:00 リスクマネジメント		
午前1	9:15～15:30 特別支援教育	9:15～11:45 道徳教育	9:15～11:45 国際理解教育	9:15～11:45 リスクマネジメント	NKSJリスクマネジメント		
午前2	花輪 敏男	(小中)柴原 弘志 (高校)林 泰成	多田 孝志	上地 安昭			
午後1		13:00～15:30 人権教育	13:00～15:30 キャリア教育	13:00～17:00 リスクマネジメント			
午後2		有村 久春	三村 隆男	NKSJリスクマネジメント			
午後3	15:45～17:00 実践研究②	15:45～17:00 実践研究③	15:45～17:00 実践研究④				
第3週	12月5日(月)	12月6日(火)	12月7日(水)	12月8日(木)	12月9日(金)	12月10日(土)	12月11日(日)
	8:30～9:00 オリエンテーション⑤	8:30～9:00 演習準備⑤	8:30～9:00 演習準備⑥	8:30～9:00 演習準備⑦	8:30～9:00 演習準備⑧		
午前1	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成	9:15～15:30 学習指導と評価	9:15～15:30 生徒指導	9:15～11:45 学校組織マネジメントⅠ (学校評価)		
午前2	(小中)安彦 忠彦	(選択講義) 情報教育 高橋 純	(小中)北 俊夫	河村 茂雄	窪田 真二		
午後1	(高校)大杉 昭英	ボランティア教育 興梠 寛	(高校)二井 正浩		13:00～17:00 研修講師となるための知識・技術		
午後2		健康教育 川畑 徹朗 環境教育 高田 研			吉川 正貴 加治 行雄		
午後3	15:45～17:00 実践研究⑤	15:45～17:00 班別協議②	15:45～17:00 教育と芸術 アマデウス五重奏団	15:45～17:00 実践研究⑥			
第4週	12月12日(月)	12月13日(火)	12月14日(水)	12月15日(木)	12月16日(金)		
	8:30～9:00 オリエンテーション⑥	8:30～9:30 演習準備⑨	8:30～9:30 班別協議③	8:30～9:30 班別協議④	8:30～9:00 班別協議⑤		
午前1	9:15～17:00 学校組織マネジメントⅡ	9:45～17:00 学校運営演習	9:45～17:00 学校運営演習	9:45～17:00 学校運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 大竹 美喜		
午前2	産業能率大学				11:00～11:20 閉講式		
午後1							
午後2							
午後3							

I 研修概要

研 修 名	英語教育海外派遣研修					
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ					
研 修 目 的	各地域において英語教育を推進する中核的教員を育成するため、優れた研究課題を有する者を海外に派遣し、英語教育に関する指導方法等についての実践的な研究、大学等での専門的な授業及び実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。					
受 講 対 象	・ 中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の英語担当教員 ・ 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者					
開 催 期 日	別紙のとおり			別紙のとおり		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	34	参加率
						113.3%
開 催 場 所	別紙のとおり					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	31	3	0	0	0	0	34
割合 (%)	91.2	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	34	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・ 事前研修会において、他の参加者や、講師の意見や考えを聞いたことで、自分の課題設定の甘さがわかり、自分の課題の練り直しができたことは非常に有効だった。 ・ 大学では、今後の指導の在り方について、深く考えることができました。これから、今の日本の英語教育に、どのように適合させていくか、より学んでいかなければならないと実感した。 ・ 現地で学んだことを日本の生徒に合うよう、工夫を加え、指導していくことが大切だと感じた。 ・ 大学での研修は、アカデミックな分野と、現地にいてこそ体験できる文化的側面のバランスがとれた、充実した内容でした。 ・ 大学のどの講義も有効だったが、日本の英語指導にそのまま導入するには少々難しい部分もあるが、教授法としては参考とすべきものが多く、大きな財産となる研修内容だった。 ・ 事後研修会で、他の大学に行かれた先生方の研修内容や実践を聞いて、自分自身が気づけなかった点や、新しい教授法について、今後の実践の参考にした点が見つかった。 ・ 事後研修会用の発表資料をまとめることで2ヶ月間の研修を振り返ることができ、さらに「こんな活用ができる」といったアイディアがわいてくる機会となった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 研修目的達成のために、事前研修会における過年度参加代表者の「研修成果活用の実践報告」を充実させた。報告内容の精選及び発表時間の細分化を通じて、前年度に見られた研修生活面の発表に偏る傾向は解消し、授業及び日常生活における研修の活かし方に関する有益な報告がなされた。 ・ 研修参加者を育成する観点から、研修成果報告書の提出及び検閲作業において推薦元教育委員会等との連携のもと指導助言を行った。また、事後研修会には、大阪府・静岡県・山梨県の担当者を講師として招聘し、会の運営に参画させる取組を始めた。 次年度に向けて ・ 研修参加者が記録した自らの授業の様子を派遣先大学に持参させ、講師が各個人レベルの実態を踏まえた上で指導助言あるいはプログラムの改善及び実施に役立てながら、研修の効果を高めるようにする。 ・ TESL : Teaching English as a Second Language [第二言語としての英語教授法] の手法を生徒の実態に適合させ、授業において実践することは重要であることから、TESLの実際を体験できる機会を設定し、より実践的な研修を構築する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成23年度 英語教育海外派遣研修

派遣国	派遣先機関	参加人数	事前研修会	派遣期間	事後研修会
イギリス	バーミンガム大学	10	5/12～5/13 教員研修センター (茨城県つくば市)	7/15～9/12	12/1～12/2 教員研修センター (茨城県つくば市)
	エクセター大学	11		6/25～8/22	
アメリカ	デンバー大学	13		7/17～9/13	
計		34			

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第1回）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実・研修企画などを担当している者並びにこれに準ずる者 幼稚園の園長、副園長並びに小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、事務長、事務職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成23年7月 11日（月）～平成23年 7月15日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	116	人	参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 540 人、受講者数 579 人、参加率 107.2% (第1～4回の合計)

※ 校長・副校長・教頭等対象受講定員 220 人、受講者数 262 人、参加率 119.1% (第1～2回の計)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	83	71.6	33	28.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
		116		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・講師の質が高く、新たな発見や学びがとても多い、密度の濃い研修であった。 ・これまで経験した学校組織マネジメントの中で一番有意義であった。 ・これまで組織マネジメント研修で学んだ内容が整理・深化できた。 ・最新の研修が受けられる。現場を離れ、自己の考えが整理できる。 ・素晴らしい先生方のお話が大変ためになった。つくばでしか聞けない話もあり、有意義であった。 ・様々な講師の先生のお話から、断片的な知識が統合された感じがします。 ・初めてのつくばでしたが、非常に内容の濃い1週間を過ごすことができました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「メンタルヘルスマネジメント」の講義時間を分割して、前半を医師による現状分析を行い、後半は、大学教員を講師として前半講義内容を踏まえて、学校におけるマネジメントのあり方を検討した。 ・実践発表の事例を精選し、改善点・問題点をより深く考察できるようにした。
次年度に向けて ・実践発表の事例を精選し、改善点・問題点をより深く考察できるようにする。 ・学校経営の改善に活かす技法として、新しい問題解決の方策を探るための論理的思考法について検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第1回)日程表

平成23年7月11日(月)～平成23年7月15日(金) 4泊5日 会場:教員研修センター

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日 7/11			受付	オリエンテーション	開講式	講義 教育改革の動向と 学校経営 文部科学省初等中 等教育局視学官	屋食・休憩	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法 ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	諸連絡								
第2日 7/12	演習 学校コンサル テーション の実際(1)	休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～民間の組織経営に学ぶ～ 株式会社イマージェンス代表取締役社長 桑畑 英紀			屋食・休憩	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー教員にとつての マネジメントの課題～ 国士館大学教授 北神 正行	休憩	実践発表 マネジメントの改善 (1)地域のリソースを活かした マネジメント 橋田 進 (2)校務の情報化による業務改善 田久保 友也 講評:国士館大学教授 北神 正行	諸連絡							
第3日 7/13	演習 学校コンサル テーション の実際(2)	休憩	講義・演習 特色ある学校づくりのための財務マネジメント 京都教育大学教授 竺沙 知章			屋食・休憩	講義 メンタルヘルスマネジメント (1) 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	講義・演習 メンタルヘルスマネジメント(2) 早稲田大学教授 河村 茂雄	諸連絡							
第4日 7/14	演習 学校の戦略マップを作る(1)						屋食・休憩	演習 学校の戦略マップを作る(2)	諸連絡								
第5日 7/15	オリエン テーショ ン	演習・講義 学校コンサルティングの実際(3) ～研修講師となるために～ 群馬県立女子大学講師 飯野 眞幸					閉講式										

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第2回）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会及び教育センター等で学校組織マネジメントの普及・充実・研修企画などを担当している者並びにこれに準ずる者 幼稚園の園長、副園長並びに小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、事務長、事務職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成23年8月29日（月）～平成23年 9月 2日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	146	人	参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 540 人、受講者数 579 人、参加率 107.2% (第1～4回の合計)

※ 校長・副校長・教頭等対象 受講定員 220 人、受講者数 262 人、参加率 119.1% (第1～2回の計)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	112	76.7	28	19.2	0	0.0	0	0.0	6	4.1	0	0.0	
		146		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・講師の先生・講義の内容がとても充実していて、中身の濃い研修で得るものが多かった。 ・アニマルシンキングやメンタルヘルスマネジメントの研修ができて、大変有難かったです。 ・グループでの演習もあり、大変勉強になった。充実していたので時間が短く感じた。 ・講義・演習ともに大変勉強になりました。また、他地域の先生方との交流も有意義でした。 ・今のポジション及び直面する課題によく合った研修内容であった。 ・大変新鮮で役に立つ情報を得ることができた。自分自身のマネジメントに生かすことができる。学校現場だけでなく、青少年教育施設においても活用できる手法を学ぶことができた。 ・長い5日間であったが、しかし研修内容をもっと身に付けたい思いが強くなり、もう少し日数が欲しいくらいだった。 ・演習があるのは大変よいと思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・「メンタルヘルスマネジメント」の講義時間を分割して、前半を医師による現状分析を行い、後半は、大学教員を講師として前半講義内容を踏まえて、学校におけるマネジメントのあり方を検討した。 ・実践発表の事例を精選し、改善点・問題点をより深く考察できるようにした。
次年度に向けて ・実践発表の事例を精選し、改善点・問題点をより深く考察できるようにする。 ・学校経営の改善に活かす技法として、新しい問題解決の方策を探るための論理的思考法について検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成23年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第2回)日程表

平成23年8月29日(月)～平成23年9月2日(金) 4泊5日 会場:教員研修センター

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日 8/29			受付	オリエンテーション	開講式	講義 教育改革の動向と 学校経営 文部科学省初等中 等教育局視学官	屋食・休憩	講義・演習 学校経営の改善に活かす技法 ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～	諸連絡								
第2日 8/30	演習 学校コンサル テーションの 実際(1)	休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～民間の組織経営に学ぶ～ 株式会社イマージェンス代表取締役社長 桑畑 英紀	屋食・休憩			講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー教員にとつての マネジメントの課題～ 国士館大学教授 北神 正行	休憩	実践発表 マネジメントの改善 (1)地域のリソースを活かした マネジメント 橋田 進 (2)校務の情報化による業務改善 田久保 友也 講評:国士館大学教授 北神 正行	諸連絡							
第3日 8/31	演習 学校コンサル テーションの 実際(2)	休憩	講義・演習 特色ある学校づくりのための財務マネジメント 京都教育大学教授 笠沙 知章	屋食・休憩			講義 メンタルヘルスマネジメント (1) 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子	休憩	講義・演習 メンタルヘルスマネジメント(2) 早稲田大学教授 河村 茂雄	諸連絡							
第4日 9/1	演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一	屋食・休憩			演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一			諸連絡									
第5日 9/2	オリエン テーショ ン	演習・講義 学校コンサルティングの実際(3) ～研修講師となるために～ 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一			閉講式												

I 研修概要

研 修 名	平成23年度学校組織マネジメント指導者養成研修（第3回）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。					
受 講 対 象	高等学校及び特別支援学校の事務長及び同等の事務職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等として活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成23年11月14日（月）～平成23年11月18日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	130	人
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 (全体計画人数)	540 人、	受講者数	579 人、	参加率	107.2%	(第1～4回の合計)
※ 事務職員対象 受講定員	320 人、	受講者数	317 人、	参加率	99.1%	(第3～4回の計)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	72	55.4	2	1.5	0	0.0	0	0.0	130
		128	98.5							

2. 研修内容に関する主な意見

・グループによる演習は、他県の状況を知る絶好の機会で、とても有意義であると感じました。また、それぞれの県の状況によりいろいろな視点での考え方があることを改めて認識することができました。この研修を糧に、これからの学校経営をより充実したものとすると共に、機会を見つけて指導者として他の人に指導していきたいと考えます。
・学校組織マネジメントについて大変勉強になり、事務長としてこれからの仕事に役立っていききたいと思っている。他校の特色ある取組についても参考になり、自校にも取り入れていきたい。演習での話し合い、ワークシート作成も良かった。
・他の都道府県の研修生の方の交流はもちろん、センターのスタッフの皆様の受入れ体制など、講義以外にも学ぶべきものが多々ありました。講義については学んだことを職場内の研修や、管内の学校の事務職員に対して広く周知したいと思います。
・研修目的を達成するための段階を追った研修内容がすばらしかった。その場で聞いているだけで今まで漠然としていたことが、形を成してきたように感じる。又、他県の事務長との交流で得たものも大きかった。
・班別の演習では気軽に意見を述べることもでき充実した研修になりました。今後管理職になる心構えができ、自分自身少しは成長できたのではないかと、大変感謝いたしております。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・本年度から学校組織マネジメント指導者養成研修に移行した。
次年度に向けて ・運営面において、演習の進め方を工夫する。 ・引き続き、学校事務職員の参加者増を促し、学校組織マネジメントを推進する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 学校組織マネジメント指導者養成研修（第三回）
高等学校事務職員対象

11月14日（月）	9:30	10:00	10:50	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
		受付	オリエンテーション 開講式	課題協議1 「教育改革の動向と学校経営」 文部科学省初等中等教育局長 主任視学官 柚山 禎之	課題協議2 「新学習指導要領とこれからの学校運営」 文部科学省初等中等教育局長 視学官 永井 克昇	休	演習1 「自校の取組」	【第二研修棟2F】
				【第二研修棟2F】	【第二研修棟2F】	食	【第二研修棟2F】	【第二研修棟2F】
11月15日（火）	9:00		11:45	12:45	17:00			
		受付	課題協議3 「信頼される開かれた学校づくりのために」 山梨大学教育研究開発センター副センター長 教授 日永 龍彦	課題協議2 「学校におけるリスクマネジメント」 バームコンサルティンググループ 代表 伊原 正俊	【第二研修棟2F】	休	班別演習	【第二研修棟2F】
		受付		【第二研修棟2F】		食		
11月16日（水）	9:00		12:00	13:00	15:00	15:15	17:00	
		受付	講義・演習4-① 「学校組織マネジメント」 九州大学大学院人間環境学研究院 教授 八尾坂 修	事例発表 「学校運営の課題と改善策について」	事例発表② 群馬県立前橋工業高等学校 事務局長 青木 勝 座席：自由 【第二研修棟2F】	事例発表③ 東京都市大学特別支援学校 経営企画室長 石川孝雄 座席：自由 【第一研修棟2F201】	演習3 「学校運営を支える事務長の役割」 茨城県立緑岡高等学校 事務室長 藤田 正一 群馬県立前橋工業高等学校 事務局長 青木 勝 東京都市大学特別支援学校 経営企画室長 石川孝雄	【第二研修棟2F】
		受付		【第二研修棟2F】	【第二研修棟2F】	食		
11月17日（木）	9:00		12:00	13:00	17:00			
		受付	講義・演習4-② 「学校組織マネジメント」 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 笠沙 知章	演習5 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局長 視学官 長尾 篤志	【指導助言】 群馬県立伊勢崎清明高等学校 事務局長 富岡 恒夫 東京都市大学小山台高等学校 経営企画室長 原 とき枝 茨城県立竜ヶ崎第二高等学校 事務局長 秋田 剛 千葉県立千葉大宮高等学校 事務局長 左草 節 茨城県立石岡商業高等学校 事務局長 榊 元	【指導助言】 群馬県立伊勢崎清明高等学校 事務局長 富岡 恒夫 東京都市大学小山台高等学校 経営企画室長 原 とき枝 茨城県立竜ヶ崎第二高等学校 事務局長 秋田 剛 千葉県立千葉大宮高等学校 事務局長 左草 節 茨城県立石岡商業高等学校 事務局長 榊 元	【第二研修棟2F】	【第二研修棟2F】
		受付		【第二研修棟2F】		食		
11月18日（金）	9:00		11:20	11:30	12:00	12:15		
		受付	発表 演習6 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局長 視学官 三好 仁司 【指導助言】 群馬県立伊勢崎清明高等学校事務局長 富岡 恒夫 東京都市大学小山台高等学校経営企画室長 原 とき枝 茨城県立竜ヶ崎第二高等学校事務局長 秋田 剛 千葉県立千葉大宮高等学校事務局長 左草 節 茨城県立石岡商業高等学校事務局長 榊 元 【演習の進め方「演習6発表会場」参照】	研究協議 「研修講師となるために」	閉講式			
		受付		【第二研修棟2F】				

※演習1, 3, 5, 6については原則として以下に分かれて実施
1. 特色ある学校の運営（普通科）
2. 特色ある学校の運営（専門学科）
3. 特色ある学校の運営（総合学科）
4. 特色ある学校の運営（特別支援学校）

I 研修概要

研 修 名	平成23年度学校組織マネジメント指導者養成研修（第4回）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、校務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として機能することが求められている。 本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。						
受 講 対 象	小学校及び中学校の事務長及びそれに準じる者であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等として、活動を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成24年2月20日（月）～平成24年2月24日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	187	人	参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員（全体計画人数） 540 人、受講者数 579 人、参加率 107.2% （第1～4回の合計）
※ 事務職員対象受講定員 320 人、受講者数 317 人、参加率 99.1% （第3～4回の計）

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	154	82.4	33	17.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	187	
		187		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・とても勉強になりました。事前に、読んでおいたほうが良い図書や資料をご案内してほしいと思います。フセンを使った演習をどうまとめ、どう使うかまで指導いただきたかった。地域に帰った時、身近な仕事でつかえる演習がほしかった気がします。
・5日間という長丁場と感じ参加したが、研修内容が充実しており、時間を感じさせない内容が多かった。参加前に一定程度のことは理解していたつもりで講義を受講したが、内容（中身）がとても新鮮であり、大変参考になりました。地元で或いは地域で還元をできるだけしたいと感じました
・根拠となる法令等、普段なかなかお聞きすることのできない内容の研修を受講することができ、大変勉強になりました。「組織」ということを強く意識しようと思いました。何より、いろいろな地域の方と情報交換できたことが大きな収穫でした。
・組織マネジメントの手法KJ法を簡単でいいので説明して欲しいと思います。いきなり付箋紙を配られても、どのようにして、どこまでのことをしたらいいのかわかりません。
・5日間の研修全体に一本の筋が通っているようで、とても意義深く、大変勉強になりました。講義については、それぞれの分野の専門家の話であったので、多少理解できない部分もありましたが、全体的にわかりやすかった。演習については、全国から集まった6人のメンバーと、それぞれ事情は違うが1つのテーマについて議論ができて面白かった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ 本年度から学校組織マネジメント指導者養成研修に移行した。
次年度に向けて ・運営面において、演習の進め方を工夫する。 ・引き続き、学校事務職員の参加者増を促し、学校組織マネジメントを推進する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成23年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第4回)日程表
～小・中学校事務職員～

	9:50	10:20	10:50	12:00	13:00	14:30 14:45	15:00	17:00
2月20日(月)	受付	オリエンテーション 開講式	課題協議1 「教育改革の動向と学校経営」 文部科学省大臣官房審議官 (初等中等教育局担当) 尾崎 春樹 目的:最新の教育改革及び制度について理解を深める	昼 食	課題協議2 「新学習指導要領とこれからの学校運営」 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇 目的:新学習指導要領の理念や内容を踏まえ、今後の学校運営の在り方について理解を深める	休憩	演習説明 1	演習1 「自校の取組」 目的:他校の特色ある取組について共有する

	9:00	11:45	12:45	17:00
2月21日(火)	受付	課題協議3 「信頼される開かれた学校づくりのために」 千葉大学教育学部 教授 天笠 茂 目的:学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえ、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深める	昼 食	講義・演習2 「学校におけるリスクマネジメント」 パームコンサルティンンググループ 代表 伊原 正俊 班別演習 目的:学校における危機管理の手法について理解を深める

	9:00	12:00	13:00	15:00 15:15	17:00
2月22日(水)	受付	講義・演習3-① 「学校組織マネジメント」 九州大学大学院人間環境学研究院 教授 八尾坂 修 目的:各地域で取り組まれている教育改革に係る学校運営の事例を知る	昼 食	事例発表 「特色ある学校運営の取組」 事例発表① 岩手県大船渡市立大船渡北小学校 主任事務主査 村上 誠二 事例発表② 静岡県島田市立北中学校 事務主査 駒井 輝代 目的:特色ある学校運営の事例を知るとともに、事務職員が持つ課題解決の手がかりを探る	休憩 演習4 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 目的:学校運営における事務職員の役割について振り返る

	9:00	12:00	13:00 13:15	17:00
2月23日(木)	受付	講義・演習3-② 「学校組織マネジメント」 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 笠沙 知章 目的:学校組織マネジメントによる望ましい学校運営を図るための検討方法について具体的に理解を深める。	昼 食	演習5 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 【指導助言】 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇 静岡県袋井市立周南中学校 統括事務主幹 横山 泉 兵庫県芦屋市立湖見中学校 学校副主幹 島本 安博 神奈川県川崎市立宮前小学校 総括事務主査 田辺 徹馬 岩手県一戸町立奥中山小学校 事務主任 阿部 貴子 埼玉県加須市立花崎北小学校 事務主査 飯島 由美子 目的:学校運営における課題に対する解決方法を検討するとともに、今後の学校事務職員の役割を整理する

	9:00	11:20 11:30	12:00 12:15
2月24日(金)	発表 班別協議	研究協議 「研修講師となるために」 目的:研修のまとめをし、研修講師となるための力量と意欲を高める	閉講式

I 研修概要

研 修 名	国語力向上指導者養成研修（東部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	学習指導要領の改訂を踏まえ、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、本研修を踏まえた各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭（特に研修主任や研究主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成23年8月24日（水）～平成23年8月26日（金）					3日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	113	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 220 人、 受講者数 240 人、 参加率 109.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	96	85.0	17	15.0	0	0.0	0	0.0	113
		113	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・近年、不安に思っていたことや、分からなかったことが少し分かって（理論と実践がつながって）きたように感じ大変勉強になりました。この学んだ事を周りの先生方に伝えるためには、より具体的に実践事例をもとに話し、伝えられたらと考えています。参加させていただき、ありがとうございました。

・1日目の「心構え」の講義に始まり、2日目のアクションプランの作成、3日目の発表、そして「講師となるため」と密度の濃いハードな内容であった。帰校してから、言語活動の講師を務めなければならない場面もあるかと思うが、特にアクションプランの作成を意識して講師を務めていきたいと思う。

・「言語活動の充実」についての一本筋の通った講座内容が、1日目、2日目と準備されていたことにより、理解・納得が出来た。また、演習・発表は確認と現場に戻ってからの伝え方についての方向と自信につながった。

・初回到言語活動をどの様に捉えるか、また、具体的な事例等も通しての講義等があり、そして、その後演習があり、言語活動について、理解を深めることが出来た。演習では、6人でそれぞれがこれまでの経験をもとに課題や提案をし、班としてプランをまとめることが出来た。そのまとめる過程を経験することが、非常に有意義であった。

・漠然としていた言語活動充実のための手立てやプロセスを理解することが出来た。他地域、他校種の先生方と情報交流でき、大変勉強になった。ありがとうございました。

・今までの言語活動の充実より、更に深まった認識となった。講師の先生方の話には、ポイントがあり、「今までどうだろう？」と考え直すこととなり、明確になった。また、その説明の仕方・資料の用い方は、これから自分がその立場になる上で、非常に参考になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・各講義で受講者に学びとってもらいたいことを認識してもらうために、各講義の流れやつながりについて研修のはじめの課題協議1の時間を延長し説明時間を増やした。
・各地域において言語活動の充実を図るための課題を共有化するために事前提出課題を見直し、2日目のコース別演習の中で協議の時間を設けた。
・協議の時間が少ないというアンケートの要望に基づき、初日の終了時間を延長した。
次年度に向けて
・各地域等での研修プログラムを作成するための演習を新設する。
・最終日のコース別演習の発表の時間を30分延長する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

平成23年度 国語力向上指導者養成研修～各教科等における言語活動の充実に向けて～東部ブロック日程表

第1日目

8月24日 (水)	9:30	10:00	10:30	11:20	11:25	12:15	13:15	15:00	15:15	17:15
	9:30	10:00	10:30	11:20	11:25	12:15	13:15	15:00	15:15	17:15
	受付	開講式	課題協議1 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局主任幹事官 田中孝一	課題協議2 「国内外における言語活動の充実に関する取組について」 1. 諸外国における取組 2. 国内における取組 ・事例発表、質疑応答 一 小学校 岡山大学教育学部附属小学校教諭 西上慶一 一 中学校 北海道教育大学附属函館中学校教諭 黒田諭 一 高等学校 神奈川県立光陵高校教諭 山田秀二 ・講評 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 西辻正副	休憩	研究協議 「各学校種での言語活動の充実について」 ① 小学校部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 水戸部修治 ② 中学校部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 富山哲也 ③ 高等学校部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 西辻正副				
				◎目的：言語活動の充実に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の先進校の取組を知り、各地域・学校で今後実践していくための方法について理解を深める。						

第2日目

8月25日 (木)	9:00	9:30	9:40	11:30	12:30	14:00	17:00
	9:00	9:30	9:40	11:30	12:30	14:00	17:00
	課題協議3 「カリキュラム改善のための手法」 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 水戸部修治	休憩・移動	コース別演習 【学校全体のアクションプラン作成コース】 一 初等分科会 文部科学省初等中等教育局視学官 宮崎浩志 一 中等分科会 東京都多摩教育事務所指導主事 高木展巳 一 中等分科会 横浜国立大学教授 小島聖巳 一 中等分科会 小山市立小山第二中学校校長 松澤直子 一 中等分科会 神奈川県立総合教育センター指導主事 高木展巳	屋休み	研究協議 「研修講師となるために」 ※2日目の演習担当講師 ◎目的：各自が本研修の成果等をもとに、研修講師となるための知見を深める。	閉講式	
	◎目的：言語活動の充実に向けたカリキュラム等を作成する際の手だてを理解する。	◎目的：言語活動の充実に向けたカリキュラム等を作成する際の手だてを理解する。	◎目的：言語活動の充実に向けたカリキュラム等を作成する際の手だてを理解する。	◎目的：言語活動の充実に向けたカリキュラム等を作成する際の手だてを理解する。	◎目的：言語活動の充実に向けたカリキュラム等を作成する際の手だてを理解する。	◎目的：言語活動の充実に向けたカリキュラム等を作成する際の手だてを理解する。	◎目的：言語活動の充実に向けたカリキュラム等を作成する際の手だてを理解する。

第3日目

8月26日 (金)	9:00	11:30	12:30	14:00
	9:00	11:30	12:30	14:00
	全体会 「コース別演習の発表」 ※2日目の演習担当講師 ◎目的：第2日目のコース別演習での成果を発表し、言語活動の充実方策について理解を深める。	屋休み	研究協議 「研修講師となるために」 ※2日目の演習担当講師 ◎目的：各自が本研修の成果等をもとに、研修講師となるための知見を深める。	閉講式

I 研修概要

研 修 名	国語力向上指導者養成研修（西部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	学習指導要領の改訂を踏まえ、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、本研修を踏まえた各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭（特に研修主任や研究主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成24年7月27日（水）～平成24年7月29日（金）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	127	人	参加率 ※
開 催 場 所	福岡国際会議場（福岡県福岡市）						

※ 全体受講定員 220 人、 受講者数 240 人、 参加率 109.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	100	78.7	24	18.9	1	0.8	0	0.0	1	0.8	1	0.8	127
		124		97.6										

2. 研修内容に関する主な意見

・ 文部科学省の視学官や教科調査官の先生方や大学教授の方のお話を聞くことができ、大変参考になりました。今後の仕事の中で、是非生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

・ 「理論（1日目）」から「演習（2日目）」、そして「振り返り（3日目）」という流れは良かった。受講前と比べ、言語活動に関する認識の深まりがあったと思う。とても有意義であった。ありがとうございます。

・ 言語活動の充実を各教科・領域の視点から具体的に考える事が出来た。まずは、自校の同僚に、そして、地域等の研修会において、しっかりと生かしていきたい。

・ コース別課題での話し合いが良かった。やはり現状分析と課題を話し合った上で、目標設定しないとやらされ感ばかりになってしまうと思った。

・ 他府県の取り組みを知る機会が得られて良かったです。同様に苦労しておられることも分かり、また素晴らしい実践にも触れることが出来ました。明日からの方向性を示していただけました。ありがとうございます。

・ グループワークなどで様々な視点を得られたことが良かったと思う。新学習要領など、“今”の動きを改めて実感出来たことも良かったと思うし、他教科、学校全体の動きについても改めて考えられたので、今後生かしていければと思う。校種を超えて意見を聞く機会は少ないのでとても刺激になった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・ 各講義で受講者に学びとってもらいたいことを認識してもらうために、各講義の流れやつながりについて研修のはじめの課題協議1の時間を延長し説明時間を増やした。
・ 各地域において言語活動の充実を図るための課題を共有化するために事前提出課題を見直し、2日目のコース別演習の中で協議の時間を設けた。
・ 協議の時間が少ないというアンケートの要望に基づき、初日の終了時間を延長した。
次年度に向けて
・ 各地域等での研修プログラムを作成するための演習を新設する。
・ 最終日のコース別演習の発表の時間を30分延長する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 国語力向上指導者養成研修～各教科等における言語活動の充実に向けて～西部ブロック日程表

第1日目

7月27日 (水)	9:30	10:00	10:30	11:20	11:25	12:15	13:15	15:00	15:15	17:15
	受付	開講式	課題協議1 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局立位視学官 田中孝一 ◎目的：言語活動の充実に関する現状と課題、意義・目的を踏まえた本研修のねらいの共有及び3日間の研修内容を知り研修を受講するにあたっての心構えを整理する。	課題協議2 「国内外における言語活動の充実に関する取組について」 1. 諸外国における取組 京都女子大学教授 井上一郎 2. 国内における取組 ・事例発表、質疑応答 一 小学校 香川大学教育学部附属坂出小学校教諭 大山貴久 一 中学校 熊本県甲佐町立甲佐中学校教諭 西本仁史 一 高等学校 神奈川県立神奈川県立光陵高校教諭 山田秀二 ・講評 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 水戸部修治	昼休み	休憩	研究協議 「各学校種での言語活動の充実について」 ①小学校部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 水戸部修治 ②中学校部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 富山哲也 ③高等学校部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 西正副	◎目的：各学校段階における言語活動の充実方策について理解を深める。		

第2日目

7月28日 (木)		9:00	9:30	9:40	コース別演習		屋休み		17:00
課題協議3 「カリキュラム改善のための手法」		休憩・移動	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 水戸部 修治	文部科学省初等中等教育局初等中等教育研究所視学官 さいたま市立教育研究所指導主事 横浜国立大学教授 広島県廿日市市立大野東中学校校長 ノートルダム清心女子大学准教授	宮崎浩志 大森恵美子 高木展郎 門戸千幸 大滝一登	【学校全体のアクションプラン作成コース】			
◎目的：言語活動の充実に向けたカリキュラム等を作成する際の手だてを理解する。		一 国語 一 社会 一 算数・数学 一 理科 一 総合的な学習の時間	文部科学省初等中等教育局教科調査官 文部科学省初等中等教育局教科調査官 文部科学省初等中等教育局教科調査官 国立教育政策研究所学力調査官 文部科学省初等中等教育局教科調査官 愛知教育大学准教授	水戸部修治、富山哲也、西辻正副 寺田 登 水谷尚人 磯部年晃 村山哲哉 久野弘幸	【各教科等での学習指導計画作成コース】			◎目的：言語活動の充実と学校全体や各地域で取り組むために必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法を得る。	
◎目的：言語活動を充実するための方策や指導の工夫などについての知識・方法を得る。									

第3日目

7月29日 (金)	9:00	11:30	12:30	14:00
	9:00	11:30	12:30	14:00
全体会 「コース別演習の発表」	※2日目の演習担当講師	昼休み	研究協議 「研修講師となるために」	閉講式
	◎目的：第2日目のコース別演習での成果を発表し、言語活動の充実方策について理解を深める。		◎2日目の演習担当講師 ※目的：各自が本研修の成果等をもとに、研修講師となるための知見を深める。	

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成23年6月6日（月）～平成23年6月10日（金）					5 日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	220	人	受講者数	218	人	参加率	99.1%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 880 人、 受講者数 922 人、 参加率 104.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	185	84.9	30	13.8	1	0.5	0	0.0	218
		215	98.6							

2. 研修内容に関する主な意見

・全国各地の先生方と情報交換することで、共通の課題が明確になったり、調査官の講義から課題解決の糸口をつかむことができたりと、有意義な研修をすることができた。 ・道徳教育を見つめ直す、いい機会になりました。改めて道徳教育について、推進していかなければならないと思いました。意識を高く持って、先生方に伝えていけたらと思っています。ありがとうございました。 ・日々の校内業務で多忙な中、正直参加には前向きではなかった。しかし、学校を離れ家庭からも離れ、じっくり研修をすることで自分を見つめ、しっかり取り組めた。道徳教育の大切さ、奥の深さを実感できた。自分の研修意欲を高める良い機会となった。 ・指導要領改訂後、道徳が「要」となったという言葉上の理解はできていたが、講演・協議を通じて本質的な理解が深まった。授業づくり・検討を通じて、どのような点に留意すべきか、また指導する立場としてどのような観点で、分析し指導すればよいのかが明確になった。 ・小中高種間の交流、地域間交流ができて、同じ研修を受けながら共通理解ができたことが大変良かった。特に協議を受けた上での演習でのグループでの討議・授業づくりは、心に残る研修となりプラスになった。 ・道徳教育を進めていく上で迷っていた点（特活と道徳の授業の違い・年間を通じての様々な計画の立て方等）について、明確に示していただき理解することができました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・演習 1（小中高合同）および演習 3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直した。 ・事例発表・協議を前半と後半に分け、後半を部会別に行うことで協議を深めやすくした。 ・模擬授業を 4 日目～5 日目の 2 日間にかけて行う。発表時間を 15 分増加した。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選した。
次年度に向けて ・運営面において、演習 1 の進め方を工夫する。 ・研修修了後、受講者による本研修内容を踏まえた研修講師等としての活動や各学校への指導・助言等の活動がより充実するよう、課題協議 5「研修講師となるために」の内容の改善を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）
日程表

第1日目		12:00	12:30	13:00	14:40	15:00	17:00
6月6日 (月)		開講式		休 憩		演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」	
		受 付		休 憩		◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階に応じた指導内容の重点化について課題をもつ	
第2日目		9:00	10:45	12:15	13:15	15:30	17:00
6月7日 (火)		課題協議2 【授業づくりの要点1】 東京学芸大学教授 永田繁雄 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める		休 憩	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 小学校：盛岡市立河北小学校教諭 佐々木善成 中学校：大田市立北三瓶中学校教諭 藤田 良子 特別活動：鳥取市立稲葉山小学校教諭 米井 誠 河野 裕 ◎目的：具体的事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ		課題協議4 「人間としての在り方生き方を考える」 児童文学作家 上條さなえ ◎目的：人間としての在り方生き方を身につめなおし、児童生徒とともにによりよい生き方を求める姿勢を育む
第3日目		9:00	11:30	12:30	14:00	14:15	17:00
6月8日 (水)	小・中・中部会	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり」(協議、「のり」の話し合いあり) 【授業づくりの要点3】 ◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成について理解を深め、課題とその解決策を探る		屋 休 憩	演習3 「道徳の授業づくり(魅力ある教材の選定と活用)」とその評価」 ◎目的：魅力ある教材の開発と活用等、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法及び評価の在り方について理解を深め、課題とその解決策を探る		休 憩
第4日目		9:00	10:15	10:30	12:30	12:30	17:00
6月9日 (木)	高校部会	演習5 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 澤田浩一 ◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深める		屋 休 憩	演習6 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 各教科等における具体的な教材研究・実践」 兵庫教育大学大学院教授 秋山博正 文京学院大学教授 小泉博明 ◎目的：全体計画等の検討を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る		休 憩
第5日目		9:00	12:15	13:15	13:45	15:00	17:00
6月9日 (木)	小・中・中部会	演習4 「子どもたちの心に響く道徳教育の実践Ⅰ－学習指導案の作成・検討－」 ◎目的：「道徳の時間」における学習指導案作成等に取り組むことを通して、創意工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方を学ぶ		屋 休 憩	模範授業・協議1 「子どもたちの心に響く道徳教育の実践Ⅱ－模範授業の発表・協議－」(指導助言者) 町田市立町田第四小学校校長 大原 龍一 足立区立梅島小学校校長 生形 章 馬場 喜久雄 渋谷区立臨川小学校校長 徳満 哲夫 (財)総合初等教育研究所室長 山西 実 東京都教職員研修センター教授 釜川 一義 春日野教育委員会教授 藤村 公三郎 台東区立駒形中学校校長 木村 俊二 相模原市立青少年相談センター嘱託 相模原市立青少年相談センター嘱託 相模原市立青少年相談センター嘱託 相模原市立青少年相談センター嘱託 ◎目的：各分科会ごとに模範授業を行い、「道徳の時間」の授業における創意工夫の在り方等について理解を深める		発表・講評
6月10日 (金)	高校部会	演習7 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 (指導助言者) 兵庫教育大学大学院教授 秋山博正 文京学院大学教授 小泉博明 ◎目的：全体計画の検討および発表を通して、高等学校における道徳教育を充実するための知識・方法を得る。		屋 休 憩	課題協議5 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 赤堀博行 澤田浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め各自が本研修の成果等をまとめる		閉 講 式

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）北海道・東北ブロック						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成23年8月10日（水）～8月12日（金）					3 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	133	人	参加率 ※
開 催 場 所	ホテルライフォート札幌（北海道札幌市）						

※ 全体受講定員 880 人、受講者数 922 人、参加率 104.8%
※ ブロック別 660 人、受講者数 704 人、参加率 106.7%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	99	74.4	34	25.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	133
		133		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・道徳教育及び道徳の授業について、改めて自分の中で整理することができ大変勉強になりました。また道内・東北地方の先生方とも交流でき、いろいろな情報が入ってとても有意義でした。 ・道徳を進めていく上で大切な理論的な裏付けを勉強できたのが良かった。グループ協議では様々な実践や各学校のシステムを学ぶことができ、大変有意義な研修だった。ありがとうございました。 ・これまでいくつかの道徳教育に関する研修会に参加させていただきましたが、なかなか高等学校の実践について詳しく教えていただく機会が少なかったもので、様々な現場の実践例を示していただき、大変有意義でした。ありがとうございました。 ・指導要領解説だけでは十分理解できていなかったことが、今回の研修で実践例や具体例なども踏まえよく分かりました。学んだことを自校に戻り活かしていきたいです。どうもありがとうございました。 ・視点を変えることで、生徒へのアプローチの仕方が変わること気づかされました。もっと学校行事等の意義を大切に、これから生徒に接していこうと思います。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・演習 1（小中高合同）および演習 3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直した。 ・運営面において、演習の内容を充実させるために、質疑の時間を確保した。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選した。
次年度に向けて ・運営面において、演習 1 の進め方を工夫する。 ・研修終了後、受講者による本研修内容を踏まえた研修講師等としての活動や各学校への指導・助言等の活動がより充実するよう、課題協議 4「研修講師となるために」の内容の改善を図る。 ・2 日目小中別部会では、講師による模擬授業を実施し具体的な指導方法について理解する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（北海道・東北ブロック）

日程表

第1日目									
10:00		10:40		12:10		13:10		14:40	
開講式		課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指す」		昼休み		課題協議2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」		休憩	
受付		文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一				國學院大学人間開発学部 教授 宮川 八岐		文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	
8月10日（水）		◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める。				◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する		◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ	
第2日目									
9:00		10:20 10:30		12:00		13:00		14:00 14:10	
小・中学校部会		事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」		演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」		昼休み		演習2 発表・協議	
北海道網走市立白鳥台小学校 教諭 小中 理司 北海道むかわ町立穂別中学校 教諭 細井 護		北海道別海町立上西春別小学校 教頭 古森 康晴 北海道教育庁宗谷教育局 主査 藤田 祐二 北海道むかわ町立穂別中学校 教頭 荒川 歩 北海道厚岸町立真龍中学校 教頭 鳴海 厚		昼休み				演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）とその評価」 北海道別海町立上西春別小学校 教頭 古森 康晴 北海道教育庁宗谷教育局 主査 藤田 祐二 北海道むかわ町立穂別中学校 教頭 荒川 歩 北海道厚岸町立真龍中学校 教頭 鳴海 厚	
8月11日（木）		◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を得る		11:45		12:45		15:50 16:00	
高等学校部会		高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」		事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」		昼休み		演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	
鳴門教育大学 教授 兼松 儀郎		北海道美瑛高等学校 教頭 吉森 光敏		昼休み		鳴門教育大学 教授 兼松 儀郎		発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」	
◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を急ぎ、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る		9:00		10:30 10:45		12:15		15:45 16:00	
第3日目									
9:00		10:30 10:45		12:15		12:30			
課題協議3 「心を育てる道徳教育の具体的展開」		課題協議4 「研修講師となるために」		閉講式					
香川大学教育学部附属教育実践総合センター 教授 七条 正典		文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行							
8月12日（金）		◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める		◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる					

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）関東・甲信越ブロック						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成23年8月 9日(火)～8月11日(木)					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	153	人	参加率
開 催 場 所	栃木県総合文化センター（栃木県宇都宮市）						

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 880 人、受講者数 922 人、参加率 104.8%

※ ブロック別 受講定員 660 人、受講者数 704 人、参加率 106.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	119	77.8	29	19.0	0	0.0	0	0.0	153
		148	96.7							

2. 研修内容に関する主な意見

・どの講義も分かりやすく、印象に残るものでした。講師の方の思い、私達に十分に伝わりました。これから現場で、周りの同僚に伝えていきたいと思えます。 ・現在の立場で、道徳教育について今後指導助言をしていくために、本当に勉強になる機会となった。 ・道徳に関して、いくつか疑問に思っていたことの答えをたくさん教えていただくことができました。また他県の方々の話を聞くことができ、有意義な研修となりました。 ・協議を通して、道徳の知識を深めると共に、道徳推進教師としてやるべきことが分かってきたように思います。また、演習によって、各地域・学校の話なども聞くことで、良い刺激をいただき大変参考になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・演習 1（小中高合同）および演習 3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直した。 ・運営面において、演習の内容を充実させるために、質疑の時間を確保した。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選した。 次年度に向けて ・運営面において、演習 1 の進め方を工夫する。 ・研修修了後、受講者による本研修内容を踏まえた研修講師等としての活動や各学校への指導・助言等の活動がより充実したものとなるよう、課題協議 4「研修講師となるために」の内容の改善を図る。 ・2 日目小中別部会では、講師による模擬授業を実施し具体的な指導方法について理解する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（関東・甲信越ブロック）

日程表

	9:20	10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	15:00	17:00
8月9日（火）		開講式	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指す」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	昼休み	課題協議2 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 東京学芸大学大学院教育学研究科 特任教授 福田富美雄 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 【指導助言】 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ	

	9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	14:00	14:10	15:50	16:00	17:00
小・中学校部会	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて 行う道徳教育の実践と課 題」 大田原市立紫塚小学校 教諭 杉浦 敬子 大田区立馬込東中学校 主幹教諭 佐藤 正敏 教諭 廣澤 和子 教諭 荒井 幸恵	休 憩	演習 2 「道徳教育推進教師を中心とした 協力・指導体制の充実と計画づく り（体験活動、「心のノート」の 生かし方も含めて）」	昼 休 み	発表・協議	演習 3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の 開発と活用を含めて）とその評価」	休 憩	発表・協議		
			【指導助言】 演習 2（小・中合同部会）、演習 3（小・中別部会） 栃木県総合教育センター 指導主事 堀江 賢 [小・中 1 部会、小 A 部会] 栃木県総合教育センター 副主幹 鹿嶋 実 [小・中 2 部会、小 B 部会]							
			栃木県教育委員会事務局・都賀教育事務所 指導主事 清水 仁美 [小・中 3 部会、中 A 部会] 埼玉県羽生市教育委員会 指導主事 寺井 次郎 [小・中 4 部会、中 B 部会]							
受 付	◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を得る									
	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	14:05	14:15	15:45	16:00	17:00
高等学校部会	高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方 に関する教育の展開」 文京学院大学 教授 小泉 博明	休 憩	事例発表・協議 「人間としての在り 方生き方に関する教 育の実践と課題」 山梨県立白川高等学校 教諭 植松 嗣男	昼 休 み	演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行 う人間としての在り方生き方に関 する教育の展開」	演習 3 「人間としての在り方生き方に関 する教育の各教科等における 具体的な教材研究・実践」	休 憩	発表・協議 「高等学校における 人間としての在り方 生き方に関する教育 の充実に向けて」		
			【指導助言】 文京学院大学 教授 小泉 博明							
	◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る									

	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30
8月11日（木）	課題協議3 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	休憩	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式	

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）東海・北陸ブロック					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成23年10月26日（水）～10月28日（金）					3 日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	115	人 参加率 ※
開 催 場 所	ボルファートとやま（富山県富山市）					

※ 全体受講定員 880 人、受講者数 922 人、参加率 104.8%
 ※ ブロック別 660 人、受講者数 704 人、参加率 106.7%
 ※ 受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	91	79.1	24	20.9	0	0.0	0	0.0	115
		115	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・他県の先生方、異校種間の先生方と情報交換でき、貴重な経験でした。また、中央の講師の先生方の講演には、道徳教育の本質を感じることができ、とても勉強になりました。 ・事例研究・演習を通して、道徳教育の重要性・必要性を学ぶことが出来た。また、課題協議では、道徳教育推進教師として、現場でいかに他の先生方に働きかけていこうか考える良い契機となった。 ・今年度の東海・北陸ブロックの研修が、富山で行われたことで、この研修に参加する機会を得る事ができ、本当に幸せであったと感じている。これまで道徳教育の本質を自分がいかに十分理解していなかったかが、よく分かった。この研修で学んだことを若い先生方に、是非伝えていきたいと考えている。 ・課題協議の先生方の講話が大変素晴らしく、目から鱗が落ちたように感じました。自分の勉強不足のせいで、内容が理解できないことがあり、恥ずかしい限りです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・演習 1（小中高合同）および演習 3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直した。 ・運営面において、演習の内容を充実させるために、質疑の時間を確保した。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選した。 次年度に向けて ・運営面において、演習 1 の進め方を工夫する。 ・研修修了後、受講者による本研修内容を踏まえた研修講師等としての活動や各学校への指導・助言等の活動がより充実するよう、課題協議 4「研修講師となるために」の内容の改善を図る。 ・2 日目小中別部会では、講師による模擬授業を実施し具体的な指導方法について理解する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（東海・北陸ブロック）

日程表

第1日目											
10月26日（水）	10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	15:00	17:00				
		開 講 式	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指す」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	小・中 学 校 部 会	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 三重県鈴鹿市立長太小学校 校長 中條 正一 富山市立呉羽中学校 教諭 土肥 真人	休 憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達の段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行				
		受 付		高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ				
第2日目											
10月27日（木）	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:05	14:15	15:55	16:05	17:00	
		課題協議2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋	小・中 学 校 部 会	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」 黒部市立桜井中学校 教頭 金山 努 小矢部市立東部小学校 教頭 塚崎志津江 富山市立堀川小学校 教頭 中井 明彦 射水市立奈古中学校 教頭 亀谷 寿一	休 憩	演習2 発表・協議	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）とその評価」 黒部市立桜井中学校 教頭 金山 努 小矢部市立東部小学校 教頭 塚崎志津江 富山市立堀川小学校 教頭 中井 明彦 射水市立奈古中学校 教頭 亀谷 寿一	休 憩	発表・協議	◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を得る	
		受 付	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を得る	
第3日目											
10月28日（金）	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30	12:45	11:45	12:45	15:45	16:00	17:00
		課題協議3 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 東京学芸大学 教授 永田 繁雄	休 憩	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉 講 式	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	演習2 発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 富山県立水橋高等学校 教諭 安井 孝志	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	休 憩	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる
		受 付	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	高等 学 校 部 会	◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）近畿ブロック						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成23年8月16日(火)～8月18日(木)					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	91	人	参加率
開 催 場 所	春日野荘（奈良県奈良市）						

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 880 人、 受講者数 922 人、 参加率 104.8%
※ ブロック別 受講定員 660 人、 受講者数 704 人、 参加率 106.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	62	68.1	1	1.1	0	0.0	2	2.2	91
		88	96.7							

2. 研修内容に関する主な意見

・他県の先生方とグループになり、課題について話し合うのは、自分の為になりました。これから学校へ帰って、道徳教育を推進していくのですが、その意欲が出る研修になりました。ありがとうございました。 ・「道徳教育」のとらえ方を再確認できたことが大変良かったです。「いい授業をしていきたいなあ」と思えたのでよかったです。そのいい授業のためのたくさんのヒントがあり良かったです。 ・研修前と後では、道徳教育に対する理解が深まりました。中学校での道徳の推進に努力していきたいと思います。 ・講師の先生の話は、先進的なもので、とてもわかりやすく理論的なことが理解しやすかった。演習では、地域がちがい、校種もちがう中で、道徳を同じ様に進める立場として、各校で積極的な取組みを聞かせていただき、これからの取組みに生かせることが見つかった。また、エネルギーをたくさんいただきました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・演習1（小中高合同）および演習3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直した。 ・運営面において、演習の内容を充実させるために、質疑の時間を確保した。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選した。
次年度に向けて ・運営面において、演習1の進め方を工夫する。 ・研修修了後、受講者による本研修内容を踏まえた研修講師等としての活動や各学校への指導・助言等の活動がより充実するよう、課題協議4「研修講師となるために」の内容の改善を図る。 ・2日目小中別部会では、講師による模擬授業を実施し具体的な指導方法について理解する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度道徳教育指導者養成研修（近畿ブロック）

日程表

第1日目

9:00		10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	15:00	17:00
8月16日（火）		受付	開講式	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	昼休み	課題協議2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達の段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

第2日目

9:00		10:20	10:30	12:00	13:00	14:00	14:10	15:50	16:00	17:00
8月17日（水）	受付	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 河合町立河合第三小学校 教諭 宮迫 隆一 城陽市立北城陽中学校 教諭 村田 寿美子	休憩	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」 【指導助言】演習2・3 高崎市立矢中小学校 校長 永井 典代（小中第1部会、小学校A部会） 上牧町立上牧第二中学校 校長 大西 節子（小中第2部会、中学校A部会） 香川県教育センター教育相談課 指導主事 松原 正樹（小中第3部会、小学校B部会） 京都府総合教育センター 指導主事 小林 園（小中第4部会、中学校B部会）	昼休み	演習2 発表・協議	休憩	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）」とその評価」	発表・協議	

◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題・解決策等について知識・方法を得る

9:00		10:30	10:45	11:45	12:45	15:45	16:00	17:00
高等学校部会	高専学校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 広島県教育委員会 播磨 寛宗 指導主事	休憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 奈良県立登美ヶ丘高等学校 教諭 米倉 信岳	昼休み	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 【指導助言】 広島県教育委員会 課長補佐兼道徳教育係長 播磨 寛宗	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の名教科等における具体的な教材研究・実践」	休憩	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」

◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る

第3日目

9:00		10:30	10:45	12:15	12:30
8月18日（木）	受付	課題協議3 「心を育てる道徳教育の具体的な展開」 東京学芸大学大学院教育学研究科（教職大学院） 特任教授 福田 富美雄 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める	休憩	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を養成するため、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）中国・四国ブロック						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成23年8月17日(水)～8月19日(金)					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	115	人	参加率
開 催 場 所	愛媛県民文化会館（愛媛県松山市）						

※ 全体受講定員 880 人、受講者数 922 人、参加率 104.8%
※ ブロック別 660 人、受講者数 704 人、参加率 106.7%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	70	60.9	44	38.3	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	115
		114		99.1										

2. 研修内容に関する主な意見

・今まで指導要領等を読んで理解していたことが、教科調査官やその他の講師の方から直接お話を聞くことで確認できてよかったです。実践発表、演習での他の先生方からいただいた情報も大変参考になりました。 ・他県や他校種の取組状況を知ることにより、本校ですべき内容が明確になりました。本研修で学んだことを勤務校のみならず市等に伝達し、道徳教育のより一層の推進に努めていきたいと思えます。本当にありがとうございました。 ・今回の研修で学んだことを、本市を中心にしっかり還元していきたいと思えます。特に、指導主事として、指導要領解説書に書いてある、一つ一つの言葉の意味をしっかりと把握、解釈し、指導助言に生かしていかなければならないと、仕事の重みを改めて感じました。 ・非常に有益な研修に参加できてありがたく思います。盛り沢山の内容であり、1つ1つ復習し、今後に生かしたいと考えます。ありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・演習1（小中高合同）および演習3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直した。 ・運営面において、演習の内容を充実させるために、質疑の時間を確保した。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選した。
次年度に向けて ・運営面において、演習1の進め方を工夫する。 ・研修修了後、受講者による本研修内容を踏まえた研修講師等としての活動や各学校への指導・助言等の活動がより充実するよう、課題協議4「研修講師となるために」の内容の改善を図る。 ・2日目小中別部会では、講師による模擬授業を実施し具体的な指導方法について理解する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）九州ブロック					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成23年10月31日(月)～11月2日(水)					3日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	97	人 参加率 ※
開 催 場 所	セントヒル長崎（長崎県長崎市）					

※ 全体受講定員 880 人、受講者数 922 人、参加率 104.8%
(全体計画人数)
※ ブロック別 660 人、受講者数 704 人、参加率 106.7%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	85	87.6	12	12.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	97
		97		100.0										

2. 研修内容に関する主な意見

・講義・演習ともに大変勉強になった。特に演習の中で九州各県の先生・異校種の先生方とお話、道徳について学び合うことができたことは、私にとって財産になりそうだ。 ・私は道徳教育は、学級経営と学校経営、さらには、地域に根ざした学校の在り方を確立するために必要なことであると考えている。今回の研修では、その意義をあらためて問い直し、見つめ、発展させるよい機会であった。本研修にたずさわって下さった先生方のご努力に、心より感謝申し上げます。 ・講義一つ一つが全て納得のいくものであり、私の教師としてのスキルアップになるものでした。今後は、推進する立場になるので、日々、「学び」を忘れることなくいきたいと考えている。 ・今まで自分の思いの強い授業づくりや道徳教育を行ってきたが、自校及び地域校の推進を意識し、授業の在り方だけではなく、全教育活動の根幹としての道徳教育への取り組みを深めていきたい。今後情報収集、研究公開等積極的に行っていきたい。すばらしい学びをありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・演習1（小中高合同）および演習3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直した。 ・運営面において、演習の内容を充実させるために、質疑の時間を確保した。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選した。
次年度に向けて ・運営面において、演習1の進め方を工夫する。 ・研修修了後、受講者による本研修内容を踏まえた研修講師等としての活動や各学校への指導・助言等の活動がより充実したものとなるよう、課題協議4「研修講師となるために」の内容の改善を図る。 ・2日目小中別部会では、講師による模擬授業を実施し具体的な指導方法について理解する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（九州ブロック）

日程表

		10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	15:00	17:00
10月31日（月）	受付	開講式	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指す」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	昼休み	課題協議2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋	休憩	演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行	◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

		9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	14:00	14:10	15:50	16:00	17:00
11月1日（火）	受付	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 平戸市立生月小学校 教諭 不寺マキ子 教諭 伊藤 輝昭 時津町立鳴北中学校 教諭 河原 貴子	休憩	演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて）」	昼休み	演習2 発表・協議	休憩	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）とその評価」	発表・協議		
		◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題、解決策について知識・方法を得る									
		高等学校部会 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 広島県教育委員会指導第三課 指導 寛宗 課長補佐兼道徳教育係長 榎磨 寛宗	休憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 熊本県立熊本商業高等学校 教諭 村上 カ人	昼休み	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 【指導助言】 広島県教育委員会 課長補佐兼道徳教育係長 榎磨 寛宗	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」			
		◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画等の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る									

		9:00	10:30	10:45	12:15	12:30
11月2日（水）	受付	課題協議3 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 京都市教育委員会 指導部長 栗原 弘志	休憩	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一	閉講式	
		◎目的：各地域で道徳教育推進教師を養成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる				

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	平成23年度学校教育の情報化指導者養成研修（第1回）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を推進することが重要である。 このため、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において学校教育の情報化に関する研修等の指導者や本研修内容を踏まえた研修講師等として活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成23年11月 8日（火）～平成23年11月11日（金）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	53	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 112 人、 参加率 101.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義						
人数 (人)	割合 (%)	45	84.9	7	13.2	0	0.0	0	53
		52	98.1			1	1.9	0	

2. 研修内容に関する主な意見

・内容・企画・運営も良い印象を受けた。教師と行政・指導主事が混じっている中で、よく工夫されていると感じた。講師の先生方の力量、経験値の良さをものすごく感じた。得るものが多かった。 ・どの講義・演習においても得るものが多くあり、今後の教育の情報化推進に当たって、力を頂けました。現場の児童・生徒と教師にとってプラスになることを第一に考えながら、また少し先を見通しながら、県の情報化を進めてまいります。運営の教員研修センターの先生方には大変お世話になりました。「また来たい!!」と思える4日間でした。 ・4日間、全ての講座が大変意味深いものであり、本当に勉強になりました。今までモヤモヤしか分からなかった事が、ストンと自分の中に落ちてきた感じです。指導主事として今度はこれをOUTPUTする立場です。現場の先生方のため、子ども達のために生きて伝わるOUTPUTをせねばと責任を感じると共に意欲も高まっております。 ・教育の情報化について、中心となって推進されている先生方、また先進的な取り組みを見聞する事ができて本当に勉強になりました。国の施策の目的と現状を知り、全国の様子を理解出来たことは、京都市のこれからの推進を行う上で自信になりました。特に私たちは他の自治体の教員と話す機会が少なく、更に一緒に宿泊できたことが（夜の研修を含め）特に勉強になりました。指導者として自覚を持って取り組んでいきたいと思います。 ・他府県の動向や先進事例、指導主事やセンターの先生方のお話、お考えなど、学ぶことが多く大変有意義でした。他府県とのつながりもでき、ありがたいです。初日夜の情報交換会も、その後の研修を進める上で、非常に安心できるものでした。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・平成23年度から新たに実施した。
次年度に向けて ・海外の先進事例についての講義内容を盛り込む。（教育課題研修指導者海外派遣プログラムの成果活用）

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 学校教育の情報化指導者養成研修（第1回）
日程表

第1日目									
11月8日 〈火〉	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	14:50	17:00	
		受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「新しい時代における教育の情報化」 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇 ◎目的：教育の情報化ビジョンなど学校教育の情報化推進の動向、概論、本研修のねらい等を理解する。	昼休み	講義2 「教育の情報化の推進-「教育の情報化に関する手引」-の理解」 玉川大学教職大学院 教授 堀田 龍也 ◎目的：教育の情報化に関する手引等を踏まえ、ICTを取り入れた特色ある教育課程編成の推進等を理解する。	休憩・移動	演習1 「各地域における学校教育の情報化推進上の成果と課題」 ◎目的：各地域の学校教育の情報化に関する取組を知るとともに、課題を共有する。
	【座席表①】								
第2日目									
11月9日 〈水〉	9:00	12:00	13:00	17:00					
	事例協議 「学校教育の情報化の実践と課題」 尚美学園大学芸術情報学部情報表現学科 教授 小泉 力一 ①「わかる授業」のためのICT活用 大阪府松原市教育委員会 大阪府松原市立布忍小学校 ② 児童生徒の情報活用能力育成 千葉県立袖ヶ浦高等学校 ③ 校務の情報化と情報セキュリティ 熊本県立水俣高等学校 ④ 保護者・地域への広報、説明 東京都足立区立五反野小学校 ◎目的：各学校種における先進事例を通して課題を持つ。	昼休み	講義・演習1 ＜教科別部会＞ 「教科指導におけるICT活用の指導計画作成」 富山大学人間発達科学部 准教授 高橋 純	休憩	部会発表・協議				
	【座席表②】								
第3日目									
11月10日 〈木〉	9:00	12:00	13:00	17:00					
	講義・演習2 ＜学校種別＞ 「情報モラルの指導と情報モラルに係る研修計画作成」 金城学院大学 現代文化学部 情報文化学科 准教授 長谷川 元洋 ◎目的：情報モラルや情報安全に関する指導のあり方を理解し、具体的な研修事例を通して、発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進方策や学校の指導計画への位置づけについて検討する。	昼休み	講義・演習3-1 ＜学校種別＞ 「学校課題解決のためのICT戦略づくり①」 横浜国立大学教育人間科学部 准教授 野中 陽一 ◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等のリーダーシップのもとに教職員が一丸となって取り組む体制をどう構築するかの戦略を考える。	休憩					
	【座席表③】								
第4日目									
11月11日 〈金〉	9:00	11:30	12:00	12:15					
	講義・演習3-2 全体発表・協議 ＜学校種別＞ 「学校課題解決のためのICT戦略づくり②」 横浜国立大学教育人間科学部 准教授 野中 陽一 ◎目的：これまでの演習、協議を踏まえ、学校改革のためのICT活用の戦略について考える。	閉講式	講義3 「研修講師と「なるために」 ◎目的：研修のまとめをし、研修講師となるための力量と意欲を高める。【座席表④】						
	【座席表④】								

I 研修概要

研 修 名	平成23年度学校教育の情報化指導者養成研修（第2回）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	各教科等における効果的な指導方法の開発、校務の効率化や学校経営の改善等を進めるため、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を推進することが重要である。 このため、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成や学校課題解決のためのICT活用戦略づくり等、教育活動の質の改善を円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において学校教育の情報化に関する研修等の指導者や本研修内容を踏まえた研修講師等として活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成24年1月31日（火）～平成24年2月3日（金）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	59	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 112 人、 参加率 101.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	50	6	0	0	3	0	59
割合 (%)	84.7	10.2	0.0	0.0	5.1	0.0	
	56	94.9					

2. 研修内容に関する主な意見

・大変著名な先生方から講義・演習の指導を頂き、実践意欲が高まった。実践的な内容で、すぐに活用できるものが多く、地域の普及活動に生かせるものばかりであった。PCを活用しないで、学校教育の情報化の研修を進められ大変勉強になると共に、実践意欲を高められた。 ・我が国の情報教育をカジ取りしておられる講師の先生方の話をじっくりと聞くことができ、何をすればいいのか、また、自分が何をしなければいけないのか再認識出来ました。また、全国の先生方と実態や課題など、本や資料では分からない面も情報交換でき、改めて自分の市において教育の情報化を推進しなければならないと思いました。 ・全ての研修が大いに参考になった。先進校の取り組みの様子等が分かりとても良かった。また、校種による違いを知ることができたのは、大きな収穫であった。随所に演習が入っていたことがとても良かった。少々ボリュームがあり過ぎたきらいもあったので、もう少し焦点化する方法もあるかもしれないと感じた。 ・4日間で全国的にも有名な先生方からの講話をお聞き出来たことは、国がどのような考えのもと情報化を進めているのかを知ることができ、その中で現場の者がどのようにして推進していくべきなのかご示唆頂いた。また、グループ編成が3回もあったことは、各都道府県の現状課題を知ることができ、大変有意義であった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・平成23年度から新たに実施した。 次年度に向けて ・海外の先進事例についての講義内容を盛り込む。（教育課題研修指導者海外派遣プログラムの成果活用）
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 学校教育の情報化指導者養成研修（第2回）
日程表（案）

第1日目										17:00							
1月31日 〈火〉		9:30		10:00		10:30		12:00		13:00		14:30		14:50		17:00	
		受付		開講式		オリエンテーション		講義1 「新しい時代における教育の情報化」 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇		休み		講義2 「教育の情報化の推進-「教育の情報化に関する手引」-の理解」 玉川大学教職大学院 教授 堀田 龍也		休憩・移動		演習1 「各地域における学校教育の情報化推進上の成果と課題」	
								◎目的：教育の情報化ビジョンなど学校教育の情報化推進の動向、概論、本研修のねらい等を理解する。 【座席表①】				◎目的：教育の情報化に関する手引等を踏まえ、ICTを取り入れた特色ある教育課程編成の推進等を理解する。 【座席表①】				◎目的：各地域の学校教育の情報化に関する取組を知るとともに、課題を共有する。 【座席表②】	
第2日目										17:00							
2月1日 〈水〉		9:00		12:00		13:00		17:00		17:00							
		事例協議 「学校教育の情報化の実践と課題」 尚美学園大学芸術情報学部情報表現学科 教授 小泉 力一		講義・演習1 ＜教科別部会＞ 「教科指導におけるICT活用の指導計画作成」 富山大学人間発達科学部 准教授 高橋 純		休み		休憩		部会発表・協議							
		① 「わかる授業」のためのICT活用 大阪府松原市教育委員会 指導主事 稲垣 久代 教諭 矢野 智史		② 児童生徒の情報活用能力育成 大阪府松原市立布忍小学校 教諭 永野 直		③ 校務の情報化と情報セキュリティ 千葉県立袖ヶ浦高等学校 教諭 永野 直		④ 保護者・地域への広報、説明 熊本県立水俣高等学校 教頭 柿下 耕一		⑤ 目的：各学校種における先行事例を通して課題を持つ。 【座席表②】						◎目的：ICTを効果的に活用した授業改善のあり方を理解する。 【座席表③】	
第3日目										17:00							
2月2日 〈木〉		9:00		12:00		13:00		17:00		17:00							
		講義・演習2 ＜学校種別＞ 「情報モラルの指導と情報モラルに係る研修計画作成」 目白大学社会学部メディア表現学科 教授 原 克彦		講義・演習3-1 ＜学校種別＞ 「学校課題解決のためのICT戦略づくり①」 横浜国立大学教育人間科学部 准教授 野中 陽一		休み		休憩		部会発表・協議							
		◎目的：情報モラルや情報安全に関する指導のあり方を理解し、具体的な研修事例を通して、発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進方策や学校の指導計画への位置づけについて検討する。 【座席表④】		◎目的：教育の情報化による学校課題の解決にICTを生かすため、管理職等のリーダーシップのもとに教職員が一丸となって取り組む体制をどう構築するかの戦略を考える。 【座席表④】													
第4日目										17:00							
2月3日 〈金〉		9:00		11:30		12:00		12:15		17:00		17:00					
		講義・演習3-2 全体発表・協議 ＜学校種別＞ 「学校課題解決のためのICT戦略づくり②」 横浜国立大学教育人間科学部 准教授 野中 陽一		講義3 「研修講師と「研修講師となるために」なるために」 ◎目的：研修のまとめをし、研修講師となるための力量と意欲を高めるとする。 【座席表④】		閉講式											

I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（東部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、英語活動等（外国語活動）を担当する指導主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、児童が意欲的に取り組む活動内容・方法及びその評価等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・小学校及び特別支援学校の教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び小学校における外国語活動推進の指導者として活動を行う者。					
開 催 期 日	平成23年10月31日（月）～平成23年11月2日（水）				3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	127	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 220 人、 受講者数 254 人、 参加率 115.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	113	89.0	14	11.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	127	
		127		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・今年度より事務所の指導主事になり、今回参加の機会をいただきました。研修を受けて外国語活動の主旨がとても理解できました。また自分の指導主事としてやらなければならないこと、またやりたいことがはっきりしました。震災後で大変ではありますが、歩みを止めないで外国語活動の推進に力を尽くします。「言い訳をしない教育活動を！」です。（学校訪問に行った女川町での言葉）
・講師の先生方のお話が、とても具体的で分かりやすく、ためになった。また、他県の様子を聞く事ができ、小学校外国語活動についての視野が広くなり、自分の地域の課題もよく見えてきた。さらにポスターセッションの発表で、今までの内容をさらに具体化していただき、とてもためになった。
・たった3日間でしたが、内容が充実していた為あっという間に3日経ってしまったという感じです。ありがとうございました。今後に活かしていきたいと思います。特にポスターセッションは発見がいっぱいできました。
・英語活動（外国語）等、国際理解活動の推進において、自分の市でどのように研修を企画し立案していくと良いのか、一つの方向性が得られました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・小学校英語の全面施行に伴い生じた課題の解決策を考えるような内容になるよう、①小中連携②校内体制作り③活動内容及び評価の3つの内容で事例発表・演習を行った。
・東部と西部の2ブロックで実施した。
次年度に向けて
・平成24年度より使用される新しい小学校外国語活動教材について講義内容に含める。
・事例発表・演習①小中連携②校内体制作り③活動内容及び評価の3つの内容のうち、①と②を統合して、①小中連携と校内体制作り、②活動内容及び評価の2つに見直しを行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（東部ブロック）日程表

第1日目

10月31日 (月)	9:00	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	17:00
	受付	開講式	課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子	昼休み	演習1 「小学校外国語活動に関する取組状況」 独立行政法人教員研修センター 主幹 佐藤 広幸	休憩	事例発表 「小学校外国語活動の充実に関する取組」 小中連携：大仙市立横堀小学校教諭 田口 倫 大仙市立仙北中学校教諭 鈴木真由美 校内体制：座間市立入谷小学校教頭 直井 恵子 活動内容：八戸市立相崎小学校教諭 日向端 聖	
			◎目的：小学校外国語活動における現状と課題、評価の在り方等について理解する。		◎目的：小学校外国語活動の取組について情報を得ると共に、課題を共有する。 ※班別協議。事前課題で作成した各地域での取組内容と実施に伴う課題を共有し、今後の研修において解決方策を見出し、出ていく。		◎目的：具体的な取組事例を通して、小中連携等、小学校外国語活動の課題に対する解決方策を探る。 ※次のテーマに基づき事例発表 ①効果的な小中連携の在り方 ②効果的な校内研修・校内体制のつくり方 ③意欲的に取り組む活動内容と活動方法及び評価	

第2日目

11月1日 (火)	9:00	9:10	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00
	連絡事項	課題協議2 「小学校外国語活動の留意点」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 京都市教育委員会 A L T 担当主事 教諭 加藤 君江 島根県江津市立渡津小学校	昼休み	演習2 「小学校外国語活動を円滑に進めるための方策①」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 神奈川県座間市立入谷小学校 教頭 直井 恵子 京都市教育委員会 A L T 担当主事 Matthew Hirakawa 島根県江津市立渡津小学校 教諭 加藤 君江	休憩		
		◎目的：小学校外国語活動を行う際の留意点についての理解を深める。 ※担任単独やT Tの授業の視点・ポイントについての講義及び模範授業。		◎目的：小学校外国語活動の推進及び充実のために必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法を探る。 ※演習1において出された課題を解決するとともに、効果的な①小中連携、②校内研修プログラム・校内体制づくり、③活動内容と活動方法及び評価を進めるためには、具体的にはどのような取組が必要か考えてまとめる。			

第3日目

11月2日 (水)	9:00	9:10	12:00	13:00	14:40	15:00	17:00
	連絡事項	演習3 「小学校外国語活動を円滑に進めるための方策②」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 神奈川県座間市立入谷小学校 教頭 直井 恵子 島根県江津市立渡津小学校 教諭 加藤 君江	昼休み	課題協議3 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子	閉講式		
		◎目的：小学校外国語活動の推進及び充実のために必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法を知る。 ※演習2で作成した資料をもとに、ポスターセッション形式で発表をし、その後各班で振り返る。		◎目的：本研修を振り返り、研修成果をまとめる。			

I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（西部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、英語活動等（外国語活動）を担当する指導主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、児童が意欲的に取り組む活動内容・方法及びその評価等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・小学校及び特別支援学校の教諭等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及び小学校における外国語活動推進の指導者として活動を行う者。						
開 催 期 日	平成23年10月5日（水）～平成23年10月7日（金）					3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	127	人	参加率 ※
開 催 場 所	エル・おおさか(大阪府大阪市)						

※ 全体受講定員 220 人、 受講者数 254 人、 参加率 115.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	108	85.0	0	0.0	0	0.0	3	2.4	127
		124	97.6							

2. 研修内容に関する主な意見

・まず一番に思ったことは、全国にこんなに「すごい」先生がおられることを知ることができて良かったということです。また私は中学校籍ですので、小学校の現状や現場の先生方の思いを知ることができたのも、大きな財産となりました。外国語活動を突破口にしながら小中連携を進めるもよし、小中連携のシステムが既にあるという所はぜひ外国語部会を作るなどして、小中共にメリットのある連携ができれば良いと思います。

・小中連携を進めなくては行けないと、形にとらわれ過ぎていました。子供のために、子供の中でつながるよう、しっかり行政として施策をうっていきます。色々な情報も得ることができ、学びの多い研修となりました。ありがとうございました。

・これまで自分の勤務する職場（地域）で課題や疑問となっていた点が、講義や実践発表、そしてポスターセッション等で解決の方向に向かった。今後、自分が職場に戻って何をするべきなのかを認識することも出来た。昨年度までの研修の内容を参加した方からお聞きしたが、外国語活動が本年度から完全実施になり、一歩進んだ研修が今回は実施され、参加できたことに大変感謝している。

・前半の講義等による Input と後半のポスターセッション等の Output がつながり大変学びが多く有意義な3日になりました。ありがとうございました。

・演習がポスターセッションの発表形式だったが、多くの発表を聞いたり、資料を見ながら情報を得たりすることができ、良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・小学校英語の全面施行に伴い生じた課題の解決策を考えるような内容になるよう、①小中連携②校内体制作り③活動内容及び評価の3つの内容で事例発表・演習を行った。
・東部と西部の2ブロックで実施した。
次年度に向けて
・平成24年度より使用される新しい小学校外国語活動教材について講義内容に含める。
・事例発表・演習①小中連携②校内体制作り③活動内容及び評価の3つの内容のうち、①と②を統合して、①小中連携と校内体制作り、②活動内容及び評価の2つに見直しを行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（西部ブロック）日程表

第1日目		9:00		10:00	10:30	12:00		13:00	14:30	14:45	17:00	
10月5日 (水)			受付	開講式	課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子	昼休み	演習1 「小学校外国語活動に関する取組状況」 独立行政法人教員研修センター 主幹 佐藤 広幸	休憩	事例発表 「小学校外国語活動の充実に関する取組」 小中連携：防府市立富海小学校教諭 鳥越 寛子 防府市立富海中学校教諭 虫明美奈子 校内体制：鳴門市立林崎小学校教諭 坂田 美佳 活動内容：宮古島市立平良第一小学校教諭 平良優			
					◎目的：小学校外国語活動における現状と課題、評価の在り方等について理解する。		◎目的：小学校外国語活動の取組について情報を得ると共に、課題を共有する。 ※班別協議。事前課題で作成した各地域での取組内容と実施に伴う課題を共有し、今後の研修において解決方策を見出し、出ていく。		◎目的：具体的な取組事例を通して、小中連携等、小学校外国語活動の課題に対する解決方策を探る。 ※次のテーマに基づき事例発表 ①効果的な小中連携の在り方 ②効果的な校内研修・校内体制のつくり方 ③意欲的に取り組む活動内容と活動方法及び評価			
第2日目		9:00		9:10	12:00		13:00	15:00		15:15	17:00	
10月6日 (木)	連絡事項	課題協議2 「小学校外国語活動の留意点」 文部科学省初等中等教育局教科調査官 直山 木綿子 京都市教育委員会 A L T 担当主事 Matthew Hirakawa 島根県江津市立渡津小学校教諭 加藤 君江			昼休み	演習2 「小学校外国語活動を円滑に進めるための方策①」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 高知県高知市教育研究所 指導主事 田中 美穂 京都市教育委員会 A L T 担当主事 Matthew Hirakawa 島根県江津市立渡津小学校 教諭 加藤 君江			[休憩]			
		◎目的：小学校外国語活動を行う際の留意点について理解を深める。 ※担任単独やT T の授業の視点・ポイントについての講義及び模範授業。				◎目的：小学校外国語活動の推進及び充実のために必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法を探る。 ※演習1において出された課題を解決するとともに、効果的な①小中連携、②校内研修プログラム・校内体制づくり、③活動内容と活動方法及び評価を進めるためには、具体的にはどのような取組が必要か考えてまとめる。						
第3日目		9:00		9:10	12:00		13:00	14:40		15:00		
10月7日 (金)	連絡事項	演習3 「小学校外国語活動を円滑に進めるための方策②」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 高知県高知市教育研究所 指導主事 田中 美穂 島根県江津市立渡津小学校 教諭 加藤 君江			昼休み	課題協議3 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 ◎目的：本研修を振り返り、研修成果をまとめる。			閉講式			
		◎目的：小学校外国語活動の推進及び充実のために必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法を知る。 ※演習2で作成した資料をもとに、ポスターセッション形式で発表をし、その後各班で振り返る。										

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【管理者用コース】						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者。 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭であって、各地域・学校において本研修の成果を活用できる者。						
開 催 期 日	平成23年6月20日（月）～平成23年6月21日（火）					2日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	40	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 110 人、 参加率 100.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	25	62.5	0	0.0	0	0.0	1	2.5	40
		39	97.5							

2. 研修内容に関する主な意見

・日本語指導指導者養成研修に参加することができ、大変有意義な研修であった。この研修で得た資料や成果を本校に持ち帰り日本語指導担当教員と連携し、改善、発展させていきたい。また近隣の学校や市町村にこの研修の成果を伝えていきたいと考える。最後に日本語指導に関して初期対応、組織作り、保護者対応、市教委、他の関係機関との連携・協力等、様々な取り組みに於いて、管理職（教頭）の役割の重要性を改めて痛感した。ありがとうございました。 ・感想ですが、外国籍だから、日本語が話せないから、とくくるのではなく、どの児童生徒にとっても居場所があり、また、学習の機会が平等にあるという視点が大切だと改めて感じました。様々なお話を伺いましたが、どの先生方も、その部分では一貫されていたように感じました。 ・本校の教育が人権教育を根底にもち行ってきたが、これが外国人児童生徒等に対する教育として正しかったと確信をもてる研修であった。日本語を学び、コミュニケーション能力を外国人児童を核として、周りの児童や教員にもつけ、世界の中の一員として育てていきたい。（多文化共生を進めたい。）

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・オリエンテーション及び行政説明の時間を十分確保するため、新たに行政説明を設定した。 ・課題協議2の講義の中で、移民受入れに対する理念、出入国管理、外国人登録、不就学について講義内容に含めた。 ・課題協議1として文部科学省ホームページ（かすたねっと等）の活用についての講義を設定した。 ・日本語能力の測定方法（J S Lバンドスケール以外）を中心として課題協議3の講義内容を変更した。
次年度に向けて ・課題協議3「日本語能力のとらえ方」については、①子どもの言語能力の発達、②日本語能力の測定方法を扱っているが、①に重点を置いた内容に見直す。 ・外国人児童生徒等の受入れ体制について演習の時間を延長する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修
日程表

第1日目

	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:30	14:05	14:20	15:55	16:10	17:00
6月20日 (月)		受付	開講式	間コース共通 行政説明 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の政策について」 文部科学省 国際教育課 課長補佐 関 百合子	課題協議1 「日本語指導を効果的に進めるために」 関西大学 教授 堀 雅洋	昼食	間コース共通 課題協議2 「外国人児童生徒等の現状と課題」 東京学芸大学 教授 吉谷 武志	休憩	間コース共通 課題協議3 「日本語能力のとらえ方」 東京外国語大学 教授 伊東 祐郎	休憩	間コース共通 班別演習1 「情報交換による課題の共有」
				◎目的：外国人児童生徒等の学習を支援する情報検索サイトの活用方法を知る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制や、心理的側面からの支援の在り方等の現状と課題について理解を深める。		◎目的：日本語能力のとらえ方と日本語能力のレベルに応じた指導法を考える。		◎目的：班別に情報交換を行うことで、2日目からの研修に備える。	

第2日目

6月21日 (火)	8:30 8:40	10:55 11:10	12:10 13:20	15:20 15:35	16:35 16:50		
連絡事項	管理者用コース 事例協議 「外国人児童生徒教育の先進的な取組～指導・支援体制における連携と協働～」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本一子 千葉県香取市教育委員会 指導主事 大平 伸一 大阪府大阪市教育委員会 指導主事 近藤 真 愛知県岩倉市立岩倉北小学校 校長 小森 節男 ◎目的：外国人児童生徒の受入れについて、先進的な地域の取組について理解を深める。	班別演習2 「外国人児童生徒等受入体制1」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本一子 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。	昼食	班別演習3 「外国人児童生徒等受入体制2」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本一子 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。	課題協議4 「外国人児童生徒教育における管理者としての役割」 三重県鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次 ◎目的：管理者として外国人児童生徒等を受入れる際の留意事項等について学ぶ。	閉講式	
	日本語指導者両コース共通 10:25 10:40					15:45 16:00	17:00
	課題協議5 「学校における日本語教育プログラム～日本語初期指導から教科指導まで～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	課題協議6 「JSLカリキュラムの基本的な考え方」 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌	昼食	事例協議 「日本語指導の実践事例」 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌 福岡県北九州市立光貞小学校 教諭 三橋 道子 静岡県浜松市立砂丘小学校 教諭 桑原 久子 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 東京都北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子	全体協議 「自主教材についての情報交換」 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌		
	◎目的：日本語指導における課題について解決への糸口を探る。	◎目的：JSLカリキュラムの考え方、使い方について理解を深める。		◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践事例から、日本語指導の授業の効果的な在り方について知識を得る。	◎目的：授業で使用している自主教材を紹介し合うことで、教材の在り方や工夫について考える。		

第3日目

	8:30	8:40	10:10	10:25	12:00	13:00	17:00
6月22日 (水)	日本語初期指導コース 課題協議7 「日本語初期指導の留意点」 波多野ファミリスクール 理事 大蔵 守久						
連絡事項		休憩	班別演習4 「日本語初期指導の実践1」 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花島 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 栃木県宇都宮市立清原東小学校 教諭 黒須 陽子	昼食	班別演習5 「日本語初期指導の実践2」 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花島 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 栃木県宇都宮市立清原東小学校 教諭 黒須 陽子		
事項	◎目的：来日直後の児童生徒に日本語指導を行う際に、工夫すべき点等、より実践的な手法について理解を深める。		◎目的：日本語初期指導についての情報交換及び課題を共有し、授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。		◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成することにより、具体的な日本語初期指導について理解を深める。		
	教科指導実践コース 班別演習6 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」 京都市総合教育センター 研究員 大菅 佐紀子（国語・小） 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔（国語・中） 大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦（算数・数学） 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由起子（社会）						
	◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。			昼食	班別演習7 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」 京都市総合教育センター 研究員 大菅 佐紀子（国語・小） 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔（国語・中） 大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦（算数・数学） 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由起子（社会）		
					◎目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導法を体得する。		

第4日目

	8:30	8:40	12:00	13:00	14:40	15:00
6月23日 (木)	日本語指導者両コース共通 班別演習8 「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花島 健司 栃木県宇都宮市立清原東小学校 教諭 黒須 陽子 京都市総合教育センター 研究員 大菅 佐紀子 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由起子					
連絡事項		昼食	課題協議8 「研修講師となるために」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		閉講式	
事項	◎目的：班別演習での成果をポスターセッション形式で発表し合うことにより、初期指導の授業及びJSLカリキュラムに則った指導法についての理解を深める。		◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。			

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【日本語指導者用コース】					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者。 ・外国人児童生徒等に対する日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各地域・学校において本研修の成果を活用し、外国人児童生徒等の教育の中心的な役割を担うことができる者。					
開 催 期 日	平成23年6月20日（月）～平成23年6月23日（木）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	70	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 110 人、 受講者数 110 人、 参加率 100.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	45	64.3	21	30.0	1	1.4	0	0.0	3	4.3	0	0.0	70	
		66		94.3											

2. 研修内容に関する主な意見

・ 普段計画訪問等で各学校に出向き、特に日本語指導について知識は多少あるものの、理論的背景や実践について、自分の心の中の根となるべきものがないことに不安も覚えていた。今回の研修に参加して、少しでも自信をもって助言等に扱われることに安心を覚えた。担当の先生方、講師の先生方、お世話になりました。ありがとうございました。 ・ これまで自分が指導をしてきた「日本語指導」という職務についての識見が大きく広がるとともに、自分自身のこれまでの指導を省みることができ、とても充実した研修となりました。このような機会を与えてくださった関係者及びセンターの皆様へ感謝しております。ぜひ、現場に生かし、職員の間に広げていけるようにしたいと思います。 ・ 今、喫緊の課題である外国人児童生徒の日本語教育について、現状や取り組む視点、又、先進的な取組や教材の紹介をいただき、大変参考になりました。自分の中の疑問点についても答えをいただいた部分も多く、何をすべきか自信を持てたことが、大変有難かったです。又、全国に同じ志を持った仲間がいることも、この研修を通して実感でき、元気ができました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ オリエンテーション及び行政説明の時間を十分確保するため、新たに行政説明を設定した。 ・ 課題協議2の講義の中で、移民受入れに対する理念、出入国管理、外国人登録、不就学について講義内容に含めた。 ・ 課題協議1として文部科学省ホームページ（かすたねっと等）の活用についての講義を設定した。 ・ 日本語能力の測定方法（J S Lバンドスケール以外）を中心として課題協議3の講義内容を変更した。
次年度に向けて ・ 課題協議3「日本語能力のとらえ方」については、①子どもの言語能力の発達、②日本語能力の測定方法を扱っているが、①に重点を置いた内容に見直す。 ・ 事例協議の時間を延長し事例発表者への質疑応答の時間を十分確保する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修
日 程 表

第1日目

	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:30	14:05	14:20	15:55	16:10	17:00
6月20日 (月)		受 付	開 講 式	両コース共通 行政説明 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の政策について」 文部科学省 国際教育課 課長補佐 関 百合子	課題協議1 「日本語指導を効果的に進めるために」 関西大学 教授 堀 雅洋	昼 食	両コース共通 課題協議2 「外国人児童生徒等の現状と課題」	休 憩	両コース共通 課題協議3 「日本語能力のとらえ方」 東京外国語大学 教授 伊東 祐郎	休 憩	両コース共通 班別演習1 「情報交換による課題の共有」
				◎目的：外国人児童生徒等の学習を支援する情報検索サイトの活用方法を知る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制や、心理的側面からの支援の在り方等の現状と課題について理解を深める。			◎目的：日本語能力のとらえ方と日本語能力のレベルに応じた指導法を考える。		◎目的：班別に情報交換を行うことで、2日目からの研修に備える。

第2日目

6月21日 (火)	8:30 8:40	10:55 11:10	12:10 13:20	15:20 15:35	16:35 16:50	
連絡事項	管理者用コース 事例協議 「外国人児童生徒教育の先進的な取組～指導・支援体制における連携と協働～」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本一子 千葉県香取市教育委員会 指導主事 大平 伸一 大阪府大阪市教育委員会 指導主事 近藤 真 愛知県岩倉市立岩倉北小学校 校長 小森 節男 ◎目的：外国人児童生徒の受入れについて、先進的な地域の取組について理解を深める。	班別演習2 「外国人児童生徒等受入体制1」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本一子 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。	昼食	班別演習3 「外国人児童生徒等受入体制2」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本一子 ◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。	課題協議4 「外国人児童生徒教育における管理者としての役割」 三重県鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次 ◎目的：管理者として外国人児童生徒等を受入れる際の留意事項等について学ぶ。	閉講式
	日本語指導者両コース共通			15:45 16:00		17:00
	課題協議5 「学校における日本語教育プログラム～日本語初期指導から教科指導まで～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	課題協議6 「JSLカリキュラムの基本的な考え方」 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌	昼食	事例協議 「日本語指導の実践事例」 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌 福岡県北九州市立光貞小学校 教諭 三橋 道子 静岡県浜松市立砂丘小学校 教諭 桑原 久子 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 東京都北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子	全体協議 「自主教材についての情報交換」 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌	
	◎目的：日本語指導における課題について解決への糸口を探る。	◎目的：JSLカリキュラムの考え方、使い方について理解を深める。		◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践事例から、日本語指導の授業の効果的な在り方について知識を得る。	◎目的：授業で使用している自主教材を紹介し合うことで、教材の在り方や工夫について考える。	

第3日目

	8:30	8:40	10:10	10:25	12:00	13:00	17:00
6月22日 (水)	日本語初期指導コース 課題協議7 「日本語初期指導の留意点」 波多野ファミリススクール 理事 大蔵 守久						
連絡事項			休 憩	班別演習4 「日本語初期指導の実践1」 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花島 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 栃木県宇都宮市立清原東小学校 教諭 黒須 陽子	昼 食	班別演習5 「日本語初期指導の実践2」 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花島 健司 愛知県豊橋市教育委員会 相談員 築樋 博子 栃木県宇都宮市立清原東小学校 教諭 黒須 陽子	
事項	◎目的：来日直後の児童生徒に日本語指導を行う際に、工夫すべき点等、より実践的な手法について理解を深める。		◎目的：日本語初期指導についての情報交換及び課題を共有し、授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。		◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成することにより、具体的な日本語初期指導について理解を深める。		
	教科指導実践コース 班別演習6 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」 京都市総合教育センター 研究員 大菅 佐紀子（国語・小） 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔（国語・中） 大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦（算数・数学） 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由起子（社会）						
	◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。				◎目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導法を体得する。		

第4日目

	8:30	8:40	12:00	13:00	14:40	15:00
6月23日 (木)	日本語指導者両コース共通 班別演習8 「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 山梨県甲府市立新田小学校 教諭 今澤 悌 東京都江戸川区立一之江小学校 教諭 花島 健司 栃木県宇都宮市立清原東小学校 教諭 黒須 陽子 京都市総合教育センター 研究員 大菅 佐紀子 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 大泉町立東小学校 教諭 市川 昭彦 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由起子					
連絡事項			昼 食	課題協議8 「研修講師となるために」 東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	閉 講 式	
事項	◎目的：班別演習での成果をポスターセッション形式で発表し合うことにより、初期指導の授業及びJSLカリキュラムに則った指導法についての理解を深める。			◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。		

※日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	生徒指導指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	各都道府県、指定都市及び中核市において生徒指導を担当する指導主事及び教諭に対し、全国的かつ緊急に対応が必要ないじめ・不登校等の問題行動や、児童虐待等の生徒指導上の今日的諸課題について、最新の知見や全国的動向、研究成果、対応方策に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の生徒指導を担当する指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成23年 6月23日（木）～平成23年 7月 8日（金）					16日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	116	人	参加率	105.5%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	101	87.1	15	12.9	0	0.0	116
		116	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・各専門分野の第一人者の方々による講義の数々は、通常の業務では聞くことができない、大変貴重な時間であったと感激しております。 ・長時間にわたる先生方の講義では、分かり易く事例をまじえて説明していただいたおかげで、とても参考になりました。 ・もう少し時間が欲しいと感じる講義がいくつかありました。ただ、本当に今回の研修で多くのことを勉強させて頂きました。今後、十分に生かしていきたいと思っております。 ・このような長期研修は初めてで不安もありましたが、充実した研修を受けることができ、大変良かったと思っております。講師の先生方は素晴らしい方ばかりで、話の内容はわかりやすく、示唆に富むものばかりでした。この研修で得たことを、地域の先生方に成果を活用していきたいと思います。 ・全てが今一番、指導の取組で悩んでいたところでした。また、講師の方の事例や対応法など非常に勉強になりました。本当に有意義な研修でした。 ・虐待とネット遊びの話が、地方では知らなかった話だったので、とても参考になりました。 ・大変有意義な研修を受けることができました。自分の一生の財産として、今後も頑張っていこうと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・文部科学省からの指導のもと、喫緊の課題である「自殺予防教育」「児童虐待」の問題をプログラムに新たに組み入れた。 次年度に向けて ・未然防止の視点を強めるために、「教育課程と生徒指導」をプログラムに新たに組み入れる。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度生徒指導指導者養成研修日程表

独立行政法人教員研修センター

< 日程と講座内容 >

期 日			曜	8:30	9:30	9:45	12:15	13:30	16:15	17:00
1	6月23日	木		受 付 (9:30～9:50)	開講式 (10:00～10:20) 教員研修センター	オリエンテーション① (10:30～11:45)	特別講義 (13:00～14:30) 神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマ ネージャー兼総監督 平尾誠二	生徒指導上の 諸問題への対応 (14:45～16:15) 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課	班別協議 (打ち合わせ①) (16:30～17:00)	
2	6月24日	金		オリエンテー ション②	生徒指導の在り方 (9:45～12:00) 文教大学教授 松田素行		自殺予防と生徒指導 (13:15～14:30) 下関市教育委員会理事 中馬好行	児童虐待への対応 (14:45～16:00) 立命館大学教授 野田正人	班別協議 (打ち合わせ②) (16:30～17:00)	
3	6月25日	土								
4	6月26日	日								
5	6月27日	月	事例協議① (グループ)	生徒指導事例研究(1) 1班(小) 奈良教育大学大学院教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 東京理科大学教職課程指導室講師 清水井一 4班(中) 杉並区立天沼中学校校長 藤川 章 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇			生徒指導事例研究(2) 1班(小) 奈良教育大学大学院教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 東京理科大学教職課程指導室講師 清水井一 4班(中) 杉並区立天沼中学校校長 藤川 章 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇			
6	6月28日	火	事例協議② (グループ)	生徒指導事例研究(3) 1班(小) 奈良教育大学大学院教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 東京理科大学教職課程指導室講師 清水井一 4班(中) 杉並区立天沼中学校校長 藤川 章 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇			生徒指導事例研究(4) 1班(小) 奈良教育大学大学院教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 東京理科大学教職課程指導室講師 清水井一 4班(中) 杉並区立天沼中学校校長 藤川 章 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇			
7	6月29日	水	事例協議③ (グループ)	望ましい学級集団づくり 早稲田大学教授 河村茂雄			望ましい学級集団づくり 早稲田大学教授 河村茂雄		事例協議④ (グループ)	
8	6月30日	木	事例協議⑤ (グループ)	生徒指導と心の教育 大阪教育大学名誉教授 藤永芳純			特別支援教育の理解と生徒指導 FR教育臨床研究所長 花輪敏男		オリエンテー ション③	
9	7月1日	金	課題①討議 (グループ 合同グループ)	不登校児童生徒への指導と課題 開善塾教育相談研究所長 金澤純三			不登校の理解と保護者対応 早稲田大学教授 菅野 純		課題①討議 (班)	
10	7月2日	土								
11	7月3日	日								
12	7月4日	月	課題②討議 (グループ 合同グループ)	生徒指導と法 弁護士 清水幹裕			生徒指導と危機管理 群馬県立女子大学講師 飯野真幸		課題②討議 (班)	
13	7月5日	火	課題③討議 (グループ 合同グループ)	いじめ問題の理解とその対応① 広島大学大学院教授 栗原慎二			いじめ問題の理解とその対応② 奈良教育大学大学院教授 池島徳大		課題③討議 (班)	
14	7月6日	水	全体課題討議 (グループ 合同グループ)	情報モラルの理解と対応 NPO青少年メディア研究協会 理事長 下田博次			選択	性・薬物に関わる非行への対応 京都大学准教授 木原雅子 学校教育相談の在り方 文教大学教授 柳生和男	全体課題討議 (班)	
15	7月7日	木	オリエンテー ション④ 発表準備	研修成果の発表 指導助言 文教大学教授 松田素行			指導講評・総括講義 文教大学教授 松田素行		振り返り 選択共有協議 (合同グループ)	
16	7月8日	金	班別協議 オリエンテー ション⑤	特別講義 鶴工房代表 小川三夫		閉講式 (11:30～11:50)				

I 研修概要

研 修 名	人権教育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するための必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの人権教育担当者並びにそれに準じる者（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者（人権教育の指導的立場を担う者））							
開 催 期 日	平成23年7月25日（月）～平成23年7月27日（水）					3日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	110	人	受講者数	120	人	参加率	109.1%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	88	73.3	32	26.7	0	0.0	0	0.0	120
		120	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・講義と演習がバランスよく組まれており、「人権教育の在り方」「人権教育の指導方法の在り方」そして他に伝えていくことの重要性を実感することができました。ありがとうございました。
・初日から3日目までの演習の班編成が同じメンバーであるのは良かったです。何でもそうですが、人間関係が築かれてこそ、より高い目標にむけてがんばれると思いました。
・第3次とりまとめ作成の中心だった講師の方々から直接お話を伺うことができてたくさんのことを学ぶことができました。班の演習を通して、全国の指導主事の方々よりたくさんの視点をいただきました。今後の研修企画運営にいかしていきたいです。
・人権教育が国連や国の施策等の裏付けにより実施できていることが確認できた。また三次とりまとめが国連が進もうとしている方向とも合致していることがわかった。人権教育の重要性を再認識した。
・事前から個人が課題をもって研修に参加できたことは、研修中を通してその課題を探究していくことになりました。基本的に班で演習できたことも、県によって全く実態が違う中で、どう整理していくのか、考えていくことができました。
・自分で感じたり、気づいたり、理解していくような研修の内容であり、とても有意義でした。
・アクティビティ、ワークショップ形式が多く、自身にとっては知識が深められて良かったです。参加・演習形式の研修をこれからも多用してほしいと思います。
・研修講師となるために自分に課せられた使命がよく理解できた。校内・地域に貢献できるようにしたいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・1日目の課題協議1を延長し、講義の時間を十分とれるようにした。
・演習等の時間が短いというアンケートの意見を考慮し、演習の開始時間を前倒して時間を確保した。
・研修の流れがスムーズになるよう、初日の事例発表についてはコース別演習の課題に対応するような内容の学校等を選定した。
次年度に向けて
・アンケート結果を踏まえ、文部科学省の行政説明の時間を十分確保する。
・受講者が作成した事前課題が生かされるような演習の進め方に改善する。
・3日目の演習全体発表後の講師講評については、講師より細かな評価、指導がおこなえるよう十分な時間を確保する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度人権教育指導者養成研修
日程表

第1日目		9:20		9:50	10:30	12:20	13:20	14:30	14:45	17:15
7月25日 (月)	開講式・行政説明		課題協議・演習 「国内外の動きと学校における人権教育－「人権教育の推進に関する取組状況の調査結果について」等を踏まえて－」		昼休み		休憩		事例発表・協議 「人権教育推進上の課題と改善策等について－「人権教育の指導方法等の在り方について」[第三次とりまとめ]」等を踏まえて－」 (事例発表) 福岡県教育庁教育課副人権・同和教育課参事兼課長 小川 節 広島県東広島市立八重東小学校 野田 淳 大阪府立佐野高等学校教諭 野田 淳	
	受付									
第2日目		8:30	9:00	12:00	13:00	17:00		休憩 グループ発表・協議		
7月26日 (火)	演習の進め方・演習について		「学校における人権教育の改善・充実について－「人権教育の指導方法等の在り方について」[第三次とりまとめ]」等を踏まえて－」 (課題) A 効果的な教職員向け研修プログラム等作成について B 学校としての組織的な取組と関係機関等との連携について C 児童生徒の人権に関する知的理解を深め、人権感覚を育成するための指導内容・方法の工夫について		昼休み					
			◎目的：各テーマにおける現状と課題について協議を深めるとともに、人権教育を推進するための資料（研修成果を活かすための資料）を作成し、改善・改善策等に関する知識・方法を修得する		【指導助言者】 A：東京都教育庁指導部指導企画課人権教育指導班統括指導主事 神山 直子 B：帝京科学大学子ども学部教授 有村 久春 C：（小）東京学芸大学教育学部准教授 林 尚示 （中・高）上越教育大学大学院学校教育学系教授 梅野 正信					
第3日目		9:00	11:00	11:15	12:15	12:30				
7月27日 (水)	演習 「学校における人権教育の改善・充実について－全体発表・協議・まとめ－」 東京都教育庁指導部指導企画課人権教育指導班統括指導主事 神山 直子 東京学芸大学教育学部准教授 林 尚示 上越教育大学大学院学校教育学系教授 梅野 正信		課題協議 「研修講師となったために」 文部科学省初等中等教育局視学官 三好 仁司		閉講式					
	◎目的：研修成果の全体を理解するとともに、演習成果の活かし方について理解を深める。		◎目的：人権教育についての理解を深め、本研修の成果等をまとめる。		◎目的：人権教育の先進的な取組を知るとともに、各地域の取組を共有することで、演習に向けて課題を明確化する。					

I 研修概要

研 修 名	平成23年度キャリア教育指導者養成研修（東部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者。 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及びキャリア教育推進の指導者としての活動を行う者						
開 催 期 日	平成23年6月13日（月）～平成23年6月17日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	121	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 220 人、 受講者数 250 人、 参加率 113.6%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	100	82.6	20	16.5	0	0.0	0	0.0	1	0.8	0	0.0	121
		120		99.2										

2. 研修内容に関する主な意見

・キャリア教育について、答申や書籍などを読んで学んでいたつもりであったが、本研修で自分が誤ってとらえていたこと、見落としていたことに気づくことができました。学校現場は、もっとその傾向が強いと思うので、自分が担当地域・県で、キャリア教育について正しく広めていきたいと思います。講師の先生方からは、キャリア教育の重要性を伝えることばを、そして推進するエネルギーをいただきました。本研修で知り合った方々と協力して、研修成果を実践にかえていきます。ありがとうございました。
・連携という大きな柱を中心に5日間系統立てた内容で、充実した研修であった。最新の情報、最高な講師陣に大変満足しております。藤田調査官はじめ、研修センターのスタッフの皆様へ感謝申し上げます。震災の中、これまでにない不安の中での研修参加でしたが、初日の徹底した危機管理に安心して受講することができました。
・5日間のプログラムは、全体としてよく系統性がとれていたと思う。なかなかこれだけの連続性のある研修は、計画実施できないのではないかとと思っている。学んだことはしっかり地元に戻って還元したい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ 受講者のニーズを反映し、後半2日間に経営コースと推進コースを設定した。 キャリア教育の理解を深めるために前半の3コマを同じタイトルとし、連続を持たせる講義設定とした。 新たに個別指導の講義を設け、生徒変化の捉え方、個別評価についての理解を深めることとした。
次年度に向けて ・平成23年12月9日「キャリア教育における外部人材等に関する調査研究協力者会議」（文部科学省）報告書を踏まえ、企業関係者からの講義を新設。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 キャリア教育指導者養成研修（東部ブロック） 日 程 表

第1日目

	10:00	10:30	12:30	13:30	17:30
6月13日	開 講 式	課題協議 「キャリア教育の現状と課題」 講師 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之	昼 休 み	課題協議・事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて1～発達段階に応じたキャリア教育の在り方～」 講師 労働政策研究・研修機構 主任研究員 下村 英雄 事例発表 大阪市立東都島小学校 校長 川本 隆史 飯田市立飯田西中学校 教諭 今井 栄浩 長崎県立川棚高等学校 教諭 坂本 豊樹	

第2日目

	9:00	11:45	12:45	17:00
6月14日	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて2～地域社会と学校の連携推進のために～」 ○小学校部会 久留米市教育委員会指導主事 四ヶ所 清隆 つくば市立荃崎第二小学校 教諭 赤木 洋子 ○中学校部会 新潟大学 教授 松井 賢二 横須賀市立馬堀中学校 総括教諭 松永 信行 ○高等学校部会 広島県教育委員会 指導主事 高橋 義尚 岩手県教育委員会 指導主事 伊藤 俊也	昼 休 み	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて3～校種間連携の方策～」 【小中連携】 講師 上越教育大学 准教授 白木 みどり 事例発表 静岡市教育委員会 指導主事 大石 純詩 【中高連携】 講師 お茶の水女子大学 准教授 望月 由起 事例発表 高知県立高知南中学・高等学校 教諭 田中 修一	

第3日目

	9:00	10:30	10:45	17:00
6月15日	課題協議 「キャリアカウンセリングの基盤としてのコミュニケーションスキルの向上」 講師 立教大学 特任教授 渡辺 三枝子	休 憩	演習 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 講師 埼玉県ふじみ野市立大井中学校 教頭 堀川 博基 東京都墨田区立寺島中学校 教諭 佐藤 学	

第4日目

	9:00	11:50	12:50	14:45	15:00	17:00
6月16日	事例発表・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 講師 東京都荒川区立諏訪台中学校 校長 清水 隆彦	昼 休 み	事例発表・課題協議 「地域や行政との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 講師 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 連携支援係長 長田 徹 事例発表 千葉県教育委員会 主査 鈴木 大介 事例発表 スクール・アドバンス・ネットワーク(S.A. Net) 理事長 生重 幸恵	休 憩	課題協議 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 講師 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之	
推進コース						
	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	17:00
	課題協議 「キャリア教育により身につける力」 講師 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之	休 憩	演習 「各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」 講師 千葉商科大学 教授 鹿島 研之助	昼 休 み		

第5日目

	9:00	11:45	12:45	15:15	15:30
6月17日	経営コース 演習 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 講師 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 連携支援係長 長田 徹	両コース共通	課題協議 「研修講師となるために」 講師 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之 福岡教育大学 准教授 西山 久子 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 連携支援係長 長田 徹	閉 講 式	
	推進コース 9:00 課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」 講師 福岡教育大学 准教授 西山 久子				

I 研修概要

研 修 名	平成23年度キャリア教育指導者養成研修（西部ブロック）									
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ									
研 修 目 的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て、キャリア教育の評価・改善方策について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。									
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者。 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師及びキャリア教育推進の指導者としての活動を行う者									
開 催 期 日	平成23年8月1日（月）～平成23年8月5日							5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	129	人	参加率	※		
開 催 場 所	大阪国際会議場（大阪府大阪市）									

※ 全体受講定員 220 人、 受講者数 250 人、 参加率 113.6%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	105	81.4	20	15.5	2	1.6	0	0.0	2	1.6	0	0.0	129
		125		96.9										

2. 研修内容に関する主な意見

・5日間集中して学ぶことができ、しかも多くの地域から思いを同じにしている方々が多数いることに勇気をもらいました。まだまだ未熟ですが、自分のできることを探し出し、研修で経験したことを少しでも多くの方々に伝えていけたらと思います。藤田先生が毎朝出向えのあいさつをされている姿をみて、これぞキャリア教育の実践と感じました。
・課題意識をもちつつも、日頃はじっくり取り組むことができなかったことが5日間で解決の策をたくさん見い出すことができました。又、多くの情報交換の場もあり、有意義でした。このような機会に恵まれることは少ないですが、又別の課題解決にむけ参加したいと思っています。ありがとうございました。
・5日間を大変役にたいて過ごさせていただいた。今、国内で最高レベルの講師陣による研修を受けることができ、本当に恵まれていると感じた。今回の研修の成果を、今後の教育委員会での施策や指導に生かしていきたい。御準備いただいた教員研修センターの皆様、研修がスムーズに流れるよう、資料、用具の準備、講師の接待等、きめ細かくお心配りをいただき、ありがとうございました。研修の準備等の参考になりました。
・今回の一番の学びは、キャリア教育に対する基本的内容を理解できた事です。資料等で学ぶのでは限界がありますが、各地域の先生方や主事の方々と様々な視点で検討しあう事によって、自分の足りていない面を再認識し、改善への対策に生かしていける手応えを感じています。小学校ではなかなかキャリア教育の声が現場から聞かれないのが今の実状と思いますが、学校の教育課程を見直すとともに、整理・改善していくために啓発していこうと思います。
・昨年度の3月まで小学校に在籍していたが、勤務校においては正直なところキャリア教育については、ほとんど進んでなかった。ここに来るまでの約4ヶ月間でキャリア教育について自分で学び、この5日間でようやく（遅いのかもしれないが）キャリア教育の全体像をイメージ理解できやっとスタート地点にたった感がある。これを市に持ち帰り、各学校に広げ、実のあるキャリア教育を進めていくことには、正直なところ、時間と労力が必要である。しかし現代社会、今の子どもたちがおかれている状況、将来子どもたちがおかれるであろう状況をしっかりと伝え、キャリア教育の必要性を訴えていくとともに、計画的、意図的、系統的に進めていけるよう、今日の研修で学んだことを活用していきたいと考えている。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ 受講者のニーズを反映し、後半2日間に経営コースと推進コースを設定した キャリア教育の理解を深めるために前半の3コマを同じタイトルとし、連続を持たせる講義設定とした。 新たに個別指導の講義を設け、生徒変化の捉え方、個別評価についての理解を深めることとした。
次年度に向けて ・平成23年12月9日「キャリア教育における外部人材等に関する調査研究協力者会議」（文部科学省）報告書を踏まえ、企業関係者からの講義を新設。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 キャリア教育指導者養成研修（西部ブロック） 日 程 表

第1日目

	10:00	10:30	12:30	13:30	17:30
8月1日	開 講 式	課題協議 「キャリア教育の現状と課題」 講師 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之	昼 休 み	課題協議・事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて1～発達段階に応じたキャリア教育の在り方～」 講師 日本キャリア教育学会 会長 菊池 武尨 事例発表 大阪市立東都島小学校 校長 川本 隆史 飯田市立飯田西中学校 教諭 名子 晃 長崎県立川棚高等学校 教諭 坂本 豊樹	

第2日目

	9:00	11:45	12:45	17:00
8月2日	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて2～地域社会と学校の連携推進のために～」 ○小学校部会 久留米市教育委員会 指導主事 四ヶ所 清隆 堺市立西陶器小学校 教諭 清水 順子 ○中学校部会 新潟大学 教授 松井 賢二 横須賀市立久里浜中学校 教諭 河野 和代 ○高等学校部会 広島県教育委員会 指導主事 高橋 義尚 岩手県教育委員会 指導主事 伊藤 俊也	昼 休 み	事例発表・協議 「キャリア教育における縦の連携と横の連携の強化に向けて3～校種間連携の方策～」 【小中連携】 講師 上越教育大学 准教授 白木 みどり 事例発表 静岡市教育委員会 指導主事 大石 純詩 【中高連携】 講師 お茶の水女子大学 准教授 望月 由起 事例発表 高知県立高知南中学・高等学校 教諭 田中 修一	

第3日目

	9:00	10:30	10:45	17:00
8月3日	課題協議 「キャリアカウンセリングの基盤としてのコミュニケーションスキルの向上」 講師 追手門学院大学 教授 三川 俊樹	休 憩	演習 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 講師 東京都墨田区立寺島中学校 教諭 佐藤 学 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之	

第4日目

	9:00	11:50	12:50	14:45	15:00	17:00
8月4日	経営コース 事例発表・演習 「学校における教育活動全体を通じて行うキャリア教育の展開方策」 講師 東京都荒川区立諏訪台中学校 校長 清水 隆彦	昼 休 み	事例発表・課題協議 「地域や行政との協力体制の構築とキャリア教育の創造」 講師 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 連携支援係長 長田 徹 事例発表 千葉県教育委員会 主査 鈴木 大介 事例発表 スカール・アドバンス・ネットワーク(S.A. Net) 副理事長 井上 尚子	休 憩	課題協議 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 講師 関西大学 教授 川崎 友嗣	
	推進コース 9:00 10:30 10:45 11:45 12:45 17:00					
	課題協議 「キャリア教育により身につける力」 講師 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之	休 憩	演習 「各教科を中心とした効果的なキャリア教育の進め方」 講師 千葉商科大学 教授 鹿島 研之助			

第5日目

	経営コース	両コース共通	12:45	15:15	15:30
8月5日	9:00 11:45 演習 「PDCAサイクルを踏まえた指導計画等の評価・改善手法」 講師 関西大学 教授 川崎 友嗣 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 連携支援係長 長田 徹	昼 休 み	課題協議 「研修講師となるために」 講師 文部科学省児童生徒課 生徒指導調査官 藤田 晃之 関西大学 教授 川崎 友嗣 福岡教育大学 准教授 西山 久子 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 連携支援係長 長田 徹	閉 講 式	
	推進コース 9:00 課題協議 「個別的な支援・指導の在り方」 講師 福岡教育大学 准教授 西山 久子				

I 研修概要

研 修 名	教育相談指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	各都道府県、指定都市及び中核市において教育相談を担当する指導主事及び教諭に対し相談体制の充実等の教育相談における今日的諸課題について高度な見識を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等での教育相談研修を受講修了した者、又それに相当する資質を備えた指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。							
開 催 期 日	平成23年 9月13日（火）～平成23年 9月16日（金）					4日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	60	人	受講者数	61	人	参加率	101.7%
開 催 場 所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	51	10	0	0	0	0	61
割合 (%)	83.6	16.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	61	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・講師の先生方の見識、全国の日本の教育を背負っていく先生方のやる気、そして、本センターの先生方のお世話に感謝申し上げます。 ・素晴らしい講師のお話が聞けて、とても満足でした。 ・研修内容をはじめ、他府県の先生方との情報交換など、教師としての資質の向上につながる大変有意義なものでした。今後の実践に生かしていきたいと思います。 ・講座の様子をデジカメで撮影しすぐにPC上にアップするというのは素晴らしいと思います。また、各回のオリエンテーションも工夫されていて、とても良かったです。勉強になりました。 ・生徒指導を中心やってきた私にとって、3年前の養成研修でこれからの生徒指導には教育相談が必要と教わり手探りでやってきたことが、今回の研修で理論的にも繋がりそうです。生徒部畑の先生方にも積極的に「教育相談」の研修を受けて欲しいと思います。私にとっては、大変有難い研修でした。 ・特別支援教育担当として、現在生徒指導、教育相談と関連させて現場の先生方にご理解していただくことが大切だと感じています。理論面の講義も、実践発表、演習も私にとっては大変役立つものばかりでした。 ・教育相談については、それ程専門的な知識・経験ありませんが、本県の事業担当者ということで参加させていただきました。子どもたちがたくましく自立できるように、私たちの関わり方について深く学ぶことができました。「リーダーとして」という部分は難しさもありますが、子どもたちのためにと思いを新たにしました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
次年度に向けて ・研修2日目における「教育相談と危機管理」をより充実させるために、講義時間を拡大する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度教育相談指導者養成研修日程

平成23年9月13日(火)～平成23年9月16日(金) 3泊4日 会場:教員研修センター

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
第1日		受付	開講式	講義 「生徒指導における教育相談の役割」 ～効果的な校内相談体制を通して～ 文教大学 教授 柳生 和男	屋食・休憩	事例演習1 「教育相談体制の見直し」 ～実践発表と協議～ 袖ヶ浦市立奈良輪小学校 木更津市立木更津第二中学校 宮崎県立宮崎南高等学校 東京都立王子第二特別支援学校 文教大学 教授							安藤富士男 村田 貴史 永田 俊文 稗田 知子 柳生 和男			オリエンテーション	諸連絡
第2日	オリエンテーション	事例演習2 「教育相談と危機管理(1)」 ～事前課題に関する協議等～ 文教大学 教授 柳生 和男			屋食・休憩	事例演習2 「教育相談と危機管理(2)」 ～演習成果の発表～ 文教大学 教授 柳生 和男								講義 「教育相談体制をよりよくする ために」 文教大学 教授 柳生 和男			諸連絡
第3日	講義、演習 「教育相談を効果的に推進するために(1)」 広島大学大学院 教授 栗原 慎二				屋食・休憩	講義、演習 「教育相談を効果的に推進するために(2)」 ～家族からの支援を通して～ 広島大学大学院 教授 栗原 慎二											諸連絡
第4日	講義 「教育相談のリーダーとなるために」 杉並区立天沼中学校長 藤川 章				閉講式												

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力向上指導者養成研修（西部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	子どもの体力が低い水準で推移していることや運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向を示していることなどの指摘を受け、各学校においては、体育の授業をはじめとした学校教育活動全体を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるなど、子どもの運動意欲を高める取組が求められている。本研修では、運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成を図るなど、調和のとれた子どもの体力向上を図るための手法を修得し、各地域における研修講師、各学校への指導・助言を行う指導者等の育成をねらいとしている。						
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教諭等であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成23年5月10日（火）～平成23年5月13日（金）					4 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	288	人	参加率
開 催 場 所	島根県民会館（島根県松江市）他						

※ 全体受講定員 190 人、受講者数 288 人、参加率 151.6%
(全体計画人数)

定員については、東部・西部合わせて380人であるが、東日本大震災の影響により東部開催中止のため、西部のみの定員（190人）とした。

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	216	75.0	60	20.8	0	0.0	0	0.0	10	3.5	2	0.7	288	
		276		95.8											

2. 研修内容に関する主な意見

・できない子をできるようにするための手立てだけでなく、子どもの意欲や安心感をもたせる学習のあり方も学ぶことができた。指導と評価の一体化については、提案授業を通して子どもの目線から体感でき、評価の大切さを実感することができた。

・実技研修となると、とにかく技術指導のみにとらわれがちであるが、今回の研修では、遊びの要素を用いて体を動かすことを通して、体力向上を図るための今後の指導のヒントをたくさん学ぶことができて、非常に実り多い研修であった。

・今回の研修を通じて小・中・高の系統的な学習の大切さや子どもたちのつまづきがどこで起きるのかも含めて考えることができた。所属の学校種のみならず他の学校種の教材に触れることや、考えることができてとてもよい機会となった。

・学習指導要領の改訂のポイントがよく理解できた。運動の楽しさを味わわせることで日常的な運動習慣につながり、体力の向上に結び付くことが再認識できた。

・「研修講師となるために」の時間においては、グループワークを通して研修内容のポイントを整理することができた。各種研修講師や助言者等の指導者として、本研修で取り上げられた内容等を伝え、広めていきたいと感じた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

・発達段階をふまえて小中高を見通した体力向上の取組を進めるため、全ての学校種の指導内容を共有できる研修内容（部会編成）とするともに、指導者養成研修の観点からブロック数および定員数の見直しを行った。

・全体講義において、研修日程全体及びそのつながりについて説明を行う中で、各講義・演習の関連性をより意識付けるための配慮をした。

・事前課題として受講者が作成する「単元計画構造図」について、作成の意図、活用の意義について理解を深める時間の増を図った。

・震災の影響により東部ブロックの開催を中止としたが、西部ブロックにおいて、東部ブロック関係都道府県より各2名以内（指定都市を含む地域については、1名を追加可能）で受講者の受け入れを行った。

次年度に向けて

・「研修講師となるために」および全体会の部会別発表について、内容、時間配分の改善を図る。

・児童・生徒の発達段階に応じて事前課題として作成する単元計画構造図について、研修後の効果的な活用が図れるよう、より平易なものに改善を図る。

・引き続き、教科学習を中心として運動の楽しさや面白さなどを味わうとともに、運動意欲の向上が図られるような研修内容を更に検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成23年度 子どもの体力向上指導者養成研修西部ブロック 日程

		12:00	12:30	12:50	13:00	14:00	17:00
5月10日(火)		受付		開講式		全体会	部会・コース別演習
						「子どもの体力向上を図るための指導者の役割」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官	研究協議 「体力向上に向けた取組の工夫について」 ・運動の習慣化に向けた取組及び事前課題に関する班別協議

		9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
5月11日(水)		部会・コース別演習1		昼・休憩		部会・コース別演習2	
						「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」 (演習・協議)

		9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
5月12日(木)		部会・コース別演習3		昼・休憩		部会・コース別演習4	
						「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方②」 (演習・協議)

		9:00	10:30	12:30	13:30	15:00
5月13日(金)		部会・コース別演習		昼・休憩		全体会
						「体力の向上に向けた取組の工夫について」 ・部会別演習の発表
						閉講式

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修 健康（推進）コース（東部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成23年11月7日（月）～平成23年11月9日（水）				3日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	84	人
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 720 人、受講者数 742 人、参加率 103.1%
(全体計画人数)
※ 健康コース 330 人、受講者数 322 人、参加率 97.6%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	59	70.2	22	26.2	0	0.0	0	0.0	2	2.4	1	1.2	84
		81		96.4										

2. 研修内容に関する主な意見

- ・講義・演習内容が精選されており、視点や目的を理解した上で、研修を進めることが出来た。今後の課題を見つけることもできて、大変有意義な研修になりました。
- ・指導主事、養護教諭であるたくさんの先生方との情報交換により、それぞれの立場からの見方・考え方をお聞きする事ができました。素晴らしい講師の先生方のお話を聞かせて頂くことができて、今後ますます深めていき、子ども達に返していきたい思いが強まりました。
- ・保健主事として自分がおかれている意味や役割が認識出来た。また、どの様に組織の中で動いていけば良いかを理解し、実践していこうと思った。
- ・児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応では、専門医より、具体例を用いた大変分かり易い講義で、心、体、能のそれぞれの発達の問題などを理解できました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・学校健康教育（健康コース, 食育コース, 学校安全コース）の各コースを相互に関連付けて学ぶ視点を盛り込んだ講義を新設した。
・東日本大震災への対応として、子どもの心のケアに関する講義を新設した。
・健康教育推進のためには、異なる教科や職種を越えて連携することが必要であり、部会の内容について改善を図った。（保健教育部会（←保健学習部会）、学校保健マネジメント部会（←保健主事マネジメント部会））
次年度に向けて
・健康（推進）コースと健康（専門）コースを4日間の日程で一本化し、研修内容の整理を行う。
・受講者に研修全体の概要を十分に理解してもらうとともに、指導者養成研修である旨の意識付けを更に高めてもらえるような研修内容とする必要がある。
・健康教育全般に関する課題意識を持ち、所属部会以外の内容についても学ぶことができるよう、各部会のポイントとなる講義を全体会において行うことを検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度健康教育指導者養成研修 健康コース（東部ブロック）日程表

第1日目														
11月7日 〔月〕	両コース共通	受付	開講式	9:20	10:00	10:20	11:10	11:30	11:40	12:30	13:30	14:20	14:30	17:00
				講義 1		講義 2		講義 3		講義 4		講義・演習 1-1		
				学校における健康教育の現代的課題		放射能を正しく理解するために		健康教育の充実の在り方及び研修の進め方		子どもの心のケアのために		①保健教育の在り方		
				文部科学省初等中等教育局視学官 三好 仁司		文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課長補佐(新)環境衛生専門官 丸山 克彦		文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 教科調査官 森 良一		文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 健康教育調査官 岩崎 信子		◎目的：班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 国立大学法人北海道教育大学教育学部教授 渡部 基 生活習慣病 栃木県宇都宮市教育委員会学校健康課係長 横嶋 剛 感 染 症 国立大学法人宇都宮大学名誉教授 和唐 正勝 栃木県鹿沼市立北押原中学校教頭 酒井 邦夫		
				◎目的：健康教育全般における各分野のポイントを理解するとともに現代的課題について考える		◎目的：福島第一原子力発電所の事故から、これまでの国の対応等について、基本的な考え方を理解する		◎目的：健康教育の充実のため、現状と課題、意識・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する		◎目的：災害や事件・事故発生時における子どもの心のケア及びその体制づくり、危機発生時における健康観察の進め方や対処方法等について理解を深める		◎目的：学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織作りについて学ぶ 国立大学法人筑波大学大学院教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会副主幹 吉田 朋幸		
												◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ 京都大学大学院教授 十一 元三		

第2日目									
9:00		12:00			13:00			17:00	
講義・演習 1-2					講義・演習 1-3				
①保健教育の在り方 ◎目的：班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 生活習慣病 国立大学法人北海道教育大学教育学部教授 渡部 基 栃木県宇都宮市教育委員会学校健康課係長 横嶋 剛 感 染 症 国立大学法人宇都宮大学名誉教授 和唐 正勝 栃木県鹿沼市立北押原中学校教頭 酒井 邦夫 ②学校保健マネジメント ◎目的：学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織作りについて学ぶ 国立大学法人筑波大学大学院教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会副主幹 吉田 朋幸 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスの理解と教職員による健康観察の重要性について学ぶ 豊郷病院/京都大学大学院医学研究科精神医学分野 藤村 さや香					①保健教育の在り方 ◎目的：班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 生活習慣病 国立大学法人北海道教育大学教育学部教授 渡部 基 栃木県宇都宮市教育委員会学校健康課係長 横嶋 剛 感 染 症 国立大学法人宇都宮大学名誉教授 和唐 正勝 栃木県鹿沼市立北押原中学校教頭 酒井 邦夫 ②学校保健マネジメント ◎目的：学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織作りについて学ぶ 国立大学法人筑波大学大学院教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会副主幹 吉田 朋幸 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ I 栃木県真岡市立亀山小学校教頭 青山 直己 II 川崎市立生田小学校校長 矢野 君江 III 十文字学園女子大学非常勤講師 松野 智子 IV 鳥取県立鳥取東高等学校養護教諭 西尾 美由紀				
屋食・休憩					屋食・休憩				
部会別演習					部会別演習				
受 付					受 付				
両コース共通					両コース共通				
11月8日(火)					11月8日(火)				

第3日目												
		9:00		12:00		13:00		15:00		17:00		
11月9日 （水）	両コース共通	受付	発表・事例研究				講義・演習2					
			①保健教育の在り方 ◎目的：課題別演習の成果発表を通して、保健教育について理解を深める 国立大学法人北海道教育大学教育学部教授 渡部 基 生活習慣病 栃木県宇都宮市教育委員会学校健康課係長 横嶋 剛				推進 コース	研修講師となるために 【推進コース：全体講義・演習】 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課教科調査官 森 良一				推進 開 講 式
			感 染 症 国立大学法人宇都宮大学名誉教授 和唐 正勝 栃木県鹿沼市立北押原中学校教頭 酒井 邦夫					◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる				
			②学校保健マネジメント ◎目的：部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制についての理解を深める 筑波大学大学院教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会副主幹 吉田 朋幸									
			③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的：事例検討を通じて、児童生徒の理解及び支援方法について理解を深める 【小学校】名古屋教育委員会指導主事 山口 純枝 【中学校】FR教育臨床研究所所長 花輪 敏男 【高校】岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 佐藤 一也				昼食・ 休憩	専門 コース	講義・演習2 14:55 15:05 学校・家庭・地域社会との連携の充実 【①児童虐待への対応】 【②学校保健委員会の実際】 長野県松本児童相談所 所長 山本 京子 名古屋学芸大学 教授 栗女 智津江			
◎目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める												

第4日目							
		9:00		12:00	13:00	17:00	
11月10日(木)	専門コース	受付	講義・演習3－1		昼食・休憩	講義・演習3－2	
			学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院准教授　木原　雅子			個別の課題を抱える児童生徒に対する指導の在り方 京都大学大学院准教授　木原　雅子	
			◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える			◎目的：心身の健康に関する個別の課題に対応した指導の在り方について理解を深める	

第5日目											
		9:00			12:00		13:00		15:00		
11月11日 (金)	専門コース	受付	講義・演習 4				昼食・休憩	講義・演習 5			専門講師コース
			学校における感染症対策の在り方					研修講師となるために 【専門コース：全体講義・演習】			
			国立感染症研究所 感染症情報センター主任研究官 安井 良則					文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育部調査官 岩崎 信子			
◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える				◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる							

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修 健康（推進）コース（西部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成23年12月5日（月）～平成23年12月7日（水）					3日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	80	人 参加率 ※
開 催 場 所	アクロス福岡（福岡県福岡市）					

※ 全体受講定員 720 人、受講者数 742 人、参加率 103.1%
(全体計画人数)
※ 健康コース 330 人、受講者数 322 人、参加率 97.6%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	62	77.5	18	22.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	80	
		80		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・ 3日間内容の濃い研修会で大変勉強になりました。講義だけでなく演習を織り込むことで、より理解を深められました。また、色々な校種や立場の先生方と意見を交わす事で事例検討の中身もとても深まり参考になりました。
・ 部会別の演習では、小・中・高の異校種が集まり、現在の課題を色々な視点で考える事が出来た。また、違った角度から（校種を踏まえて）改善策についても深く論議され、とても有意義でした。特に、改善策については、学校保健委員会がいかに活性化していくか。そのための保健主事の関わり方（マネジメント）について理解を深めることが出来た。
・ 他県の先生方、しかも養護教諭や管理職・教諭・指導主事と、立場が異なる先生方と意見を交流しながら、研修を深めることが出来たことが一番の収穫でした。子ども達が抱える症状やその分析・対応の仕方についても知識を整理することが出来ました。
・ 健康に関する諸問題を学習指導要領改訂の趣旨や内容を踏まえながら、どの様に指導していくかじっくりと考える事が出来た有意義な3日間でした。今後、保健学習として学ぶこと、保健指導で学ぶことを明確にし、しかも連携のある保健教育が学校を全体を通じて実践できるようにしていきたいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・ 学校健康教育（健康コース, 食育コース, 学校安全コース）の各コースを相互に関連付けて学ぶ視点を盛り込んだ講義を新設した。
・ 東日本大震災への対応として、子どもの心のケアに関する講義を新設した。
・ 健康教育推進のためには、異なる教科や職種を越えて連携することが必要であり、部会の内容について改善を図った。（保健教育部会（←保健学習部会）、学校保健マネジメント部会（←保健主事マネジメント部会））
次年度に向けて
・ 健康（推進）コースと健康（専門）コースを4日間の日程で一本化し、研修内容の整理を行う。
・ 受講者に研修全体の概要を十分に理解してもらうとともに、指導者養成研修である旨の意識付けを更に高めてもらえるような研修内容とする必要がある。
・ 健康教育全般に関する課題意識を持ち、所属部会以外の内容についても学ぶことができるよう、各部会のポイントとなる講義を全体会において行うことを検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成23年度健康教育指導者養成研修 健康コース（西部ブロック）日程表

第1日目

	9:20	10:00	10:20	11:10	11:30	11:40	12:30	13:30	14:20	14:30	17:00
12月5日	両コース共通	受付	開講式	講義1 学校における健康教育の現代的課題 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教育課程企画室長 梶山 正司 ◎目的：健康教育全般における各分野のポイントを理解するとともに現代的課題について考える	講義2 放射能を正しく理解するために 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育部課長補佐（併）環境衛生専門官 丸山 充彦 ◎目的：福島第一原子力発電所の事故から、これまでの国の対応等について、基本的な考え方を理解する	講義3 健康教育の充実の在り方及び研修の進め方 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育部 教科調査官 森 良一 ◎目的：健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する	昼食・休憩	講義4 子どもの心のケアのために 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育部 健康教育調査官 岩崎 信子 ◎目的：災害や事件・事故発生時における子どもの心のケア及びその体制づくり、危機発生時における健康観察の進め方や対処方法等について理解を深める	休憩	部会別演習	講義・演習1-1 ①保健教育の在り方 ◎目的：班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 聖心女子大学文学部教授 植田 誠治 京都市教育委員会首席指導主事 奥村 耕三 喫煙・飲酒・薬物乱用 国立大学法人金沢大学教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校教頭 丸山 洋生 ②学校保健マネジメント ◎目的：学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学教授 畑 攻 福島県教育庁会津教育事務所指導主事 高橋 伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ 京都大学大学院教授 十一 元三

第2日目

	9:00	12:00	13:00	17:00
12月6日	両コース共通	受付	部会別演習	部会別演習
講義・演習1-2	①保健教育の在り方 ◎目的：班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 聖心女子大学文学部教授 植田 誠治 京都市教育委員会首席指導主事 奥村 耕三 喫煙・飲酒・薬物乱用 国立大学法人金沢大学教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校教頭 丸山 洋生 ②学校保健マネジメント ◎目的：学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学教授 畑 攻 福島県教育庁会津教育事務所指導主事 高橋 伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスの理解と教職員による健康観察の重要性について学ぶ 豊郷病院/京都大学大学院医学研究科精神医学分野 義村 さや香		講義・演習1-3 ①保健教育の在り方 ◎目的：班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 聖心女子大学文学部教授 植田 誠治 京都市教育委員会首席指導主事 奥村 耕三 喫煙・飲酒・薬物乱用 国立大学法人金沢大学教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校教頭 丸山 洋生 ②学校保健マネジメント ◎目的：学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学教授 畑 攻 福島県教育庁会津教育事務所指導主事 高橋 伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ I 鳥根豊典出雲町立三沢小学校教頭 菊尾 玲子 II 高知県佐川町立斗賀野小学校教頭 中野 靖子 III 沖縄県那覇市立重慶小学校校長 下地 京子 IV 兵庫県立姫路聴覚特別支援学校教頭 西村 恵子	

第3日目

	9:00	12:00	13:00	15:00	17:00
12月7日	両コース共通	受付	発表	発表	発表
発表・事例研究	①保健教育の在り方 ◎目的：課題別演習の成果発表を通じて、保健教育について理解を深める 心の健康 聖心女子大学文学部教授 植田 誠治 京都市教育委員会首席指導主事 奥村 耕三 喫煙・飲酒・薬物乱用 国立大学法人金沢大学教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校教頭 丸山 洋生 ②学校保健マネジメント ◎目的：部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制についての理解を深める 日本女子体育大学教授 畑 攻 福島県教育庁会津教育事務所指導主事 高橋 伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的：事例検討を通じて、児童生徒の理解及び支援方法について理解を深める 【小学校】滋賀県心の教育相談センターチーフカウンセラー 生天目 聖子 【中学校】高知県心の教育センター指導主事 大城 由美 【高校】FR教育臨床研究所所長 花輪 敏男		推進コース 講義・演習2 研修講師となるために 【推進コース：全体講義・演習】 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育部教科調査官 森 良一 ◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる	専門コース 講義・演習2 学校・家庭・地域社会との連携の充実 【①児童虐待への対応】 国立大学法人大阪教育大学 教授 岡本 正子 【②学校保健委員会の実際】 名古屋学芸大学 教授 栗女 智津江 ◎目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める	

第4日目

	9:00	12:00	13:00	17:00
12月8日	専門コース	受付	昼食・休憩	昼食・休憩
講義・演習3-1	学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院准教授 木原 雅子 ◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える		講義・演習3-2 個別の課題を抱える児童生徒に対する指導の在り方 京都大学大学院准教授 木原 雅子 ◎目的：心身の健康に関する個別の課題に対応した指導の在り方について理解を深める	

第5日目

	9:00	12:00	13:00	15:00
12月9日	専門コース	受付	昼食・休憩	専門閉講式
講義・演習4	学校における感染症対策の在り方 国立感染症研究所 感染症情報センター主任研究官 安井 良則 ◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える		講義・演習5 研修講師となるために 【専門コース：全体講義・演習】 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育部健康教育部調査官 岩崎 信子 ◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる	

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修 健康（専門）コース（東部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。						
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成23年11月7日（月）～平成23年11月11日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	98	人	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 720 人、受講者数 742人、参加率 103.1%
 ※ 健康コース 330 人、受講者数 322 人、参加率 97.6%
 ※ 受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	84	13	0	0	0	1	98
割合 (%)	85.7	13.3	0.0	0.0	0.0	1.0	
	97	99.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・研修内容と方法につきましては、初日の全体構想に関わる講義から、課題・まとめと系統だった流れがあり、取りくみやすくかつ徐々にステップアップしていることを意識しながら研修を受けることができました。今後は、学校保健マネジメントの理論に基づき、自分の役割りと組織の土台作りを意識しながら、学校保健活動を進めていきたいと考えます。

・全国レベルの研修をうけることができ、とても得るものが多くありました。健康教育に対する意識が大きくかわりました。今後も、子どものために、学び続けていきたいと思ひます。

・講義と演習のバランスが程良く、研修講師を意識した上で、資料を十分に用意していただけたのは、とても良かったです。

・健康教育について、広い視野で考える良い機会となりました。学んだことを多くの先生方に活用していただけるよう、しっかり伝えていきたいと思ひます。

・感染症対策の具体的なポイントについて再確認できました。また、インフルエンザ等発生時の対応について、あるべき校内体制を学校現場へアドバイスしていきたいと思ひます。

・研修内容の充実はもちろんのこと、他県の先生方と意見の交流ができてよかったです。各講義で質問の時間が少しとれたらよかったです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・学校健康教育（健康コース、食育コース、学校安全コース）の各コースを相互に関連付けて学ぶ視点を盛り込んだ講義を新設した。
- ・東日本大震災への対応として、子どもの心のケアに関する講義を新設した。
- ・健康教育推進のためには、異なる教科や職種を越えて連携することが必要であり、部会の内容について改善を図った。（保健教育部会（←保健学習部会）、学校保健マネジメント部会（←保健主事マネジメント部会））
- ・「学校における性に関する指導の在り方」について見直しを行うとともに、新たに「個別の課題をかかえる児童生徒に対する指導の在り方」に関する講義・演習を新設した。

次年度に向けて

- ・健康（推進）コースと健康（専門）コースを4日間の日程で一本化し、研修内容の整理を行う。
- ・受講者に研修全体の概要を十分に理解してもらうとともに、指導者養成研修である旨の意識付けを更に高めてもらえるような研修内容とする必要がある。
- ・健康教育全般に関する課題意識を持ち、所属部会以外の内容についても学ぶことができるよう、各部会のポイントとなる講義を全体会において行うことを検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおひ

平成23年度健康教育指導者養成研修 健康コース（東部ブロック）日程表

第1日目														
11月7日 〔月〕	両コース共通	受付	開講式	9:20	10:00	10:20	11:10	11:30	11:40	12:30	13:30	14:20	14:30	17:00
				講義 1		講義 2		講義 3		講義 4		講義・演習 1-1		
				学校における健康教育の現代的課題		放射能を正しく理解するために		健康教育の充実の在り方及び研修の進め方		子どもの心のケアのために		①保健教育の在り方		
				文部科学省初等中等教育局視学官 三好 仁司		文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課課長補佐(新)環境衛生専門官 丸山 克彦		文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 教科調査官 森 良一		文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 健康教育調査官 岩崎 信子		◎目的：班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 国立大学法人北海道教育大学教育学部教授 渡部 基 生活習慣病 栃木県宇都宮市教育委員会学校健康課係長 横嶋 剛 感 染 症 国立大学法人宇都宮大学名誉教授 和唐 正勝 栃木県鹿沼市立北押原中学校教頭 酒井 邦夫		
										昼食・休憩		◎目的：学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織づくりについて学ぶ 国立大学法人筑波大学大学院教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会副主幹 吉田 朋幸		
												◎目的：災害や事件・事故発生時における子どもの心のケア及びその体制づくり、危機発生時における健康観察の進め方や対処方法等について理解を深める 京都大学大学院教授 十一 元三		

第2日目									
11月8日 〔火〕	両コース共通	受付	部会別演習	9:00	12:00	13:00	17:00		
				講義・演習 1-2		講義・演習 1-3			
				①保健教育の在り方		①保健教育の在り方			
				◎目的：班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ		◎目的：班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ			
				生活習慣病 国立大学法人北海道教育大学教育学部教授 渡部 基 栃木県宇都宮市教育委員会学校健康課係長 横嶋 剛		生活習慣病 国立大学法人北海道教育大学教育学部教授 渡部 基 栃木県宇都宮市教育委員会学校健康課係長 横嶋 剛			
				感 染 症 国立大学法人宇都宮大学名誉教授 和唐 正勝 栃木県鹿沼市立北押原中学校教頭 酒井 邦夫		感 染 症 国立大学法人宇都宮大学名誉教授 和唐 正勝 栃木県鹿沼市立北押原中学校教頭 酒井 邦夫			
昼食・休憩	部会別演習	②学校保健マネジメント		②学校保健マネジメント					
		◎目的：学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織づくりについて学ぶ		◎目的：学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織づくりについて学ぶ					
		国立大学法人筑波大学大学院教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会副主幹 吉田 朋幸		国立大学法人筑波大学大学院教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会副主幹 吉田 朋幸					
		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応					
◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスの理解と教職員による健康観察の重要性について学ぶ		◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ							
豊郷病院/京都大学大学院医学研究科精神医学分野 藤村 さや香		Ⅰ 栃木県真岡市立亀山小学校教頭 青山 直己 Ⅱ 川崎市立生田小学校校長 矢野 君江 Ⅲ 十文字学園女子大学非常勤講師 松野 智子 Ⅳ 鳥取県立鳥取東高等学校養護教諭 西尾 美由紀							

第3日目											
		9:00		12:00		13:00		15:00		17:00	
11月9日 （水）	両コース共通	受付	発表・事例研究				推進コース		推進閉講式		
			①保健教育の在り方 ◎目的：課題別演習の成果発表を通して、保健教育について理解を深める 国立大学法人北海道教育大学教育学部教授 渡部 基 生活習慣病 栃木県宇都宮市教育委員会学校健康課係長 横嶋剛				講義・演習2 研修講師となるために 【推進コース：全体講義・演習】 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課教科調査官 森 良一				
			感 染 症 国立大学法人宇都宮大学名誉教授 和唐 正勝 栃木県鹿沼市立北押原中学校教頭 酒井 邦夫				◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる				
			②学校保健マネジメント ◎目的：部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制についての理解を深める 筑波大学大学院教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会副主幹 吉田 朋幸				専門コース		14:55 15:05 講義・演習2 学校・家庭・地域社会との連携の充実 【①児童虐待への対応】 長野県松本児童相談所 所長 山本 京子		
			③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的：事例検討を通じて、児童生徒の理解及び支援方法について理解を深める 【小学校】名古屋学芸大学指導主事 山口 純枝 【中学校】FR教育臨床研究所所長 花輪 敏男 【高校】岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 佐藤 一也				休憩		【②学校保健委員会の実際】 名古屋学芸大学 教授 栗女 智津江		
				昼食・休憩		◎目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める					

第4日目						
11月10日(木)	専門コース	受付	9:00	12:00	13:00	17:00
			講義・演習3－1		講義・演習3－2	
			学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院准教授　木原　雅子		個別の課題を抱える児童生徒に対する指導の在り方 京都大学大学院准教授　木原　雅子	
			◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える		◎目的：心身の健康に関する個別の課題に対応した指導の在り方について理解を深める	

第5日目											
		9:00			12:00		13:00		15:00		
11月11日 (金)	専門コース	受付	講義・演習 4			昼食・休憩	講義・演習 5			専門閉講式	
			学校における感染症対策の在り方				研修講師となるために 〔専門コース：全体講義・演習〕				
			国立感染症研究所 感染症情報センター主任研究官 安井 良則				文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育部調査官 岩崎 信子				
			◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える						◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる		

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修 健康（専門）コース（西部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。						
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成23年12月5日（月）～平成23年12月9日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	60	人	参加率
開 催 場 所	アクロス福岡（福岡県福岡市）						

※ 全体受講定員（全体計画人数） 720 人、受講者数 742 人、参加率 103.1%

※ 健康コース受講定員 330 人、受講者数 322 人、参加率 97.6%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	41	68.3	16	26.7	0	0.0	0	0.0	60
		57	95.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・特に「学校保健マネジメント」部会において、講師先生の指導力は大変感銘しました。演習はとても充実していてポイントに的確な助言をして頂き、演習する為の手立て・マネジメントを指導して頂きました。全体的な内容についても目標設定され、意見も書ける項目もあり、大変学ぶものが多かったと思います。これを現場に帰って、必ず生かしていきたいと考えています。 ・学習指導要領の読み込みの大切さが良く分かりました。自分が保健学習に関わっていく場合に、是非今回の研修を生かし、全ての子どもが理解できるようにと考えていきたいです。 ・新しい知識や全国の先生との出会い、素晴らしい講師の方々に囲まれ研修できたことを嬉しく思います。現場に戻ってやらなければならない課題が山積みですが、知り合えた先生たちと共に1つずつ取り組んでいきたいと思っています。 ・性に関する指導を行う上で、今の生徒の現状を理解することが重要である。また、性の問題行動のある生徒には自己肯定感が低いことから、命の教育の必要性を感じる。 ・感染症発生時、どの様に動いていくか、時系列で考えるとそれぞれの役割が明確に出来良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・学校健康教育（健康コース、食育コース、学校安全コース）の各コースを相互に関連付けて学ぶ視点を盛り込んだ講義を新設した。 ・東日本大震災への対応として、子どもの心のケアに関する講義を新設した。 ・健康教育推進のためには、異なる教科や職種を越えて連携することが必要であり、部会の内容について改善を図った。（保健教育部会（←保健学習部会）、学校保健マネジメント部会（←保健主事マネジメント部会）） ・「学校における性に関する指導の在り方」について見直しを行うとともに、新たに「個別の課題をかかえる児童生徒に対する指導の在り方」に関する講義・演習を新設した。 次年度に向けて ・健康（推進）コースと健康（専門）コースを4日間の日程で一本化し、研修内容の整理を行う。 ・受講者に研修全体の概要を十分に理解してもらうとともに、指導者養成研修である旨の意識付けを更に高めてもらえるような研修内容とする必要がある。 ・健康教育全般に関する課題意識を持ち、所属部会以外の内容についても学ぶことができるよう、各部会のポイントとなる講義を全体会において行うことを検討する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度健康教育指導者養成研修 健康コース（西部ブロック）日程表

第1日目

	9:20	10:00	10:20	11:10	11:30	11:40	12:30	13:30	14:20	14:30	17:00
12月5日	両コース共通	受付	開講式	講義1 学校における健康教育の現代的課題 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教育課程企画室長 梶山 正司 ◎目的：健康教育全般における各分野のポイントを理解するとともに現代的課題について考える	講義2 放射能を正しく理解するために 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育部課長補佐（併）環境衛生専門官 丸山 充彦 ◎目的：福島第一原子力発電所の事故から、これまでの国の対応等について、基本的な考え方を理解する	講義3 健康教育の充実の在り方及び研修の進め方 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育部 教科調査官 森 良一 ◎目的：健康教育の充実のため、現状と課題、意義・目的を踏まえた研修のねらい並びに本研修の全般的構成について理解する	昼食・休憩	講義4 子どもの心のケアのために 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育部 健康教育調査官 岩崎 信子 ◎目的：災害や事件・事故発生時における子どもの心のケア及びその体制づくり、危機発生時における健康観察の進め方や対処方法等について理解を深める	休憩	部会別演習	講義・演習1-1 ①保健教育の在り方 ◎目的：班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 聖心女子大学文学部教授 植田 誠治 京都市教育委員会首席指導主事 奥村 耕三 喫煙・飲酒・薬物乱用 国立大学法人金沢大学教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校教頭 丸山 洋生 ②学校保健マネジメント ◎目的：学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学教授 畑 攻 福島県教育庁会津教育事務所指導主事 高橋 伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ 京都大学大学院教授 十一 元三

第2日目

	9:00	12:00	13:00	17:00
12月6日	両コース共通	受付	部会別演習	部会別演習
講義・演習1-2	①保健教育の在り方 ◎目的：班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 聖心女子大学文学部教授 植田 誠治 京都市教育委員会首席指導主事 奥村 耕三 喫煙・飲酒・薬物乱用 国立大学法人金沢大学教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校教頭 丸山 洋生 ②学校保健マネジメント ◎目的：学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学教授 畑 攻 福島県教育庁会津教育事務所指導主事 高橋 伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスの理解と教職員による健康観察の重要性について学ぶ 豊郷病院/京都大学大学院医学研究科精神医学分野 義村 さや香		講義・演習1-3 ①保健教育の在り方 ◎目的：班別演習による指導案作成を通じて、発達段階に応じた適切な保健教育について学ぶ 心の健康 聖心女子大学文学部教授 植田 誠治 京都市教育委員会首席指導主事 奥村 耕三 喫煙・飲酒・薬物乱用 国立大学法人金沢大学教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校教頭 丸山 洋生 ②学校保健マネジメント ◎目的：学校全体の保健活動を推進するため、班別演習を通じて効果的な組織マネジメントについて学ぶ 日本女子体育大学教授 畑 攻 福島県教育庁会津教育事務所指導主事 高橋 伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスに関する問題を理解し、その対応方法について学ぶ Ⅰ 鳥取県立出雲町立三沢小学校教頭 菊尾 玲子 Ⅱ 高知県佐川町立斗賀野小学校教頭 中野 靖子 Ⅲ 沖縄県那覇市立重慶小学校校長 下地 京子 Ⅳ 兵庫県立姫路聴覚特別支援学校教頭 西村 恵子	

第3日目

	9:00	12:00	13:00	15:00	17:00
12月7日	両コース共通	受付	発表	発表	発表
発表・事例研究	①保健教育の在り方 ◎目的：課題別演習の成果発表を通じて、保健教育について理解を深める 心の健康 聖心女子大学文学部教授 植田 誠治 京都市教育委員会首席指導主事 奥村 耕三 喫煙・飲酒・薬物乱用 国立大学法人金沢大学教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校教頭 丸山 洋生 ②学校保健マネジメント ◎目的：部会別演習における成果発表を通して望ましい組織体制についての理解を深める 日本女子体育大学教授 畑 攻 福島県教育庁会津教育事務所指導主事 高橋 伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ◎目的：事例検討を通じて、児童生徒の理解及び支援方法について理解を深める 【小学校】滋賀県心の教育相談センターチーフカウンセラー 生天目 聖子 【中学校】高知県心の教育センター指導主事 大城 由美 【高校】FR教育臨床研究所所長 花輪 敏男		推進コース 講義・演習2 研修講師となるために 【推進コース：全体講義・演習】 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育部教科調査官 森 良一 ◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる	専門コース 講義・演習2 学校・家庭・地域社会との連携の充実 14:55 15:05 【①児童虐待への対応】 国立大学法人大阪教育大学 教授 岡本 正子 【②学校保健委員会の実際】 名古屋学芸大学 教授 栗女 智津江 ◎目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める	

第4日目

	9:00	12:00	13:00	17:00
12月8日	専門コース	受付	昼食・休憩	昼食・休憩
講義・演習3-1	学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院准教授 木原 雅子 ◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える		講義・演習3-2 個別の課題を抱える児童生徒に対する指導の在り方 京都大学大学院准教授 木原 雅子 ◎目的：心身の健康に関する個別の課題に対応した指導の在り方について理解を深める	

第5日目

	9:00	12:00	13:00	15:00
12月9日	専門コース	受付	昼食・休憩	専門閉講式
講義・演習4	学校における感染症対策の在り方 国立感染症研究所 感染症情報センター主任研究官 安井 良則 ◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える		講義・演習5 研修講師となるために 【専門コース：全体講義・演習】 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育部健康教育部調査官 岩崎 信子 ◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる	

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修食育（推進コース）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するために、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。					
受 講 対 象	ア 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、学校栄養職員等及び教育センターの研修担当主事等であって、食に関する指導を担当する者 イ 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び学校栄養職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 ウ その他、上記ア、イに準ずる者					
開 催 期 日	平成23年7月19日（火）～平成23年7月22日（金）					4 日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	81	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 720 人、受講者数 742 人、参加率 103.1%
 ※ 食育コース 170 人、受講者数 177 人、参加率 104.1%
 ※ 受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	61	17	0	0	3	0	81
割合 (%)	75.3	21.0	0.0	0.0	3.7	0.0	
	78	96.3					

2. 研修内容に関する主な意見

・どの講師の先生もポイントを分かり易く説明頂き大変参考になりました。食育の教科等への位置付け方、また、その教科の目標との関連について、給食の指導を中心とした食育の展開について理解を深められました。 ・食育は、組織全体で進めるものだという事を再確認しました。学校栄養職員以外の立場の方と一緒に参加できたことが一番ありがたいことでした。有意義な4日間でした。 ・全国の方々と情報交換が出来て、とても勉強になりました。また、特別活動、社会、総合的な学習の時間における食に関する指導の基本が分かりました。教科の狙いを理解した上で、食育を展開していく大切さを痛感しました。グループでの模擬授業は、いろいろな角度からの意見をぶつけあうことで、グループの中でより良い意見が出るなどまとまりが出来てとても刺激深いものでした。 ・指導要領が改訂されたこの時期にこの研修に参加できて、本当に良かったと思います。全国の情報を直接聞くことができ、新たなネットワークが出来ました。具体的な指導方法等、すぐに実践に使える知識も得る事が出来ました。今回の研修で得た知識や技術、刺激を現場に持ち帰り、今後、研修講師として地域に広めていきたいと思っています。 ・講義と演習の関連性をもう少し説明いただき明確にすると、更に良いと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・学校健康教育（健康コース、食育コース、学校安全コース）の各コースを相互に関連付けて学ぶ視点を盛り込んだ講義を新設した。 ・教育課程全体で効果的に食育を推進するため、カリキュラム・マネジメントに関する講義の新設および効果的に食育を推進している実績のある学校の事例発表の時間を設けた。 ・「学校給食管理の在り方」と「給食の時間における食に関する指導の重要性」の講義・演習の統合を行った。 次年度に向けて ・教育課程全体で効果的に食育を推進するための方策について重点を置き、研修内容の改善を図る。 ・本研修の受講者が各都道府県等で行う研修講師として活動する際の一助となるよう、「研修講師となるために」の講義・演習を中心として、研修の企画、運営、研修手法について学べるよう改善を図る。 ・学校のみならず、家庭においても栄養バランスのとれた食事が摂れるよう、家庭や地域との効果的な連携を通じて、質の向上に配慮していく必要がある。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 健康教育指導者養成研修 食育（推進）コース

		9:30	10:00	10:15	11:05	11:15	12:25	13:25	14:55	15:05	16:05	16:15	17:00	
7月19日（火）	受付	開講式		講義1 「学校における健康 教育の現代的課題に ついて」 山形県天童市立高柳小学校長 (前文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課安全教育調査官) 長岡 佳孝		休	講義2 「学校における食育の推 進について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 田中 延子	昼 食	休	講義3 「学校給食管理および給食の時間 における食に関する指導の重要性 について」 高崎健康福祉大学健康福祉学部 健康栄養学科 准教授 神戸 美恵子	休	講義4 「カリキュラムマ ネジメントの基本 とその役割につい て」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 田村 孝	休	講義・演習1-1 「学校全体で取り組む食に関 する指導にかかる全体的な指 導計画の作成について」① 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉 哲也
	会場	教員研修センター（つくば）												

		8:30	10:00	10:10	12:00	13:00	15:30	15:40	17:00
7月20日（水）	受付	講義・演習1ー2 「学校全体で取り組む食に関する指導にかかる全体的な指導計画の作成について」② 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉 哲也		協賛 「食育を推進するにあたっての現状と課題について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉 哲也		講義5 「各教科等における食に関する指導のポイント」 特別活動 生活、総合的な学習の時間 愛知教育大学 生活科教育講座 准教授 久野 弘幸		講義・演習2ー1 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等別に講義・演習	
	会場	教員研修センター（つくば）							

		8:30	12:00	13:00	17:00
7月21日（木）	受	講義・演習2-2 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等別に講義・演習	休 ・ 食	講義・演習2-3 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等別に講義・演習	
	付				
会場		教員研修センター（つくば）			

		8:30	12:00	13:00	14:30
7月22日（金）		講義・演習3 「食に関する指導案の発表」 特別活動 徳島県立総合教育センター 教職員研修課 専門研修担当 班長 小泉 雅彦	社 会 石川県金沢市立三馬小学校 教頭 浅永 剛司	休 憩 講義・演習4 「研修講師となるために」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉 哲也	閉 講 式 生活、総合的な学習の時間 愛知教育大学生活科教育講座 准教授 滋賀県教育委員会 学校教育課 指導主事 奥田 孝志 弘幸 孝志 久野 久幸 奥田 孝志 久野 孝志

各教科等を担当する講師
 ○特別活動
 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋
 徳島県立総合教育センター教職員研修課 専門研修担当 班長 小泉 雅彦
 ○生活、総合的な学習の時間
 愛知教育大学生活科教育講座 准教授 久野 弘幸
 滋賀県教育委員会学校教育課 指導主事 奥田 孝志
 ○社会
 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 瀬井 陽介
 石川県金沢市立三馬小学校 教頭 浅永 剛司

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修食育（専門）コース					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するために、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。					
受 講 対 象	食に関する指導において専門知識を有する栄養教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成23年9月6日（火）～平成23年9月9日（金）					4 日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	96	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 720 人、受講者数 742 人、参加率 103.1%
 ※ 食育コース 170 人、受講者数 177 人、参加率 104.1%
 受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	87	90.6	5	5.2	0	0.0	0	0.0	4	4.2	0	0.0	96	
		92		95.8											

2. 研修内容に関する主な意見

・普段、なかなか受講する機会の無い講師の先生方の講義を聞くことが出来、更には指導案の検討の御指導等、大変素晴らしい機会を得たことに感謝します。ここで得たものを、県内の栄養教諭、学校栄養職員へ伝達し、地域全体の資質向上に繋げていきたいと思います。 ・食育の意義、求められているものや指導のポイントが分かり、大変有意義でした。また、協議・検討では、自分だけでは気付かないアイデア・意見を聞くことが出来、刺激を受けました。 ・栄養教諭としての職務を改めて見直す時間になりました。今後、職場に戻ったときに役立つものばかりで、とても有意義な研修でした。レベルの高い講師の先生方のお話しをお聞き出来て勉強させていただき、ありがたかったです。 ・食の指導に関する全体計画を効果的に運用していくためには、PDCAを行い、常にいろいろな視点から見つめ直さなければいけないと感じました。 ・肥満・やせ・食物アレルギーといった個別指導に関する知識と技術を身に付け、対象となる児童生徒の背景をふまえながら対応することにより、適切に指導が進み効果が上がることがわかりました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・学校健康教育（健康コース、食育コース、学校安全コース）の各コースを相互に関連付けて学ぶ視点を盛り込んだ講義を新設した。 ・第2日目「各教科等における食に関する指導案の検討」について、時間を増やすこととした。 次年度に向けて ・教育課程全体で効果的に食育を推進するための方策について重点を置き、研修内容の改善を図る。 ・本研修の受講者が各都道府県等で行う研修講師として活動する際の一助となるよう、「研修講師となるために」の講義・演習を中心として、研修の企画、運営、研修手法について学べるよう改善を図る。 ・学校のみならず、家庭においても栄養バランスのとれた食事が摂れるよう、家庭や地域との効果的な連携を通じて、質の向上に配慮していく必要がある。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 健康教育指導者養成研修 食育（専門）コース

	9:30	10:00	10:15	11:15	11:25	12:35	13:35	14:35	14:45	17:00
9月6日（火）		受付	開講式	講義1 「学校における健康教育の現代的課題」 山形県天童市立高瀬小学校長 (前)文部科学省スポーツ・青少年局 青少年局 安全教育調査官 長岡 佳孝	休	講義2 「栄養教諭に求められる役割」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課学校給食調査官 田中 延子	昼休	講義・演習1 「学校給食管理の在り方」 富山県上市市立中央小学校 栄養教諭 太田 裕美子	休	講義・演習2 「学校全体で取り組む食に関する指導にか かる全体的な指導計画の作成」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉 哲也
会場 教員研修センター（つくば）										

	8:30	9:30	9:40	11:00	11:10	12:10	13:10	13:55	14:40	14:50	15:40	15:50	17:00
9月7日（水）	受付	講義・演習3 「給食の時間における食に関する指導の在り方」	講義・演習4 「個別相談指導の在り方」	休	協 議 「食育を推進するにあたっての現状と課題」	昼 休	講義3 「各教科等における食に関する指導のポイント」	特別活動	生活・総合的な学習の時間	体育・保健体育	休	講義・演習5-1 「各教科等における食に関する指導案の検討」	各教科等別に講義・演習
		島根県松江市立八雲小学校栄養教諭 長島 美保子	東京女子医科大学名誉教授 村田 光範	文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課学校給食調査官 田中 延子	文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 杉田 洋	文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課教科調査官 森 良一	武庫川女子大学講師 藤本 勇二	文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課教科調査官 森 良一					
会場 教員研修センター（つくば）													

	9:30	12:00	13:00	14:30
9月8日（木）		受付	講義・演習5-2 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等別に講義・演習	講義・演習5-3 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等別に講義・演習
会場 教員研修センター（つくば）				

	8:30	12:00	13:00	14:30
9月9日（金）		受付	講義・演習6 「食に関する指導案の発表」 特別活動 福岡県宗像市立 玄海東小学校校長 脇田 哲郎	講義・演習7 「研修講師となるために」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉 哲也
会場 教員研修センター（つくば）				

各教科等別演習（講義・演習5）担当講師
○特別活動
福岡県宗像市立玄海東小学校校長 脇田 哲郎
○生活・総合的な学習の時間
大分県教育委員会義務教育課指導主事 米持 武彦
○体育・保健体育
文部科学省スポーツ・青少年局
学校健康教育課教科調査官 森 良一

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修 学校安全コース （東部ブロック）					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。					
開 催 期 日	平成23年12月19日（月）～平成23年12月22日（木）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	121	人 参加率 ※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員 (全体計画人数) 720 人、受講者数 742 人、参加率 103.1%
 ※ 学校安全コース 受講定員 220 人、受講者数 243 人、参加率 110.5%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	99	81.8	20	16.5	0	0.0	0	0.0	2	1.7	0	0.0	121
		119		98.3										

2. 研修内容に関する主な意見

・学校教育において基盤となる命を守ること、安全安心であることについて、しっかりと取り組んでいかなければならないことを強く感じる事が出来た。講義の内容がとても良かった。 ・理論から実践まで幅広くカバーして頂き、とても有意義でした。頂いた資料もとても参考になるものが多く、今後活用を図っていききたいと思います。 ・現場でも、また同じような地震が来たとき、どうすれば良いか課題になっている。ここでは、そのヒントとなるものがたくさん得られた。今後は自校では勿論、周りの学校にも広めていけるようにしたい。 ・自然災害は東日本大震災を受けて津波に視点を置いたものが多かったが、地域に応じたものに置き換えて想定し、マニュアル作成を行なっていけるように、現場の先生に分かり易く伝えていくことが（再編成していくことが）大切だと思いました。 ・片田先生の命を守る教えが釜石市の先生方・生徒・地域住民に理解され、今回の震災に役立ったことを改めて理解することが出来た。マニュアルの作成を含めて、災害に対する意識作りが子ども達や地域の人々の命を守ることにつながることを研修会で伝えたい。 ・各講師の先生方の貴重な講演は、この場にいるからこそ続けて聞けるものであって、本来であれば、日本全国飛び回らなければ聞くことの出来ないことと、ありがたく思います。 ・マニュアル作成も有意義だったが、各県の防災に関係する人達との情報交換が一番有意義に感じた。自分の立場では一人で進めていくことが多く、マニュアル作成をグループで行い視野を広く持つことが出来たり、一人で悩んでいた部分のアドバイスを頂くことが出来ました。ありがとうございました。 ・防災教育を中心とした今回の研修は、とてもコンパクトに必要な内容がプログラムされており、良かった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・部会構成を学校安全の領域別から学校種別に変更した。 ・文部科学省の「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」の中間とりまとめを踏まえ、防災教育・防災管理に重点を置いた研修内容とし、開催時期や定員など年度当初の計画を急遽変更して実施した。（開催時期を前倒しし、研修期間・定員を拡充、ブロック開催の導入を行った。） 次年度に向けて ・中央教育審議会における「学校安全の推進に関する計画の策定について」の審議結果を踏まえ見直しを行う。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成23年度健康教育指導者養成研修 学校安全コース
～防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する指導者養成～ 日程表【東部ブロック】

第1日目

	9:00	9:30	10:00	10:45	11:00	12:00	13:00	14:30	14:45	15:00	17:00
12月19日（月）	受付	開講式	講義1 「学校安全の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 佐藤 浩樹 ◎目的: 学校安全の充実のため、学校保健安全法や学習指導要領に基づく学校安全について理解する。	休憩	講義2 「学校安全の現状と今後の取組」 国立大学法人 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 ◎目的: 学校安全の現状について把握するとともに今後の取組について理解する。	昼休み	講義3 「自らの命を守り抜くための姿勢と行動力を育む防災教育」 国立大学法人 群馬大学大学院 教授 片田 敏孝 ◎目的: 東日本大震災の検証から、防災教育の重要性を理解するとともに、総合的な学校安全の充実に向けた指導の在り方、管理、組織活動について理解する。	協議の進め方	休憩	協議 「学校安全推進上の課題について」 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会 ※各部会講師は下記一覧のとおり ◎目的: 学校現場における推進上の課題について協議し、課題の焦点化を図る	

第2日目

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	13:50	14:00	15:00	15:10	15:25	17:00
12月20日 (火)	講義4 「生活安全の効果的な推進のために」	講義5 「交通安全の効果的な推進のために」	講義6 「災害安全の効果的な推進のために」		講義7 「学校における安全管理・組織活動の効果的な在り方」		講義8 「学校における防災教育の実践」			講義演習1-1 「自然災害発生時対処要領（マニュアル）の作成」	
	国立大学法人 兵庫教育大学大学院 教授 西岡 伸紀	東北工業大学 教授 小川 和久	国立大学法人 上越教育大学大学院 教授 藤岡 達也	昼 休 み	国立大学法人 大阪教育大学 教授 藤田 大輔	休 憩	東京都板橋区立 高島第一小学校 校長 矢崎 良明	講 義 演 習 の 進 め 方	休 憩	①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会	
	◎目的:生活安全の特性と理論について理解する。	◎目的:交通安全の特性と理論について理解する。	◎目的:災害安全の特性と理論について理解する。		◎目的:効果的な安全管理、組織活動の在り方について理解する。		◎目的:緊急地震速報を活用した避難訓練や学校が避難所になる場合の対応等について実践から理解する。			◎目的:実際に自然災害発生時における各種対処要領を作成する。そのプロセスから指導者として必要な知識やスキルを学ぶ。	

第3日目

	9:00	12:00	13:00	15:30	15:40	17:00
12月21日（水）	協議演習1-2 「自然災害発生時対処要領（マニュアル）の作成」 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会 ◎目的: 実際に自然災害発生時における各種対処要領を作成する。そのプロセスから指導者として必要な知識やスキルを学ぶ。	昼休み	協議演習1-3 「自然災害発生時対処要領（マニュアル）の作成」 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会 ◎目的: 実際に自然災害発生時における各種対処要領を作成する。そのプロセスから指導者として必要な知識やスキルを学ぶ。	休憩	協議演習1-4 「自然災害発生時対処要領（マニュアル）の発表」 ※部会内共有 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会	

第4日目

	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:30
12月22日（木）	協議演習1-5 「自然災害発生時対処要領（マニュアル）の発表」 ◎目的: 各部会の成果を共有し、他部会の情報からさらに資質向上を図る。	休憩	協議演習2 「学校安全に関する研修企画について」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 佐藤 浩樹 ◎目的: 学校安全の中核になる教職員を養成するためにどのような研修が効果的かを考える。	昼休み	研究協議 「研修講師となるために」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 佐藤 浩樹 ◎目的: 研修全体を振り返り、研修講師としてのまとめを行う。	閉講式

各部会講師一覧

①小学校部会

国立大学法人 大阪教育大学
教授 藤田 大輔
東京都板橋区立 高島第一小学校
校長 矢崎 良明
高知県教育委員会事務局 スポーツ健康課
チーフ 岡田 直子

②中学校部会

国立大学法人 東京学芸大学
教授 渡邊 正樹
国立大学法人 兵庫教育大学大学院
教授 西岡 伸紀
宮城県教育庁 スポーツ健康課
指導主事 福田 功

③高等学校部会

国立大学法人 上越教育大学大学院
教授 藤岡 達也
東北工業大学
教授 小川 和久
静岡県教育委員会教育総務課
主査 貝瀬 佳章

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修 学校安全コース （西部ブロック）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。						
開 催 期 日	平成24年1月10日（火）～平成24年1月13日（金）					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	122	人	参加率
開 催 場 所	TKP大阪本町ビジネスセンター						

※ 全体受講定員 720 人、受講者数 742 人、参加率 103.1%
※ 学校安全コース 220 人、受講者数 243 人、参加率 110.5%
受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	97	79.5	22	18.0	0	0.0	0	0.0	122
		119	97.5							

2. 研修内容に関する主な意見

・東日本大震災を受けて緊急時に真に必要な対応マニュアルの検討が喫緊の課題となっていたために、大変有意義な研修であった。 ・子どもの命、教職員の命を守る為に、学校や教育委員会等は何をなすべきか、学校安全のスペシャリストの講師の先生方からの講義や他県の先生方との協議において、具体像が見えてきたと思う。使命感を持って研修成果を周知していきたい。 ・東日本大震災の事例が数多く入っており、緊張感と責任感の自覚を持って研修に参加することが出来ました。帰ってから、家庭で自校で市で県で、実践を重ねていきたいと思います。 ・自然災害は起きるもので、被害を最小限に抑える為の減災という考え方を多くの人々に共有してもらいたいと感じた。 ・通常、講義・講演は90分～120分と長時間になるが、今回は1本1本が1時間ぐらいだったので良かった。 ・長期間に渡る研修で有意義であった。マニュアル作りを通して何が大事であるのか、というところを自分でも気付いてきた。マニュアルを通して学校現場が防災に対する危機意識が上がり、日頃の共通認識・生徒への指導が生かされるように方向性を持っていかねなければならないという事が分かった。 ・グループ内に行政職の方もおられ、現場の職員としては多角的な視点での見方が出来て良かった。意識の温度差が自治体や学校によっても確かにあるので、意識の高い自治体や学校の、実態や状況を伺うことが出来たという事が、大きな財産として持ち帰ることが出来ました。研修方法についても勉強させて頂く事が出来ました。ありがとうございました。 ・学校安全の体系が良く分かった。安全の定義と危機管理の定義が同じであるというのを、なるほどと思った。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・部会構成を学校安全の領域別から学校種別に変更した。 ・文部科学省の「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」の中間とりまとめを踏まえ、防災教育・防災管理に重点を置いた研修内容とし、開催時期や定員など年度当初の計画を急遽変更して実施した。（開催時期を前倒しし、研修期間・定員を拡充、ブロック開催の導入を行った。）
次年度に向けて ・中央教育審議会における「学校安全の推進に関する計画の策定について」の審議結果を踏まえ見直しを行う。 ・平成23年度については当初計画を急遽変更しブロック開催を導入したため、会場について十分な検討を行う事ができなかった。次年度はアンケート結果を踏まえ十分な研修会場の確保に努める。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度健康教育指導者養成研修 学校安全コース
～防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する指導者養成～ 日程表【西部ブロック】

第1日目

9:00		9:30		10:00		10:45		11:00		12:00		13:00		14:30		14:45		15:00		17:00	
1月10日（火）	受付	開講式	講義1 「学校安全の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 佐藤 浩樹 ◎目的: 学校安全の充実のため、学校保健安全法や学習指導要領に基づく学校安全について理解する。			休憩	講義2 「学校安全の現状と今後の取組」 国立大学法人 東京学芸大学 教授 渡邊 正樹 ◎目的: 学校安全の現状について把握するとともに今後の取組について理解する。			休憩	講義3 「東日本大震災から学ぶ学校安全と防災教育」 国立大学法人 東北大学 准教授 佐藤 健 ◎目的: 東日本大震災の検証から、防災教育の重要性を理解するとともに、総合的な学校安全の充実に向けた指導の在り方、管理、組織活動について理解する。			協議の進め方	休憩	協議 「学校安全推進上の課題について」 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会 ※各部会講師は下記一覧のとおり ◎目的: 学校現場における推進上の課題について協議し、課題の焦点化を図る					

第2日目

9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		13:50 14:00		15:00 15:10 15:25		17:00	
1月11日 (水)	講義4 「生活安全の効果的な推進のために」	講義5 「交通安全の効果的な推進のために」	講義6 「災害安全の効果的な推進のために」		講義7 「学校における安全管理・組織活動の効果的な在り方」	講義8 「学校における防災教育の実践」		講義演習1-1 「自然災害発生時対処要領（マニュアル）の作成」							
	国立大学法人 兵庫教育大学大学院 教授 西岡 伸紀	東北工業大学 教授 小川 和久	国立大学法人 上越教育大学大学院 教授 藤岡 達也	昼 休 み	国立大学法人 大阪教育大学 教授 藤田 大輔	東京都板橋区立 高島第一小学校 校長 矢崎 良明		①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会							
	◎目的:生活安全の特性と理論について理解する。	◎目的:交通安全の特性と理論について理解する。	◎目的:災害安全の特性と理論について理解する。		◎目的:効果的な安全管理、組織活動の在り方について理解する。	◎目的:緊急地震速報を活用した避難訓練や学校が避難所になる場合の対応等について実践から理解する。		◎目的:実際に自然災害発生時における各種対処要領を作成する。そのプロセスから指導者として必要な知識やスキルを学ぶ。							

第3日目

9:00	12:00	13:00	15:30	15:40	17:00
1月12日（木）	講義演習1-2 「自然災害発生時対処要領（マニュアル）の作成」 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会 ◎目的: 実際に自然災害発生時における各種対処要領を作成する。そのプロセスから指導者として必要な知識やスキルを学ぶ。	講義演習1-3 「自然災害発生時対処要領（マニュアル）の作成」 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会 ◎目的: 実際に自然災害発生時における各種対処要領を作成する。そのプロセスから指導者として必要な知識やスキルを学ぶ。	講義演習1-4 「自然災害発生時対処要領（マニュアル）の発表」 ※部会内共有 ①小学校部会 ②中学校部会 ③高等学校部会	休憩	

第4日目

9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:30
1月13日（金）	講義演習1-5 「自然災害発生時対処要領（マニュアル）の発表」 ◎目的: 各部会の成果を共有し、他部会の情報からさらに資質向上を図る。	講義演習2 「学校安全に関する研修企画について」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 佐藤 浩樹 ◎目的: 学校安全の中核になる教職員を養成するためにどのような研修が効果的かを考える。	研究協議 「研修講師となるために」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 佐藤 浩樹 ◎目的: 研修全体を振り返り、研修講師としてのまとめを行う。	閉講式	

各部会講師一覧

①小学校部会

国立大学法人 大阪教育大学
 教授 藤田 大輔
 東京都板橋区立 高島第一小学校
 校長 矢崎 良明
 高知県教育委員会事務局 スポーツ健康教育課
 チーフ 岡田 直子

②中学校部会

国立大学法人 東京学芸大学
 教授 渡邊 正樹
 国立大学法人 兵庫教育大学大学院
 教授 西岡 伸紀
 宮城県教育庁 スポーツ健康課
 指導主事 福田 功

③高等学校部会

国立大学法人 上越教育大学大学院
 教授 藤岡 達也
 東北工業大学
 教授 小川 和久
 静岡県教育委員会教育総務課
 主査 貝瀬 佳章

I 研修概要

研 修 名	外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手(ALT)に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。						
受 講 対 象	総務省・外務省・文部科学省の協力の下に実施しているJETプログラムに招致した外国語指導助手(ALT)						
開 催 期 日	(4月期) 平成23年4月14日(木)					1日間	
	(A日程) 平成23年7月25日(月)～平成23年7月26日(火)					2日間	
	(B日程) 平成23年8月1日(月)～平成23年8月2日(火)					2日間	
	(第2次) 平成23年8月25日(木)					1日間	
受 講 人 数	計 画 人 数	4月期	1,500 人	受講者数	18 人	参加率	—
		A日程			655 人		—
		B日程			815 人		—
		第2次			71 人		—
	計		1,500 人	計	1,559 人	計	103.9%
開 催 場 所	4月期=ルポール麹町(東京都千代田区) A日程、B日程、第2次=京王プラザホテル(東京都新宿区)						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義で なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	5	16	10	3	0	1525	1559
割合(%)	0.3	1.0	0.6	0.2	0.0	97.8	
	21	1.3					

2. 研修内容に関する主な意見

・「TT実演と有効な授業計画」は素晴らしかった。全員話にのめりこんでいた。 ・「MEXT基調講演」は、日本人の英語教師の考えを知ることができてためになった。 ・「小学校訪問」「TT実演と効果的な授業計画」はとてもよかった。 ・「ハンドブック活用」日本語版がないのは不満。 ・「日本の外国語教育」の講義の内容はよかったが漠然としていた。 ・「ALTの小学校訪問」は未経験者向けの内容だった。 ・「TT実演と有効な授業計画(シニアハイスクール)」は講師同士の連携がとれていなかった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・英語の指導面に関する研修を増やすといいという意見を汲んで、チームティーチングに関する時間を増やした。 次年度に向けて ・講義内容については、出来る限り事例を盛り込むなど、実践的なものに改善を図る。 ・アンケート回収率を高める。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度来日直後オリエンテーション(4月期)プログラム

会場: ホテルルポール麹町

4月13日(水)	新規招致者来日 会場チェックイン→資料配布・オリエンテーション概要説明					
4月14日(木)	9:30-9:50	開会式				
	中国・韓国・ブラジル			オセアニア		
	10:00-10:30	JETプログラム説明等			10:00-10:30	JETプログラム説明等
	10:30-12:00	パネルディスカッション			10:30-11:00	サポートシステム等について (JETの経験を最大限に)
	11:00-12:00				パネルディスカッション	
	12:00-13:00	昼食			12:00-13:00	昼食
	CIR		ALT(非英語圏)		ALT(英語圏)	
	13:00-14:00	ロールプレイ (CIRになってみよう！)	13:00-13:45	歓迎挨拶・基調講演: 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 向後 秀明	13:00-13:45	歓迎挨拶・基調講演: 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 平木 裕
	14:10-15:40		13:55-15:45	日本における中国語教育の現状: 埼玉県立伊奈学園総合高等学校 教諭 藤井 達也	13:55-14:45	MEXTプレゼンテーション1 (中学校の英語クラスにおけるチームティーチング): 京都市立京都御池中学校 教諭 池田 あゆみ 佐賀県多久市教育委員会 ALT Penelope FOX
			CIRとしての基礎スキル: * ビジネス・メール * 電話応対 * 公用文書	先輩ALTからの体験談及び指導助言: 埼玉県立和光国際高等学校 ALT ヤン・ウェイ	14:55-15:45	MEXTプレゼンテーション2 (高等学校の英語クラスにおけるチームティーチング): 岐阜県立東濃実業高等学校 教諭 亀谷 みゆき 岐阜県立東濃高等学校 ALT Manuel Orlando Lopez
	15:50-16:20	取りまとめ団体別ミーティング (中・韓・ブラジル)			15:55-16:55	TOAプレゼンテーション(オセアニア)
	16:30-17:30	国別ミーティング(中・韓・ブラジル)			17:00-17:30	取りまとめ団体別ミーティング (オセアニア)
	18:30-20:00	歓迎夕食会				
4月15日(金)	各取りまとめ団体に向け出発					

平成23年度来日直後オリエンテーション A日程、B日程

A日程	B日程	時間	内 容
7 月 2 5 日 (月)	8 月 1 日 (月)	9:00 - 10:00	県別ミーティング ※出席確認・配置先確認、取りまとめ団体別ミーティングの案内
		10:00 - 11:00	開会式・JETプログラムに関する重要事項の説明
		11:00 - 12:00	講 演
		12:00 - 13:15	昼 食
		ALT分科会	
		13:15 - 13:45	文部科学省 基調講演 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 平木 裕(A日程) 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 向後 秀明(B日程)
		13:45 - 14:45	文部科学省プレゼンテーション 座間市立入谷小学校 教頭 直井 恵子(A日程) 愛知県立旭丘高等学校 教諭 城山 良子(A日程) 京都市立朱雀第二小学校 教諭 中村 理恵(B日程) 京都市教育委員会 ALT Matthew Hirakawa(B日程) 岐阜県立東濃実業高等学校 教諭 亀谷 みゆき(B日程) さいたま市立七里中学校 教諭 米田 俊克
		15:00 - 15:45 16:00 - 16:45	文部科学省分科会(小学校訪問) 座間市立入谷小学校 教頭 直井 恵子(A日程) 京都市立朱雀第二小学校 教諭 中村 理恵(B日程) 京都市教育委員会 ALT Matthew Hirakawa
		17:00 - 17:45	CLAIR分科会 AJET分科会
		12:00 - 13:15 15:15 - 18:00	AJETインフォメーション
		18:30 - 20:00	夕食会
7 月 2 6 日 (火)	8 月 2 日 (火)	09:00 - 10:30	パネルディスカッション
		10:45 - 11:35	文部科学省分科会 ○チームティーチングと効果的な授業計画① 山梨県立甲府南高等学校 教諭 植松 光和(A日程) 山梨県立甲府南高等学校 ALT Lisa Roberts(A日程) 座間市立入谷小学校 教頭 直井 恵子(A日程) 愛知県立旭丘高等学校 教諭 城山 良子(A日程) 神奈川県立横浜国際高等学校 教諭 鈴木 典子(A日程) 山梨県立富士北稜高等学校 教諭 新城 美佳(B日程) 北陵高等学校 ALT Miguel McCann(B日程) 京都市立朱雀第二小学校 教諭 中村 理恵(B日程) 京都市教育委員会 ALT Matthew Hirakawa(B日程) 静岡県立浜松湖南高等学校 教諭 村井 督昌 浜松湖南高等学校 ALT Christopher Tebbe 高岡市立芳野中学校 教諭 豊原 正貴 芳野中学校 ALT Myers Matthew Ross 習志野市立第七中学校 教諭 櫻井 智之 下市町立下市小学校 ALT Paul Vickory 金沢市立高岡中学校 教諭 竹内 美由紀 兵庫県立和田山高等学校 ALT John Cappa
		11:35 - 12:50	昼 食
		12:50 - 13:40	文部科学省分科会 ○チームティーチングと効果的な授業計画② 山梨県立甲府南高等学校 教諭 植松 光和(A日程) 山梨県立甲府南高等学校 ALT Lisa Roberts(A日程) 座間市立入谷小学校 教頭 直井 恵子(A日程) 愛知県立旭丘高等学校 教諭 城山 良子(A日程) 神奈川県立横浜国際高等学校 教諭 鈴木 典子(A日程) 山梨県立富士北稜高等学校 教諭 新城 美佳(B日程) 北陵高等学校 ALT Miguel McCann(B日程) 京都市立朱雀第二小学校 教諭 中村 理恵(B日程) 京都市教育委員会 ALT Matthew Hirakawa(B日程) 静岡県立浜松湖南高等学校 教諭 村井 督昌 浜松湖南高等学校 ALT Christopher Tebbe 高岡市立芳野中学校 教諭 豊原 正貴 芳野中学校 ALT Myers Matthew Ross 習志野市立第七中学校 教諭 櫻井 智之 下市町立下市小学校 ALT Paul Vickory 金沢市立高岡中学校 教諭 竹内 美由紀 兵庫県立和田山高等学校 ALT John Cappa
		13:55 - 14:45	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング
		15:00 - 15:50	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング
		16:05 - 16:55	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング
		17:15 - 20:00	取団への出発準備

平成23年度来日直後オリエンテーション 第2次(C)日程

日付	時間	内 容
8月25日(木)	9:30 - 9:45	開会式
	9:45 - 10:20	CLAIR情報提供・AJET紹介
	10:30 - 11:30	基 調 講 演
	11:30 - 12:30	昼 食
	12:30 - 14:00	全 体 会
	ALT分科会	
	14:10 - 14:55	文部科学省 基調講演 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 平木 裕
	14:55 - 15:05	休憩
	15:05 - 15:55	文部科学省分科会 ○チームティーチングと効果的な授業計画① 山梨県立甲府南高等学校 教諭 植松 光和(A日程) 山梨県立甲府南高等学校 ALT Lisa Roberts(A日程)
	15:55 - 16:05	休憩
	16:05 - 16:55	文部科学省分科会 ○チームティーチングと効果的な授業計画② 山梨県立甲府南高等学校 教諭 植松 光和(A日程) 山梨県立甲府南高等学校 ALT Lisa Roberts(A日程)
	17:10 - 17:40	都道府県別ミーティング
	18:30 - 20:00	夕食会

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-1:学校評価と学校改善）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年10月25日（火）～平成23年11月4日（金）					11日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	15	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 295 人、 参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	14	93.3	1	6.7	0	0.0	15
		15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・調査項目はもちろんのこと、全てにわたって、シニアアドバイザーによる指導・助言がすばらしく、海外派遣研修が充実したものになりました。
・日本の教育について外国のシステムや事情と比較して考察できる良い機会であり、今後も大切にしたい研修メニューです。
・振り返ると事前研修でシニアアドバイザーの先生からの講義の意味が良くわかります。海外研修に参加できた成果であると思います。事後研修で報告書を作成することは大変意義があり研修成果の活用について協議することは、さらに意義深いことと思いました。本当にすばらしい研修に参加させていただきありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。
・参加して本当によかったと感じる研修でした。事前研修会で目的意識をもてたことが大変良かったと思います。
・課題と調査事項、質問事項をもう少しじっくり検討する時間があれば、研修はもっと充実したものになると思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。
・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。
次年度に向けて
・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。
・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-2:学校評価と学校改善）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年10月31日（月）～平成23年11月11日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	20	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 295 人、 参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	19	95.0	1	5.0	0	0.0	20
		20	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・いろいろな校種・立場の方と一緒に一つの課題に向かって研修ができる貴重な場でした。どの先生方も熱心で、とても刺激を受けました。 ・他府県の他校種の先生方と交流することの価値を今回身をもって感じました。そういった意味でも、貴重な研修となりました。 ・派遣テーマについて、内外の状況等に見識の深いシニアアドバイザーの先生の存在は、事前研修も含め、大変貴重なものであった。先生からの指導助言を派遣団一同、絶えず念頭において研修を行ってきた。 ・事後研修会は意識の高い先生からいろいろなことを学ばせていただくことができてありがたいです。研修をどの様に活用するかという点が大切ですのでよい機会となりました。活用例を交流しあうことで、またその中に自分たちにもできることを見つけられました。 ・たいへん意義のある研修だった。教師としての幅を広げる意味でも、新しい教育情報を日本に取り入れるためにも有効である。また、他県の先生方と交流することは教員のネットワークをつくることにつながり、とても重要であると思う。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。 次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-3:学校評価と学校改善）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年11月7日（月）～平成23年11月17日（金）					11日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	14	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 295 人、参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	13	92.9	1	7.1	0	0.0	14
		14	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーには熱心にご指導いただき、研修の趣旨が一貫するように、常に修正をかけていただきました。お蔭でとても有意義な研修になりました。 ・事前研修・海外研修・事後研修がセットになっていて、そこが研修の深まりに大変効果的だった。 ・大変多くのことを学ぶ機会を与えていただき、心より感謝いたしております。調査・研究に関わることは当然ですが、団の先生方から、人として教育に携わる者として学ばせていただいたことが大きかったです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。 次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B-1：国語力・読解力）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年10月24日（月）～平成23年11月2日（水）					10日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	22	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 295 人、参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	19	86.4	3	13.6	0	0.0	22
		22	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・事前研修会は団長及びシニアアドバイザーの方からの説明が具体的かつ適確で、ポイントを絞った協議ができた。 ・現地でより深い理解を得られるように事前にもっと調査・研究をする必要性を感じました。 ・2つの都市を見ることで、同じ米国の中でも現状がどのように異なり、その中で米国の教師がどう教育に取り組んでいるか知ることができて、大変参考になりました。 ・団のまとまりは大変良かったと感じている。互いに意見を出し合い、調査・研究を深めようという気持ちをもって全団員で課題解決に取り組むことができた。 ・先生方にとって一生の財産になる、素晴らしい研修だったと思います。今後に生かすためにも、各地域にどのように発信していくかが重要になってきます。報告会や研修会を行い、参加者が発信する場と報告書を誰もが手に取ることができるような分かりやすい発信の仕方（紙ベースやWeb）を充実させていくことが重要だと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。 次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-1：理数系教育）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年10月24日（月）～平成23年11月4日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 295 人、 参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	16	94.1	1	5.9	0	0.0	17
		17	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・ 訪問先では日本政府からの派遣団という受け入れ体制をとっていただいたところが多く、プレゼンテーション資料も新たに作成していただくなど、充実した研修内容であった。 ・ シニアアドバイザーは実際にフィンランドに多数回に渡り調査経験をお持ちで、学識と合わせ、奥の深い、そして的確な指導を頂き、大変参考になった。 ・ 個人での視察は受け入れてもらえない学校の視察及び意見交流を行うことができ、とても意義深く価値ある研修であった。 ・ 事前学習をする中で、その他の国の教育改革等にも拡大して学習することができた。また、教育の最新事情やその他の知識・経験も得ることができたことから、今後の教員生活に極めて有効な力量が得られた研修であった。 ・ 研修に参加した団員はまさにこれからの日本の教育を担っていく先生方であり、質の高さを実感した。海外研修は、学校現場でまさに直接生徒に接している教員の質を高めるうえで最も効果的であり、教員の視野を広げる有効な手段であると思う。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・ 研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。
次年度に向けて ・ 派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・ 年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-2：理数系教育）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年11月21日（月）～平成23年12月2日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	15	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 295 人、 参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	12	80.0	3	20.0	0	0.0	0	0.0	15
		15	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーには、アメリカの教育制度、特に理数教育における日本との違いなどについて、適切な説明をしていただき、各視察先に予備知識をもって訪問できた。現地での研修成果の確認の際も助言をしていただき、研究のポイントを明確にして成果をまとめることができた。 ・見聞を深める事ができた。異文化に触れ教育について再考するよい機会となった。 ・小・中・高・大、教育機関をバランスよく視察できた。 ・研修成果報告書の内容・形式ともに事前および現地に打合せがなされたため、事後研修会では細部の検討・チェックを中心に実施し、研修成果の活用についても十分な協議を行うことができた。 ・自分の視野を広げる良い機会となった。この研修で学んだことを活かし、成果を広め、日本の教育について改善を図る視点を提供していけるようにしていきたいと思う。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。 次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-1：生徒指導・教育相談）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年11月7日（月）～平成23年11月18日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	15	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 295 人、参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	12	80.0	3	20.0	0	0.0	15
		15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーの講義や助言はとてもためになった。今後の自分の研修や研究の意欲づけとなった。 ・貴重な研修を経験させていただき、大変勉強になりました。また、一緒に研修した団員の方々との交流がとても素晴らしく、自分の考えを広げることができました。 ・大変有意義でした。今後の教育活動に生かせるものから、優先的に取り入れていきたいと考えています。 ・事後研修会で、他の団と事例のプレゼン交換を行うことができれば、さらに多くの知見が得られるのではないかな。 ・事後研修会は、実践的な研修成果の活用に向けて大変有意義だった。資料の作成や意見の交換もしっかりできた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。 次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-2:生徒指導・教育相談）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年10月3日（月）～平成23年10月14日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	15	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 295 人、参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	11	73.3	4	26.7	0	0.0	15
		15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーの先生の知見に頼るところが多く、報告書の作成にも的確なご指導を頂けたことが大変ありがたいことでした。 ・実際に現地に行き生徒の様子を目にし、直接話を伺って、その場で質問できるこの研修は得がたい体験になりました。 ・団員が結束して研修の内容も決定し、事前の意識も高めて海外研修に臨み、事後に広く研修の成果を伝えていく場を団員が各自作っていくのも大事だと思います。 ・勤務校での仕事をしながらの研修は大変でしたが、学校では決して体験できない研修を受けさせていただき、大変有難く思いました。また、多くの力ある先生方との出会いからも多く学ばせて頂きました。この成果を自分だけのものにせず、周りの先生方、特に若い人たちに伝えていきたいです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。 次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-3:生徒指導・教育相談）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年10月3日（月）～平成23年10月14日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	12	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 295 人、参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	10	83.3	2	16.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		12
		12		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーから理論・理念について貴重なアドバイスを多々いただくことができた。団員の気づかない盲点について指摘を受けたり、意義づけてくれたり、大変勉強になりました。研修が成果を得るには、なくてはならない存在でした。 ・事前に、質問項目等を訪問先に送付していたため、解答を準備してくれた機関等もあり、短時間で適切な取材活動ができた。訪問の趣旨や何を説明して欲しいかなども含め、事前に送付しておくことは、質の高い調査・研究に欠かせないと感じた。 ・この貴重な体験を通して自分なりに視野が広がり、各先生方とも深く交流することができました。この経験を現場で生かしていきたいと思います。 ・事後研修会は、これまで研修したことを意見交換することで整理・まとめをすることにつながった。また、今後、海外で研修したことを活用し、地域等にも研修内容を発信していきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。 次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (F-1:キャリア教育)						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年10月17日（月）～平成23年10月28日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	19	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 295 人、参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	17	89.5	2	10.5	0	0.0	19
		19	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーには、研修テーマに対して、いろいろな角度で分かりやすく説明助言していただき、事前研修会、実際の研修、事後研修会で有意義に研修を行うことができた。 ・外国の教育事情視察は、日本の教育や自らの教育実践について今までとは違う視点からも考えることができ、大変有意義な研修でした。各自が今後の教育に生かすことができると考える。 ・大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。研修テーマに向けての研修で実際に学んできたことは、私にとって大切な財産になった。また、他の県の先生方に出会え、真剣な取り組みの姿勢に刺激を受け、いい勉強になった。今後は学んできたことを同僚・子どもたちに還元できるように活動していきたいと思う。 ・事後研修会における報告書作成の協議では、新たな課題・問題点が見つかり、修正ができたことが効果的であった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。 次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム (F-2:キャリア教育)						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年11月14日 (月)～平成23年11月25日 (金)					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 295 人、 参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	13	81.3	3	18.8	0	0.0	16
		16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーはじめ現地コーディネーターには大変お世話になり、研修テーマの理解に努めることができた。 ・知識として得るものだけでなく、実際に現地の人、自然、教育環境に入り、初めて体験することに大きな感動と驚きを感じた。本研修に参加した意義は非常に大きいものがある。 ・やはり研修に参加し実際に目で見て触れて体験でき本当に良かったと感激しており、それを学校現場に持ち帰ることができました。数多くの先生方が研修に参加できることを望む。 ・いろいろな質問事項については、書物やインターネットで調べることができるが、現地に実際に行って自分自身の五感で感じ得たことは他のどんなことより優るものだった。大変よい経験ができた。今後もこのような研修は続けて欲しいと思う。 ・海外研修を行ったことにより、キャリア教育について深く理解することができた。アメリカのキャリア教育における理念や概要を知り、日本のキャリア教育との比較やこれからの日本のキャリア教育に対する思考を深める手立てとなった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。
次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（G-1:心身の健康教育）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年10月24日（月）～平成23年11月2日（水）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 295 人、参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計		
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	5	31.3	6	37.5	4	25.0	1	6.3	0	0.0	0	0.0	16
		11		68.8										

2. 研修内容に関する主な意見

・海外研修中に生じた疑問等に対しても、シニアアドバイザーからその都度指導していただき、自分の考えをまとめることに生かすことができた。 ・一緒に考えてくださるシニアアドバイザーだったので、訪問先でうまく調査が実施できない場合があっても、常に修正しながら対応してもらえた。 ・シンガポールの現状と訪問時期に若干の課題があり、十分な研修を行うことができなかった部分もあるので、次年度以降配慮をお願いします。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。 次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（H-1:学校教育の情報化）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年10月10日（月）～平成23年10月19日（水）					10日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人	参加率 ※
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 295 人、参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	15	93.8	1	6.3	0	0.0	16
		16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーには、必要なところできっかりと助言をいただき、研究の方向性を決定できました。海外派遣中もミーティングの設定は有効であった。 ・報告書における研修成果の活用例の意図・ねらいについて十分に理解できていなかった。事前研修会で説明もあったと思うが、具体的にどんな場面を想定して作成すると良いのか、また、貴センターの思い・ねらいについて事前に知ることができた。 ・同行した先生方との交流から多くのことを学ぶことができ、貴重な体験になった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。 次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（H-2:学校教育の情報化）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年11月13日（日）～平成23年11月23日（水）					11日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	27	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 295 人、参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	23	85.2	4	14.8	0	0.0	27
		27	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・小・中・高校・大学・教育委員会など、バランス良く様々な機関に訪問させていただき、どの訪問先も親切で的確な説明があり充実した研修を行えた。 ・シニアアドバイザーには具体的かつ分かりやすくご指導・ご助言をいただき、海外研修を通しての学びから日本の現場に生かせることについて考えることができた。また、今回様々な場所を見学することができたのは、シニアアドバイザーの先生の人脈によるものだと伺い、大変感謝している。帰国後も丁寧に対応していただきとても助かっている。 ・充実した研修になりました。研修の成果を十分に活用できるよう、教育活動に生かしていきます。 ・事後研修会を通して今までの研修を振り返り今後の取組に生かしていく意識をあらたにすることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。 次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-1:特別支援教育）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年11月13日（月）～平成23年11月24日（木）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	14	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 295 人、 参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	14	100.0	0	0.0	0	0.0	14
		14	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・事前研修会において具体的な研修テーマを協議する前に、各参加者の都道府県の実況を確認しあった。共通点や相違点を共通理解した上でテーマを明確に絞り込むことができた。 ・小・中・高・特別支援学校・市役所・教育省に訪問できた上に丁寧かつ詳細な説明をいただき、充実していた。 ・シニアアドバイザーは私達の思い、聞きたい事を把握してくださり、よく言葉をかけてくださったり、質問にはとてもいねいに答えていただいた。事前の講義でオーストラリアの特別支援教育の実況をつかめていたので、現地の実況が理解しやすかった。 ・帰国した後も団員と連絡を取りながら日頃悩んでいることや知りたいことの情報交換ができています。このような出会いをつくっていただきとても感謝しています。全国に視野が広がりました。 ・こうした研修は中堅教育にとって、スキル・意欲の面で大変有意義である。できる限り継続して頂きたい。 ・とても有意義な研修となりました。人脈も広がり、今後も皆さんと連絡を取り合いながら情報交換し、各地でこの研修成果を広げたいです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。 次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-2:特別支援教育）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年10月3日（月）～平成23年10月14日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	15	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、受講者数 295 人、参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	10	66.7	5	33.3	0	0.0	15
		15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・この派遣研修においてはシニアアドバイザーの指導助言なしには実現できない。適切なご指導・計画をして頂き大変感謝している。 ・海外研修を通して、日本の教育、学校現場の教育について改めて見直す機会となり、よい研修であると思います。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。 次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（J-1:地域の教育力の活用）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年10月3日（月）～平成23年10月14日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	13	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 295 人、 参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	11	84.6	2	15.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	13	
		13		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・シニアアドバイザーはドイツに大変詳しい先生だったので、その場に応じて適切な助言をいただき、研究に生かすことができました。研修の取り組み方以外にも、マナーや行動のアドバイスをいただき、役に立てることができました。
・大変有意義な2週間の研修でした。学ぶことも多く、自分たちのテーマに合わせてしっかりと調査・研究ができました。また、ドイツの教育と日本の教育を比べることで日本の良さにも改めて気づくことができました。この研修を通して学んだことをより多くの人に伝えていきたいと思います。
・団のチームワークが良かったので、全てのことがスムーズにいきました。また、中心となって取りまとめる方やそれぞれの役割を十分に果たせたと思います。3ヶ月ぶりに会っても意欲を持って研修を行う姿勢は変わらず、しっかりと成果をまとめることができました。個人だけでまとめるのではなく、全員で協議することでこの研修が深まり、成果の活用にもつながるのだと改めて思いました。
・ただ、海外に行って視察するだけでなく、しっかりと課題を持った上での調査・研究という研修はとても良かったと思います。一人一人の思いを持ちながら団で作り上げていくスタイルは、必ず研修の成果の活用につながると思います。自分自身の力量も向上するとともに、力を合わせて研修を深める大切さを学びました。これから学んだことをどんどん広め、成果を活かしていきたいと思っています。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。
・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。
次年度に向けて
・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。
・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとお

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（J-2:地域の教育力の活用）						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ						
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。						
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者						
開 催 期 日	平成23年10月24日（月）～平成23年11月4日（金）					12日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	14	人	参加率
開 催 場 所	別紙のとおり						

※ 全体受講定員 300 人、 受講者数 295 人、 参加率 98.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	14	100.0	0	0.0	0	0.0	14
		14	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・海外派遣中は毎日ミーティングを行ってきたが、その都度シニアアドバイザーの先生から適切な助言・指導を頂き、調査・研究に生かすことができた。 ・学校や各自の課題解決やその参考となるだけでなく、見聞を広げ、視野を広げること、他県の先生方との交流を深め、学ぶことができることなどからも、本研修の意義は大きいと思います。 ・事後研修会では、海外研修後、既に活用されている事例を紹介頂き、多くの交流をさせていただきました。自分自身の研修成果の活用にも大いに参考にさせていただきます。 ・事前・海外・事後がワンセットになっての研修だと強く感じました。途中も、メール等で交流ができ、良い研修の機会を与えてもらえたと思っています。これをどのように活用するのか、今後私たちに課せられたものとして、より研修と成果の活用を図りたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・都道府県市が抱える教育課題及び過去4年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・研修成果の効果的な活用を図るため、報告書の具体的な内容等を含めた「研修資料」を新たに作成し、事前研修会で配付した。
次年度に向けて ・派遣テーマの趣旨に加え、研修のねらい・派遣予定国・派遣予定期間を実施要項に明示することで、研修目的と内容の明確化を図る。 ・年間スケジュールを改善し、事前研修会までに派遣国における訪問学校を決定する等、参加者が具体的な協議に臨めるような手立てを施す。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成23年度 教育課題研修指導者海外派遣プログラム

研修テーマ	派遣 団名	人数	派遣国	派遣期間	日数	事前研修会	事後研修会
学校評価と学校改善 (3団)	A-1	15	アメリカ	10/25 ～ 11/4	11	7/28、29 東京	1/23、24 つくば
	A-2	20	ニュージーランド	10/31 ～ 11/11	12	8/10、11 名古屋	2/6、7 名古屋
	A-3	14	イギリス	11/7 ～ 11/17	11	8/4、5 福岡	1/23、24 福岡
国語力・読解力 (1団)	B-1	22	アメリカ	10/24 ～ 11/2	10	7/25、26 東京	1/26、27 つくば
理数系教育 (2団)	C-1	17	フィンランド	10/24 ～ 11/4	12	7/25、26 東京	1/16、17 つくば
	C-2	15	アメリカ	11/21 ～ 12/2	12	8/10、11 名古屋	1/30、31 名古屋
小学校英語	(D-1)	(14)	(タイ)	洪水のため派遣中止	—	7/28、29 東京	—
生徒指導・教育相談 (3団)	E-1	15	スウェーデン	11/7 ～ 11/18	12	7/25、26 東京	1/23、24 つくば
	E-2	15	イギリス	10/3 ～ 10/14	12	8/1、2 名古屋	1/30、31 名古屋
	E-3	12	スイス オーストリア	10/3 ～ 10/14	12	8/4、5 福岡	1/23、24 福岡
キャリア教育 (2団)	F-1	19	フランス	10/17 ～ 10/28	12	7/25、26 東京	1/18、19 つくば
	F-2	16	アメリカ	11/14 ～ 11/25	12	8/4、5 福岡	2/8、9 福岡
心身の健康教育 (1団)	G-1	16	シンガポール	10/24 ～ 11/2	10	7/28、29 東京	1/16、17 つくば
学校教育の情報化 (2団)	H-1	16	韓国 シンガポール	10/10 ～ 10/19	10	7/28、29 東京	1/25、26 つくば
	H-2	27	イギリス	11/13 ～ 11/23	11	7/28 愛媛	1/19 愛媛
特別支援教育 (2団)	I-1	14	オーストラリア	11/13 ～ 11/24	12	8/22、23 東京	1/23、24 つくば
	I-2	15	アメリカ	10/3 ～ 10/14	12	8/1、2 名古屋	1/30、31 名古屋
地域の教育力の活用 (2団)	J-1	13	ドイツ	10/3 ～ 10/14	12	7/25、26 東京	1/26、27 つくば
	J-2	14	オーストラリア	10/24 ～ 11/4	12	8/1、2 名古屋	1/30、31 名古屋

I 研修概要

研 修 名	産業・理科教育教員派遣研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員とする。							
開 催 期 日	年間を通して（３ヶ月、６ヶ月、１２ヶ月）					日間		
受 講 人 数	計画人数	100	人	受講者数	44	人	参加率	44.0%
開 催 場 所	国立大学法人東北大学ほか（次ページのとおりに）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義で なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
	大変有意義	おおむね有意義							
人数 (人)	38	5	1	0	0	0	0	0	44
割合 (%)	86.4	11.4	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	43	97.7							

2. 研修内容に関する主な意見

・新しい知識・技術を習得できた。 ・勤務校にない高度な設備、技術、予算、機会を使わせていただいて、時代に即した内容で研修できた。 ・今回の研修を通じて、大学をはじめ多くの研究機関、NPOなど有志の方々と積極的な協力体制を築くことができた。 ・コンピュータ関連のスキルもアップすることができ、授業並びに学校運営上役に立つ技能を身につけることができた。 ・授業に直結した研修内容であり、次年度よりすぐに生徒への指導役立てることができると思う。 ・一つのテーマに向かって学習指導要領や多くの文献を読み、実際に研究授業を行ったことは自分自身に自身を持つことができ、視野を広げることができた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・前年度に引き続き、実施経費について、全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 産業・理科教育教員派遣研修 研修派遣一覧

No	都道府県	派遣人数	派遣元	派遣先		
			所 属	派遣先	派遣時期	期間
1	青森県	1	青森県立名久井農業高等学校	国立大学法人 東北大学	H23. 9. 1 ~ H23. 11. 30	3 ヶ月
2	福島県	2	福島県立喜多方高等学校	国立大学法人 福島大学	H23. 7. 1 ~ H23. 9. 30	3 ヶ月
3			福島県立浪江高等学校津島校	国立大学法人 福島大学	H23. 7. 1 ~ H23. 9. 30	3 ヶ月
4	栃木県	10	茂木町立茂木中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H23. 4. 1 ~ H23. 9. 30	6 ヶ月
5			那須町立那須小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H23. 4. 1 ~ H23. 9. 30	6 ヶ月
6			足利市立東山小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H23. 4. 1 ~ H23. 9. 30	6 ヶ月
7			栃木市立栃木西中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H23. 10. 1 ~ H24. 3. 31	6 ヶ月
8			那須塩原市立鍋掛小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H23. 10. 1 ~ H24. 3. 31	6 ヶ月
9			宇都宮市立城山中央小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H23. 10. 1 ~ H24. 3. 31	6 ヶ月
10			小山市立桑中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H23. 10. 1 ~ H24. 3. 31	6 ヶ月
11			栃木市立栃木中央小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H23. 10. 1 ~ H24. 3. 31	6 ヶ月
12			栃木県立那須拓陽高等学校	東京農業大学	H23. 10. 1 ~ H24. 3. 31	6 ヶ月
13			栃木県立佐野松陽高等学校	大原簿記学校	H23. 4. 1 ~ H23. 9. 30	6 ヶ月
14	群馬県	1	群馬県立太田工業高等学校	国立大学法人 群馬大学	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
15	長野県	1	長野県岡谷工業高等学校	国立大学法人 信州大学	H23. 5. 1 ~ H24. 3. 31	11 ヶ月
16	愛知県	4	愛知県立刈谷工業高等学校	愛知県産業技術研究所	H23. 7. 1 ~ H23. 12. 31	6 ヶ月
17			愛知県立愛知商業高等学校	学校法人名古屋大原学園 大原簿記専門学校	H23. 7. 1 ~ H23. 9. 30	3 ヶ月
18			愛知県立佐織工業高等学校	株式会社豊田自動織機 技能専修学園	H23. 7. 1 ~ H23. 9. 30	3 ヶ月
19			愛知県立豊田東高等学校	国立大学法人 名古屋大学	H23. 4. 1 ~ H23. 9. 30	6 ヶ月
20	京都府	2	京都府立嵯峨野高等学校	国立大学法人 京都大学	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
21			京都府立東稜高等学校	国立大学法人 京都大学	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
22	奈良県	1	奈良市立一条高等学校	国立大学法人 奈良女子大学	H23. 8. 1 ~ H23. 8. 31	1 ヶ月
23	和歌山県	1	和歌山県立紀北農芸高等学校	公立大学法人 大阪府立大学	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
24	島根県	1	島根県立出雲農林高等学校	島根県畜産技術センター	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
25	高知県	1	高知県立高知東高等学校	学校法人 龍馬学園 国際デザイン・ビューティカレッジ	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
26	福岡県	3	福岡県立早良高等学校	国立大学法人福岡教育大学	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
27			福岡県立浮羽工業高等学校	福岡県工業技術センター	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
28			九州国際大学付属高等学校	公立大学法人 北九州市立大学 ひびきのキャンパス	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
29	佐賀県	5	佐賀県立佐賀農業高等学校	株式会社 高取造園土木	H23. 9. 1 ~ H24. 2. 29	6 ヶ月
30			佐賀県立多久高等学校	学校法人コア学園 唐津ビジネスカレッジ	H23. 4. 1 ~ H23. 9. 30	6 ヶ月
31			佐賀県立鳥栖商業高等学校	大原簿記情報専門学校	H23. 10. 1 ~ H24. 3. 31	6 ヶ月
32			佐賀県立牛津高等学校	学校法人永原学園西九州大学佐賀調理製菓専門学校	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
33			佐賀県立嬉野高等学校	学校法人 永原学園西九州短期大学部	H23. 4. 1 ~ H23. 9. 30	6 ヶ月
34	大分県	2	中津市立如水小学校	国立大学法人 大分大学	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
35			大分市立判田中学校	国立大学法人 大分大学	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
36	宮崎県	2	宮崎県立宮崎工業高等学校	国立大学法人 宮崎大学	H23. 9. 1 ~ H23. 11. 30	3 ヶ月
37			宮崎県立佐土原高等学校	国立大学法人 宮崎大学	H23. 10. 3 ~ H23. 12. 28	3 ヶ月
38	札幌市	1	北海道札幌平岸高等学校	国立大学法人 北海道大学	H23. 9. 1 ~ H23. 11. 30	3 ヶ月
39	大阪府	1	大阪府立茨木工科高等学校	株式会社 カネカ 大阪工場	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
40	山口県	3	山口県立西京高等学校	国立大学法人 山口大学	H24. 1. 1 ~ H24. 3. 31	3 ヶ月
41			防府市立華陽中学校	国立大学法人 山口大学	H23. 11. 1 ~ H24. 1. 31	3 ヶ月
42			山口県立水産高等学校	独立行政法人 水産大学校	H23. 4. 1 ~ H23. 6. 30	3 ヶ月
43	熊本県	2	熊本県立球磨工業高等学校	熊本県立技術短期大学校	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月
44			山都町立中島小学校	国立大学法人 熊本大学	H23. 4. 1 ~ H24. 3. 31	12 ヶ月

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（農業Ａ－１）「生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習」						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等						
開 催 期 日	平成23年 8 月 8 日（月）～平成23年 8 月 1 2 日（金）					5 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	14	人	参加率 70.0%
開 催 場 所	三島市商工会議所会議室（静岡県三島市）						

※ 全体受講定員 325 人、受講者数 237 人、参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	11	78.6	3	21.4	0	0.0	0	0.0	14
		14	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・研修内容の生物活用・グリーンライフについて、普段どの様に行ったらよいのか悩んでいたことが、今後行うにあたり大変参考になりました。実技参加を通して身近に接することができ、今後の教育活動に取り入れていきたいと思います。今回企画運営の久保田先生の分かり易い実践例を多く教えて頂き、自分もすぐにでも使いたくなるものでした。参加させて頂き、ありがとうございました。 ・大変中身の濃い充実した研修でした。今後、学校に戻り、研修で学んだ事を少しでも活用し、生かしていきたいと思います。また、農業教員としての使命感を改めて再認識させられました。 ・この研修を受講するまで自分のやっていることは一番良いと考えていたが、目から鱗が落ちた。生徒を主役とするためには、あらゆる手段を準備し、ただやりっぱなしではなく、それを評価し、更に今後につなげていくという大きなテーマを頂いた。帰校後は、この研修で教わったことを参考に活動していきたいと思った。 ・生物活用やグリーンライフにおける交流のプログラムの立て方や留意点、また、その評価に至るまでを詳しく丁寧に教えて頂くと共に、他県の実施方法・取り組み方等、知ることが出来た。5日間、様々なプログラムを消化しながら吸収できたものは大変大きかった。何よりも交流時における相互間の目標・目的をしっかりとつかむ事が大切である。有意義な5日、ありがとうございました。是非、今後の活動の参考にし、実践したい。 ・中でも4観点別評価は勉強になった。今まで評価できていなかった点があったが、後は今回のことを参考に態度を養えるようにしていきたい。また、NPOの話、久保田先生の話もそうだが、まずやること、取り組むことが大切だと改めて分かった。文句を言う前に行動するよう心掛けたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度産業技術・情報技術等指導者養成研修（A - 1）研修会日程
「生物活用・グリーンライフ」に関する指導者養成研修

団体名 全国農業高等学校長協会										
	日／時刻	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
1	8月8日	受付 集合	開講式 オリエンテーシ ョン	「生物活用・グ リーンライフ」 の意義と動向 (添野龍雄) 50分	昼休み	自己紹介・交流プログラム紹介 120分		農業高校と地域社会の 連携(阿部英之助) 90分		諸連絡
		9:00	10:00-10:50	11:10-12:00		13:00-13:50	14:00-15:20	15:30-17:00	17:00-17:30	
2	8月9日	園芸の特 質と活用 (豊田正 博)60分	生徒の評価・ 観点別評価 (豊田正博) 60分	流活動のすす め方① 活動開拓・目 標設定 (久保田豊和) 60分	昼休み	活動のすすめ 方② 演習 準備・実 施・反省 (久保田豊和) 50分	ファシリテーション法とは (小川 達己) 110分	インタープリテ ーション法(久 保田)60分	諸連絡	
		9:00-10:00	10:00-11:00	11:00-12:00		13:00-13:50	14:00-15:50	16:00-17:00		17:00-17:30
3	8月10日	グリーンツーリズム の実際 (豊田 由美)90分	グランドワークとは何か (松田 徳子) 90分	10:40-12:00	昼休み	市民農園の実際 (粕谷 芳則) 90分	プログラミング演習① テーマの設定 (久保田)90分	生物活用・グリ ーンライフ評 価の具体例 (久保田)50分	諸連絡	
		9:00-10:30	10:00-11:00			13:00-14:20	14:30-16:00	16:10-17:00		17:00-17:30
4	8月11日	交流のシ ミュレーシ ョン50分	障害者に対する園芸実習 (久保田 豊和)120分	10:00-12:00	昼休み	幼児・園児に対する園芸実習 (久保田 豊和)120分	プログラミング演習② 活動と評価 (久保田 豊和)120分	諸連絡		
		9:00-9:50	10:00-12:00			13:00-15:00	15:00-17:00		17:00-17:30	
5	8月12日	「生物活用・グリーンライ フ」新しい授業展開の可 能性 (久保田 豊和)120分	閉講式	11:10-11:30		13:00-15:00				17:00-17:30
		9:00-11:00	11:10-11:30							

会場 静岡県三島市商工会議所

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（農業A-2）「動物・微生物バイオテクノロジーに関する講義と実習」						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等						
開 催 期 日	平成23年7月25日（月）～平成23年7月29日（金）					5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	15	人	受講者数	2	人	参加率 13.3%
開 催 場 所	筑波農林研修交流センター（茨城県つくば市）						

※ 全体受講定員 325 人、 受講者数 237 人、 参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	2	0	0	0	0	0	2
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	2	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・学校現場で使える技術、知識を習得でき、大変良い研修でした。少人数ということもあり、より深い内容を教えて頂き、大変参考になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。

次年度に向けて

- ・中期計画に掲げる「各研修コースの廃止等の基準」に基づき、平成23年度をもって廃止。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別紙1)

平成23年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(農業 A-2)

団体名 全国農業高等学校長協会

日時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	備考			
7月25日 (月)			受付	昼休み	講演 文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 添野龍雄先生	バイオテクノロジーに関する講義							
			研修説明 自己紹介 等			講義1 明治大学 農学部 農芸化学科 先端農学研究センター 食品機能開発部門	講義2	1.5h					
			農業高等学校長協会										
7月26日 (火)	講義3		実習1	昼休み	遺伝子組換え 前処理 (培地作製)	実習2	1.5h	講義4		講義・実習 講師: (株)ベンチャーバンク 石川貴大氏 助手: 日本微生物クリニック (株) 大澤 秋明氏			
	DNA抽出	1h									DNA抽出	2h	PCR
7月27日 (水)	講義5		3h	昼休み	遺伝子組換え	実習3	2.5h	講義6		講義・実習 講師: (株)ベンチャーバンク 石川貴大氏 助手: 日本微生物クリニック (株) 大澤 秋明氏			
	遺伝子組換え										電気泳動	1.5h	
7月28日 (木)	実習4		3h	昼休み	電気泳動	実習5	PCR	考察2	実習6	講義・実習 講師: (株)ベンチャーバンク 石川貴大氏 助手: 日本微生物クリニック (株) 大澤 秋明氏			
	電気泳動										遺伝子組換え	PCR	1h
7月29日 (金)	講義7		3h	昼休み	情報交換会	PCR	1h	閉講式					
	施設見学										1h	1h	
	実験ほ場・ジーンバンク リサーチギャラリー		2h								情報交換会	1.5h	0.5h

研修実施場所: 農林水産省 農林水産技術会議事務局 筑波農林交流センター

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（工業B－１）「環境工学に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成２３年８月２２日（月）～平成２３年８月２６日（金）					５日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	19	人	参加率	95.0%
開 催 場 所	足利工業大学（栃木県足利市）							

※ 全体受講定員 325 人、受講者数 237 人、参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義		概ね有意義										
人数 (人)	割合 (%)	18	94.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.3	0	0.0	19
		18	94.7											

2. 研修内容に関する主な意見

・講師の方々皆さんの工夫された教材の準備や日本は勿論、世界の最先端の技術や各問題点について、紹介や指導していただくことができ、大変有意義でした。CO2排出量、クリーンなエネルギーに関する教材作成に役立ちます。小型風車製作において、複数の形状の翼形の特徴を実験値で確認できたと思います。

・専門ではない分野は難しく感じた所もあったが、ほど良く実習などもあり、とても楽しみながら研修に取り組むことが出来た。また、課題研究などで取り組める内容もあり、環境工学について、今後も自分なりに勉強していこうと思った。再生エネルギーが今後、主となるエネルギーになると良いと思います。

・幅広い内容を詳しく丁寧に指導して頂き、特に実験・実習を通して多くの体験をすることが出来ました。私たちが充実した研修となるために大学の先生方、運営の方々には、多大な時間の準備をして頂き、深く感謝いたします。5日間本当に濃い内容で多くの知識・技能を修得することが出来ました。今回の研修に参加して「良かった」「楽しかった」と感じるもので心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

・環境工学基礎ということで、自然（再生可能）エネルギーについて学ぶことが出来大変有意義でした。各エネルギーの理論から利用状況まで大変多くの知識を習得できたことは工業科教員としても大きな事でした。資料・教材（実習）も充実しており大変助かりました。足工大の方々の対応が素晴らしく、リラックスできた状態で研修を行うことが出来ました。今回の研修において、関係された方々に深く感謝いたします。

・これからの工業各分野に於いて、環境や資源、エネルギーに関する内容はますます重要なテーマ・課題になる。その意味において、様々な環境工学に関する事例の学習は重要になると思われるので、今後とも様々な形で研修の場を提供して欲しい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。

次年度に向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別添1)

平成23年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(工業、B-1)

団体名：足利工業大学

日時	曜日	9:30～11:00		休憩10分	11:10～12:40	休憩50分	13:30～15:00	休憩10分	15:10～16:40	
8月22日	月	開講式	資料配布・ガイダンス	全員	太陽エネルギー(座学)	安藤	太陽電池の製作と性能評価1	安藤	太陽電池の製作と性能評価2	安藤
8月23日	火	太陽熱利用技術 (座学)		中條	ソーラークッカーの製作と性能評価1	中條	ソーラークッカーの製作と性能評価2	中條	環境とエネルギー(座学)	牛山
8月24日	水	風力エネルギー (座学)		牛山	風力発電機の設計方法(座学)	西沢	風力発電機の製作1	西沢	風力発電機の製作2	西沢
8月25日	木	風力発電機の性能評価 ₁		西沢	風力発電機の性能評価 ₂	西沢	環境分析(座学)	小林	環境分析(実習)	小林
8月26日	金	小水力発電 (座学)		根本	バイオマスエネルギー(座学)	根本	環境とライフスタイル(座学)	根本	閉講式	全員

実施会場：総合研究センター

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（工業B-2）「知的財産教育に関する講義と実習」				
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ				
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。				
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等				
開 催 期 日	平成23年8月1日（月）～平成23年8月5日（金）				5日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	8 人 参加率 40.0%
開 催 場 所	独立行政法人 工業所有権情報・研修館（東京都千代田区）				

※ 全体受講定員 325 人、 受講者数 237 人、 参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	8	100.0	0	0.0	0	0.0	8
割合 (%)	8	100.0	0	0.0	0	0.0	8

2. 研修内容に関する主な意見

・今までの工業教育の在り方と今後の工業教育の在り方について、「知的財産教育」という観点で方向性を確認し、「不易」と「流行」の整理をする良い機会（研修）となりました。興味・関心だけではなく、知識・理解と並行して、「発想訓練」等の手法を授業の中にどの様に取り入れていくのが効果的なのかを常に考えていました。今まで行ってきた、どの部分が「知的財産教育」に相当していたのかを検証し、より充実した教材開発と授業研究の研鑽を積むと共に情報収集・情報発信に努めていきたいと考えております。 ・この研修を受ける前の知的財産教育のイメージは、「制度を教えるもの」と言うものでしたが、その考えかたが大きく変わるキッカケとなった研修でした。今後の生徒指導、学習指導、進路指導など、全てに生かしていきたいと思う内容で、大変有意義でした。ありがとうございました。 ・初めて知財教育に関する研修を受けました。当初は、不安が先行していましたが、多くの実施例を見て少し安心出来ました。今までやってきたことを少し工夫することにより、生徒の興味・関心・実行力が大きく変わることが分かりました。 ・研修に参加させていただく前は、法律の制度学習であり、あまり工業高校には必要ないと考えていたが、発想力・創造力を育成する事のほうが主目的であることが理解できて、もっと取り組まないといけないと感じた。また、制度の学習も今後の生徒にとってとても大切であると感じた。 ・知的財産権及びその教育について、多彩な内容を講習頂いた。非常にハードな日程であったと思うが、それを上回る内容の充実だった。今後のすそ野人材（高校生など）の育成に大変役立っていくものと感じた。運営も良く、素晴らしい研修環境を与えて頂いた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度産業・情報技術等指導者養成研修(B-2)
日程表

月日	時間	研 修 科 目	時間数	講 師	研修会場
	開始 ～ 終了			役職	
8/1 (月)	10:00 ～ 10:20	開講式 オリエンテーション		文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官(教科調査官) 持田 雄一 (独)工業所有権情報・研修館 人材育成部長 田中 守章	104号室 (経産省 別館1階)
	10:30 ～ 11:20	高等学校における知財教育	1	文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官(教科調査官) 持田 雄一	
	11:30 ～ 12:20	特許法の概要	3	辻田特許事務所 弁理士 辻田 幸史	
	13:30 ～ 14:20				
	14:30 ～ 15:20				
	15:30 ～ 16:20	意匠法・商標法の概要	3	東京理科大学専門職大学院 准教授 鈴木 公明	
	16:30 ～ 17:20				
	17:30 ～ 18:20				
	18:30 ～ 20:00	懇親会			
8/2 (火)	9:30 ～ 10:30	著作権法の概要	3.5	東海大学法科大学院 教授 角田 政芳	104号室 (経産省 別館1階)
	10:40 ～ 11:50				
	13:00 ～ 14:10	IPDL検索演習	3	(独)工業所有権情報・研修館 情報提供部 特許電子図書館担当 主査 安野 猛	813号室 (経産省 別館8階)
	14:30 ～ 15:30				
	15:40 ～ 16:40				
	16:50 ～ 17:50				
8/3 (水)	9:30 ～ 10:20	不正競争防止法の概要	2	経済産業省 経済産業政策局知的財産政策室 総括係長 梶澤 道夫	104号室 (経産省 別館1階)
	10:30 ～ 11:20				
	11:30 ～ 12:20	営業秘密の保護及び営業秘密 管理指針の概要	1	経済産業省 経済産業政策局知的財産政策室 島田 紀章	
	13:30 ～ 14:20	知的財産教育の意義 ーDVD取材制作に関わってー	2	全国知財・創造教育研究会 会長 籠原裕明	
	14:30 ～ 15:20				
	15:30 ～ 16:30	知財教育の実施例①	1	福岡県立小倉工業高等学校 教諭 古谷 浩伸	
	16:40 ～ 17:40	知財教育の実施例②	1	長崎県立島原農業高等学校 教諭 陣内 秀樹	
8/4 (木)	9:30 ～ 10:30	(特許庁庁内見学)			特許庁
	10:40 ～ 11:50				
	13:00 ～ 13:50	知的財産教育とその実践	2	愛媛県立東予高等学校 教頭 内藤 善文	104号室 (経産省 別館1階)
	14:00 ～ 15:00				
	15:10 ～ 16:00	知財教育の実施例③	2	香川県立三豊工業高等学校 教諭 勘原 利幸	
	16:10 ～ 17:00				
8/5 (金)	9:30 ～ 10:20	知財カリキュラム設計について (グループ討論・発表)	3	鹿児島県教育庁高校教育課 主任指導主事 満丸 浩 長崎県立長崎工業高等学校 教頭 梅野 剛	104号室 (経産省 別館1階)
	10:30 ～ 11:20				
	11:30 ～ 12:20				
	13:20 ～ 14:10	知財教育の演習	2		
	14:20 ～ 15:10				
	15:20 ～ 15:30	閉講式		(独)工業所有権情報・研修館 (独)教員研修センター	

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（商業C－1）「マーケティングと経済に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成23年7月25日（月）～平成23年7月29日（金）				5日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	40	人	受講者数	36	参加率 90.0%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）					

※ 全体受講定員 325 人、 受講者数 237 人、 参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	34	94.4	2	5.6	0	0.0	36
		36	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・ 今回の研修を通して、多くの知識を学ぶ事が出来た。そして、何よりも学んだ知識をどの様に生かしているのかという学校での取り組みを見ることができたのが大きかった。自校でも取り入れたい興味深い内容が多かったので、検討し積極的に活かしたいと思った。ありがとうございました。 ・ 個人でこの内容を研修・勉強しようとするに限界があります。私はマーケティングの授業を継続して担当しているため、研修内容がとても魅力的と思い参加しました。実際5日間を終えてみて、幅広い知識を得る事ができ、また、様々な体験ができ、更にたくさんの先生方と交流できたことを嬉しく思います。 ・ 本来この研修に参加するのは別の者であったが、代わりに参加して本当に良かったと思う。先進的な実践や企業の方の取り組みは何よりも私達の教材になり、更に新しいものを生み出したいというパワーの源になってくれたと思います。 ・ 他県、他校の取り組みが分かり、参考になった。「商品と流通」「マーケティング」の授業で取り入れる事のできる内容を見つけ生徒に還元していきたいと感じた。商品開発・・・実際に学校で試作をするのが難しく、協力企業を探すのに苦労しているが、物づくりにこだわることなく、「コーディネートする」、パッケージデザインなど、商業の専門性を活かして授業展開できると今後やるべきこと、できることが見えてきたように思う貴重な時間をありがとうございました。 ・ 研修内容について、大変中味の充実した内容でした。時間が足りず、講師の先生が伝えたい事の半分も言えなかったのではないのでしょうか。我々、普段は教える側で聴くことがこんなにしんどいものとは思いませんでした。とても貴重な体験を得る事が出来ました。生徒が進化する、満足する授業を目指したいと思います。意見としては、折角素晴らしい講義ばかりですので、もっと詳しく知りたいです。2週間というスパンは、不可能でしょうか、是非ご検討をお願いします。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・ 研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別添 1)

平成 23 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程表

(商業, C-1)

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
7月25日 (月)		受付 開講式	(講義)「次代を見 すえたビジネス教 育」	昼休み	(講義) 「経済動向に関する 講義 (仮)」	(講義) 「消費者行動とマーケテ ィング」					
7月26日 (火)	(講義) 「商業高校における起業家教育と ケースメソッドについて」				昼休み	(講義) 「高等学校における ケースメソッド教育の取組」					
7月27日 (水)	(講義) 「化粧品企業の ブランドマーケティング」				昼休み	(講義) 「商品開発と知的財産権」					
7月28日 (木)	(実習)「商品のソフト化 と消費技術」「商品開発の 視点からの実習について」	(講義)「マーケティング活動を通じたCSR：企業と社会を考える」			昼 休 み	移動	(見学と講義) 企業・工場見学 (食品関連企業) 「食品関連企業における商品開発(仮)」		移動		
7月29日 (金)	(講義) 「企業と生徒が向き合う教室 ～雪花菜工房の事例から～」	閉 講 式			昼 休 み	移動	(見学と講義)「テーマパ ークにおけるマーケティング と危機管理」	現地解散 (舞浜)			

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（水産D－１） 「海洋環境の保全に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成２３年８月２７日（土）～平成２３年８月３１日（水）					５日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	15	人	受講者数	5	人	参加率	33.3%
開 催 場 所	東海大学三保研修館（静岡県静岡市）							

※ 全体受講定員 325 人、 受講者数 237 人、 参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	5	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5
		5	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・水辺の安全を確保する具体的な事例・教授方法がわかり充実した研修であった ・今回の研修はライフセービングということで、当初は人命救助をメインに行うと思っていましたが、人命救助はもとより、助かることの体験がかなり印象的であった。できれば、水産・海洋学校では授業の中に取り入れるべきであると感じた。 ・水産基礎で、海に出て行くので、知っておく必要がある研修であると感じています。海、プール。宿泊等が近くにあり、すぐ移動出来てとても良い研修環境であると感じました。座学・実技の繰り返しでしっかり知識を取り込んだ後に実技が出来て更に「方法」を伝えてもらえるのでよかったです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・中期計画に掲げる「各研修コースの廃止等の基準」に基づき、平成23年度をもって廃止。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度・情報技術指導者養成研修日程表(高等学校 水産: D-1)

【別添1】

	日程	7:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	
1日目	8月27日 (土)	移動											
			①開校式 オリエンテーション	②サーフ(海) 実習1								夕食	
2日目	8月28日 (日)	朝食		③サーフ(海) 実習2		昼食	④心肺蘇生法 講義	⑤心肺蘇生法 実習1					夕食
3日目	8月29日 (月)	朝食		⑥ウォーターセーフティー (プール) 実習1		昼食	⑦ウォーターセーフティー 講義	⑧心肺蘇生法 実習2					夕食 懇親会
4日目	8月30日 (火)	朝食		⑨ウォーターセーフティー (プール) 実習2		昼食	⑩ライフセービング 講義	⑪応急手当 講義 実習					夕食
5日目	8月31日 (水)	朝食		⑫ウォーターセーフティー (プール) 実習2		⑬閉講式 解散	移動						

カリキュラム	内 容	JLA 認定資格
①開校式／オリエンテーション	主催者あいさつ、自己紹介、プログラムの流れ、事務連絡等	1) 心肺蘇生法資格 ④+⑤+⑧ 2) ウォーターセーフティー資格 ⑥+⑦+⑨+⑫ 3) ウォーターセーフティー インストラクター資格 ⑥+⑦+⑨+⑫+特別プログラム
②サーフ(海) 実習1	フィットネス／サーフトレーニング、チューブレスキュー、ボードレスキュー	
③サーフ(海) 実習2	フィットネス／サーフトレーニング、チューブレスキュー、ボードレスキュー	
④心肺蘇生法 講義	心肺蘇生法の意義、呼吸・循環器のしくみ、心肺蘇生法の理論、溺水事故での心肺蘇生法、ガイドライン2010	
⑤心肺蘇生法 実習1	心肺蘇生法の実践(AED含む)	
⑥ウォーターセーフティー(プール) 実習1	アクアエクスサイズ、水泳とサヴァイバル(助かるための知識と技術)、水泳とライフセービングストローク、救助技術	
⑦ウォーターセーフティー 講義	指導者に求められる水辺の安全の基礎知識	
⑧心肺蘇生法 実習2	心肺蘇生法の実践(AED含む)	
⑨ウォーターセーフティー(プール) 実習2	アクアエクスサイズ、水泳とサヴァイバル(助かるための知識と技術)、水泳とライフセービングストローク、救助技術	
⑩ライフセービング 講義	指導者に求められる救命と生命倫理	
⑪応急手当 実習	応急手当の基本、水辺で起こりやすいケガや病気と実際の応急手当	
⑫ウォーターセーフティー(プール) 実習2	アクアエクスサイズ、水泳とサヴァイバル(助かるための知識と技術)、水泳とライフセービングストローク、救助技術	
⑬閉講式	事務連絡、終了証授与、主催者あいさつ	

※荒天によりプログラムの時間変更になる場合がございますので予めご了承ください。

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（家庭E－1） 「新学習指導要領に対応した「生活産業基礎」の指導力向上のための講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成23年8月8日（月）～8月11日（木）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	30	参加率 150.0%
開 催 場 所	全国高等学校長協会家庭部会（東京都千代田区 他）					

※ 全体受講定員 325 人、 受講者数 237 人、 参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	28	93.3	2	6.7	0	0.0	30
		30	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・参加する前は、4日間も頑張れるだろうかと大変不安でした。しかし、どの講義もとても興味深く、どの内容も、ス〜っと染み入るような素晴らしいものでした。なかなか4日間という長期間は学校を空けにくく、毎年という訳には行きませんが、2日間程のものが年に何回かあると参加しやすいのかもしれない（地方のものにとっては）。今回の研修を企画してくださった先生方には感謝申し上げます。学校に持ち帰り、是非生徒達に還元したいと思います。ありがとうございました。
・素晴らしい講師陣、パワフルな企画運営で、こんなにいい思いをできてしまっただけでいいのか？！と思うほど充実の研修でした。自分がしばらく受身で仕事をしていただけだと気付かされました。土台になっていけるよう、真実を語れるよう、努めたいと思います。ありがとうございました。
・講義内容と構成、資料や場所等、様々なことが配慮されていて素晴らしい研修でした。また、講師の先生方を始め、全国の先生方の魅力的なお人柄に触れることができ、自らの課題や奮起する気持ちが湧き出てきました。事務局の先生方が日頃より私達や生徒の為に陰ながら全面的に丸となって御協力して下さっている事にも頭の下がる思いでいっぱいです。
・研修内容が充実していて、刺激を受けながら有意義な勉強をさせて頂いた。各分野の先駆者に実際にお会いして、その人間性を感じながら講義を受けられることは、その専門知識のみならず、プロとしての生き方・在り方を学ばせて頂いたように思う。4日間で得たものを自県・自校に持ち帰り、よく消化して日々の実践や自分の仕事の取り組み方に生かしていきたいです。大変お世話になり、ありがとうございました。
・日本文化について、改めて触れることができ、文化を伝承していく、生徒に和を伝えていく責任があると感じました。生徒に伝えるには、もっと勉強が必要ですが、普段から和の心、振る舞いを大切にしたいと思っています。ありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別添1)

平成23年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程 E-1

家庭 Aコース

全国高等学校長協会家庭部会

回	月日(曜)	午前1(9時30分～11時)			午前2(11時～12時30分)		昼休み	午後1(13時30分～15時00分)		午後2(午後15時00分～16時30分)		備 考	
		9:30	10:00	10:45	11:00	11:40		12:30	13:30	14:10	15:30		16:00
1	8月8日 (月)	【開講式】		【講義】 「新しい学習指導要領の実施とこれからの家庭科教育」 文部科学省教科調査官 望月 昌代	【講義】 「高等学校家庭科における キャリア教育・職業教育の在り方」 奈良教育大学教職大学院准教授 河崎 智恵			【実践事例・演習】 「家庭科におけるキャリア教育の推進」 静岡県立御殿場高等学校教諭 大庭 久代		【講義】 「教師としての 専門性を高めるために」 前岩手県立西和賀高等学校長 酒井 孝子		全国高等学校長協会 家庭部会事務局 会議室 (千代田区)	
2	8月9日 (火)	【講義・体験】 「ネット時代の家庭科教育一遠隔学習の教育効果を探る実情一」 文化服装学院 井手口 和子		【講義】 「アパレル業界の経営戦略と人材育成」 メーカーズシャツ鎌倉 代表取締役 貞末 良雄				【講義】 「素材のもつトレンド性と 実用性について」 文化服装学院 非常勤講師 神山 勝雄		【講義・実習】 「発想の転換 立体の原始的発想 一視覚でとらえられる 服づくりの原点一」 文化服装学院指導主事 丸山 晴美		【実践事例】 「立体裁断をどう授業 に取り入れるか」 都立農業高等学校教諭 高橋 和子	文化服装学院(渋谷区)
3	8月10日 (水)	【講義】 「最近の健康問題と調理学(Ⅰ)」 実践女子大学 教授 数野 千恵子			【実習・実験】 「最近の健康問題と調理学(Ⅱ) 一中食・調理済み食品の 開発を中心として一」 実践女子大学 教授 数野 千恵子			【講義】 「江戸の食と暮らし 一現代の食生活の原点を探る一」 元都立立川短期大学 助教授 石川 尚子		【講義】 「現代の食生活をどう考えるか 一国際的に見た 食の現状と課題一」 独立行政法人国立健康・栄養 研究所栄養疫学研究部 食事摂取 基準研究室長 笠岡(坪山) 宣代		実践女子大学 (日野市)	
4	8月11日 (木)	【講義】 「乳幼児の発達と心理」 大妻女子大学教授 田代 和美			【講義・演習】 「子どもと絵本 一幼児の発達と読み聞かせ一」 公益財団法人東京子ども図書館 職員 内藤 直子			【講義】 保育技術検定の紹介	【講義・見学・体験】 「幼児の生活・遊び・学び 一新しい『子ども園』とその実態一」 新宿区立四谷子ども園 園長 渡邊 郁 美		【閉講式】		全国高等学校長協会 家庭部会事務局 (千代田区) 新宿区立四谷子ども園

(別添1)

平成23年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程 E-1

家庭 Bコース

全国高等学校長協会家庭部会

月日(曜)		午前1(9時30分～11時)			午前2(11時～12時00分)		昼休み	午後1(13時00分～15時00分)			午後2(午後15時00分～16時30分)		備 考
		9:30	10:00		11:00	11:30		12:30	13:00	14:00	14:30	16:00	
1	8月8日 (月)	【開講式】	【講義】 「新しい学習指導要領の実施とこれからの家庭科教育」 文部科学省 教科調査官 望月 昌代		【講義】 「高等学校家庭科におけるキャリア教育・職業教育の在り方」 奈良教育大学教職大学院 准教授 河崎 智恵		移動		【講義】 「礼法・日常のマナー」 装道礼法きもの学院 副学院長 山中 緑		片付け	午前:全国 高等学校長 協会家庭部 会事務局会 議室(千代 田区) 午後:装道 礼法きもの 学院(千代 田区)	
2	8月9日 (火)	【講義】 「装道の精神美学」 (社)全日本きものコンサルタント協会 会長 山中 典士					【講義】 「服飾文化の伝統」 「和装の知識・種類」 装道礼法きもの学院 助教授 藤森 敦子		【講義】 「伝統の染織」 一産地の染織品紹介一 装道礼法きもの学院 講師 宮下 和彦		片付け	装道礼法き もの学院 (千代田区)	
3	8月10日 (水)	【講義】 「和装の通過儀礼・生活文化」 装道礼法きもの学院 助教授 藤森 敦子		【礼法実技】 「日常のマナーの実践」 装道礼法きもの学院 副学院長 山中 緑			【着装実技】 「着装の基本～仕上げ」 装道礼法きもの学院 副学院長 松田 美恵子		【質疑応答】 【記念撮影】		【閉講式】	装道礼法き もの学院 (千代田区)	

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（看護F－１）「看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成２３年８月１日（月）～平成２３年８月５日（金）					５日間		
受 講 人 数	受講定員 （計画人数）	25	人	受講者数	18	人	参加率	72.0%
開 催 場 所	川崎医療福祉大学（岡山県倉敷市）							

※ 全体受講定員 325 人、 受講者数 237 人、 参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	13	4	0	0	1	0	18
割合 (%)	72.2	22.2	0.0	0.0	5.6	0.0	
	17	94.4					

2. 研修内容に関する主な意見

・生徒に対し、タスクマネジメント・自己管理・キャリアを考えられる場面を提供してゆくことが、能力・コミュニケーション・モチベーションの向上につながってゆくことが、全ての講義の中から感じられた。また、今回のグループワークのための課題やテーマに選んだ内容に対する解決法がたくさん織り込まれていたことに気付いた。これを持ち帰り具体的な対策につなげてゆきたい。今回の研修のため、早朝より、また事前にご準備・ご配慮いただきましたことを感謝いたします。 ・これまで参加の機会に恵まれず、楽しみにしていた研修だった。多くの分野からテーマを選び講義をして頂き、校内では学べないことが多くあった。1つの領域の内容について1日講義と演習をする形でも良いと思う。これだけは話そうと考え準備して下さったスライドが早送りだったり、途中で終わったりして残念に思った。受講者のニーズがつかめない中、最新の医療から、日常の指導に使えるものまで、多岐に渡りプログラムを組んでくださり、開講して下さったことに感謝します。他校の先生方との情報交換はとても有意義なので、来年も参加したいです。勤めて15年になりますが、全国大会に参加したのは1回です。学校差もありますが、大きな研修に参加できるチャンスは少ないです。 ・Gワークでは、他学校の先生方との活発な情報交換が出来たと思います。指導していく中で迷う場面もあり、方法・方策など参考にさせて頂きたいと思うことがたくさんありました。実習では、フィールドが充実されており、本校でも少しずつ充実させ演習の強化を図りたいと思いました。 ・最先端の医療の現場での研修はとても有意義でした。生徒に教える立場である自分が、もっともっと学習を深めなければと再確認しました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成 23 年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程

看護 (F-1)

1. 期 間 平成 23 年 8 月 1 日 (月) ～平成 22 年 8 月 5 日 (金)
2. 会 場 学校法人 川崎学園 川崎医療福祉大学
〒701-0193 岡山倉敷市松島 288 番地
電 話：086-462-1111 (担当：津島 内線：54903)、F A X：086-464-1109

3. 講習時間 午前の部 9：30～12：45
午後の部 13：45～17：00

4. 講習内容

日時	9:30	10:00	10:30	10:45	11:15	11:45	12:45～	14:30	15:15	17:00
							13:45	14:15	15:30	
8月1日 (月)	受付	開講式	休憩	「看護ケアの本質」 川崎医療福祉大学長 岡田 喜篤	「看護基礎教育の動向」 文部科学省教科調査官 福村知加子	昼食	「精神保健看護学の現状と課題」 山陽学園大学 看護学部 看護学科 准教授 吉川 隆博	「地域における保健・医療・福祉サービスの現状と課題」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 三徳 和子	「事前課題を素材としたグループワーク」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 竹田 恵子 教授 山本 八千代 准教授 松本 啓子 准教授 石川 フカエ 講師 森戸 雅子 講師 下川 清美	
8月2日 (火)	「医薬物使用における危機管理」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 守屋 文夫	休憩	「がん免疫療法の最前線」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 中山 睿一	「看護基礎教育の動向」 文部科学省教科調査官 福村知加子	昼食	「精神保健看護学の現状と課題」 山陽学園大学 看護学部 看護学科 准教授 吉川 隆博	「地域における保健・医療・福祉サービスの現状と課題」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 三徳 和子	「事前課題を素材としたグループワーク」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 竹田 恵子 教授 山本 八千代 准教授 松本 啓子 准教授 石川 フカエ 講師 森戸 雅子 講師 下川 清美		
8月3日 (水)	「院内感染の最近の動向とその予防対策」 川崎医科大学附属川崎病院 医療安全管理部院内感染対策室 院内感染管理者 副師長 松田 真哉	休憩	「疾患のある子どもをとりまくチーム医療」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 中新 美保子	「看護基礎教育の動向」 文部科学省教科調査官 福村知加子	昼食	「精神保健看護学の現状と課題」 山陽学園大学 看護学部 看護学科 准教授 吉川 隆博	「地域における保健・医療・福祉サービスの現状と課題」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 三徳 和子	「事前課題を素材としたグループワーク」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 竹田 恵子 教授 山本 八千代 准教授 松本 啓子 准教授 石川 フカエ 講師 森戸 雅子 講師 下川 清美		
8月4日 (木)	「看護過程と看護情報の共有化」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 伊東 美佐江	休憩	「臨地実習指導－教材と教材化－」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 講師 小野 美穂	「看護基礎教育の動向」 文部科学省教科調査官 福村知加子	昼食	「精神保健看護学の現状と課題」 山陽学園大学 看護学部 看護学科 准教授 吉川 隆博	「地域における保健・医療・福祉サービスの現状と課題」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 三徳 和子	「事前課題を素材としたグループワーク」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 竹田 恵子 教授 山本 八千代 准教授 松本 啓子 准教授 石川 フカエ 講師 森戸 雅子 講師 下川 清美		
8月5日 (金)	「看護管理と卒後教育のあり方」 川崎医科大学附属病院 看護部長 千田 美智子	休憩	「川崎医科大学附属病院卒後臨床研修センター実習」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 講師 大倉 美穂 助教 細川 京子	「看護職のキャリア開発」 西南学院大学 保健福祉学部 看護学科 教授 飯野 英親	まとめ	休憩	閉講式			

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（情報G－１） 「ネットワークシステムの構築・運営管理とシステム設計に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成23年7月25日～平成23年7月29日					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	24	人	参加率	96.0%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 325 人、 受講者数 237 人、 参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	19	79.2	5	20.8	0	0.0	0	0.0	24
		24	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・短い期間でしたが、様々なことが学習できて良かったと思います。もう少し長ければ深く学べた様な気がしますが、十分理解を深めることが出来ました。また、このような機会があれば参加したいと思います。ありがとうございました。 ・全くの基礎知識から応用まで幅広い研修を受けることができ有意義だった。この内容を授業で生かすか、業務支援に生かすかは各個人の裁量に任されていたが、できれば授業実践例、業務利用例まで参考に見せて欲しい。講演はどの話もとても刺激になり、更に自己研鑽しなければと感じさせるものだった。 ・多岐に渡る内容を集中的に研修する機会に恵まれ、大変感謝しております。これからは勤務校に戻って校内の研修、機会があれば学校外での研修に活用していきたいと思っております。今後ともこの研修が発展されることを期待しております。ありがとうございました。 ・教育現場を離れ、じっくりと研修の機会がもてたのはとても有意義であった。長期休業中にしか出来ない研修である。また、高度な知識や技術を習得する上でとても有効であったと思う。ぜひ、機会があれば同様の研修に参加したい。 ・今まで自分が持っていた（学んできた）知識、技術を今回の研修を受けることにより、整理され、授業への導入について考える事が出来ました。今回の内容を普及・促進できるように頑張ります。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度産業・情報技術等指導者養成研修日程表
(情報, G-1)

団体名 千葉商科大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月25日(月)	※適宜休憩 開講式	※適宜休憩 ネットワークの基礎(講・実) (物理ネットワーク)			昼休み	ネットワークの基礎(講・実) (IPネットワーク)	ネットワークの応用(講・実) (ファイルサーバ構築)		
7月26日(火)	Webサーバーの構築(講・実)	HTMLの基礎(講・実)	昼休み	HTMLの基礎(講・実)	HTMLの基礎(講・実)	※適宜休憩 ダイナミックHTML(講・実)	IT事業の展望(講義) (Web関連の動向-仮題-)		
7月27日(水)	HTMLの基礎(講・実)	ダイナミックHTML(講・実)	昼休み	※適宜休憩 ダイナミックHTML(講・実)					
7月28日(木)	※適宜休憩 Excel VBAによるシステム設計(実習)		昼休み	※適宜休憩 Accessによるシステム設計(実習)					
7月29日(金)	研究事例 「ネットワークの指導」	※適宜休憩 Webアプリケーション(講・実)	昼休み	※適宜休憩 Webアプリケーション(講・実)	閉講式				

会場：千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（福祉H-1） 「介護福祉士養成の新課程に対応した教育内容とその教授法に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成23年8月16日～平成23年8月19日					4日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	8	人 参加率 40.0%
開 催 場 所	さいたま市民会館うらわ（埼玉県さいたま市）					

※ 全体受講定員 325 人、 受講者数 237 人、 参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8
		8	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・本校でのヘルパー講座の運営においても、今後、福祉の免許を取得するにあたって、非常に有意義な研修になりました。学ぶ事の喜びを久しぶりに感じ、その点においても生徒に還元できればと思います。また、機会があれば参加させて頂きたいと思います。本当にありがとうございました。
・少人数だったからこそ、一人一人の意見を言う場があり、それに答えてもらえる時間があったので、その場で疑問を解決することが出来て良かったです。
・非常に魅力的な先生方の下で魅力的な講義を受けられたことを、大変幸せに思いました。また、他県の様子も知ることができ、大変良かった。学ぶ事の楽しさを知ることが出来た。より学ぶ機会があればと思う。
・4日間とても短く感じました。少人数だったので、演習1つ1つにアドバイスを頂き、とてもよく理解することが出来ました。学ぶ事が、とても楽しかったです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・文部科学省が、介護福祉士養成高校の教員要件として課す講習会を、平成25年度まで実施することとなったため、本研修コースについては、平成24年度から2年間休止することとする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

(別添 1)

平成 2 3 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(教科名, 研修番号) 福祉H-1 団体名 全国福祉高等学校長会

「介護実習の指導等における講義と演習」

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8 月 1 6 日 (火)	受付	開講式	講義 「介護実習の意義と必要性」	休 息			講義 「多様な生徒理解」		
8 月 1 7 日 (水)		講義と演習 「スーパービジョンの基礎・実践①」					講義と演習 「スーパービジョンの基礎・実践②」		
8 月 1 8 日 (木)		講義と演習 「ケア・マネジメントの基礎・実践①」					講義と演習 「ケア・マネジメントの基礎・実践②」		
8 月 1 9 日 (金)		講義と演習 「ソーシャル・アドミニストレーションの基礎・実践」					講義 実習生への指導にあたって	演習 研修振り返り	講義 「高校福祉教育について」 閉講式

会場 さいたま市民会館うらわ 5 0 5 集会室
住所 埼玉県さいたま市浦和区仲町2-10-22
電話 048-822-7101 FAX 048-822-7106

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（技術家庭I-1）「社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領への対応を目指して」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等					
開 催 期 日	平成23年9月12日～平成23年9月16日					5日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	19	人 参加率 95.0%
開 催 場 所	宮城教育大学（宮城県仙台市）					

※ 全体受講定員 325 人、 受講者数 237 人、 参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	16	84.2	3	15.8	0	0.0	0	0.0	19
		19	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・ 5 日間にわたり、大学の先生方から貴重な講義及び実習を準備していただいた。教科調査官からの評価についての講義は、自分の今後に大きく関係しており、帰ってすぐにでも見なおす必要があることを実感させられた。生徒や、県内の先生方にも、学んだことを伝えていきたい。
・ 新しい内容をふまえた講座であり、参考にし、工夫実践していきたいと感じた。ただ、中学校現場に即した教材や講義内容だとありがたいのですが、少々難しい理論もありました。講師の先生や補助の学生の皆さんの細かな配慮がとてもうれしく、気持ちよく受講することができました。
・ これからの生活で役に立つ講義や実習が多く、とても勉強になった。教員になって 10 年たつと経験やこれまでの知識で授業を行うことが多くなっていた。これまでの知識をうたがったり、確認したりすることはなかったし、新しく勉強することもなかった。本研修でいろいろと教えて頂くなかで、これではいけないと思った。もっともっと勉強をしたい。そう思えるようになったことが、私がこの研修に参加をした一番の成果だと思います。この研修に参加できてよかったです。
・ 研修で大変お世話になり、大変有意義な 5 日間でした。私たちの研修に様々な準備、計画などお世話になりました。5 日間で学んだことを帰って実践に取り入れられる所をしっかりと取り入れ、子どもたちに、本教科の楽しさや重要性を知って欲しいと思いました。
・ 自分が普段教えたり、やっていなかったことが、あらためて勉強でき、とてもありがたかったです。中には、具体的に指導や研修で活用できるものもあったので、自分のものにして、いかしたいと思います。（特に、LED、生物育成、授業づくり）

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・ 研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別添1)

平成23年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術, I-1)

団休名：国立大学法人宮城教育大学

日 時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
9月12日 (月)	受付 9:00-9:50	開講式 9:30-9:50	(講義) 新学習指導要領における評価	10:00-11:30	(実習) 木材加工1 (木材加工小作品の製作) 11:40-12:40	昼休み	(実習) 木材加工2 (木材加工小作品の製作) 13:30-15:00	(実習) 木材加工3 (木材加工小作品の製作) 15:10-17:10		
9月13日 (火)	(講義 (実習を含む)) システムの授業作りの方法 9:00-10:30	(講義 (実習を含む)) 動機付けモデルによる授業の仕掛けづくり 10:40-12:10	昼休み	(講義 (実習を含む)) ロボットを活用したコンピュータ制御学習1 13:00-15:00	(講義 (実習を含む)) ロボットを活用したコンピュータ制御学習2 15:10-17:10					
9月14日 (水)	(講義) 生物育成の教育内容と教材の選択 9:00-10:30	(実習) 短期間や狭い場所でも実践できる作物栽培の体験1 (ペットボトル・袋栽培、水耕栽培、棚仕立て栽培) 10:40-12:10	昼休み	(実習) 短期間や狭い場所でも実践できる作物栽培の体験2 (ペットボトル・袋栽培、水耕栽培、棚仕立て栽培) 13:00-15:00	(講義) 生物育成における新しい技術とその活用 (農薬・肥料・植物工場・バイオテクノロジー) 15:10-17:10					
9月15日 (木)	(講義) 風車の形式とエネルギー変換機構 9:00-10:30	(実習) 風車の設計と製作 10:40-12:10	昼休み	(実習) 製作した風車の評価 13:00-14:30	(講義) 電気の基礎知識とLED 14:40-15:40	(実習) LED と色々な素材を使ったインテリア照明の製作1 15:50-17:20				
9月16日 (金)	(講義 (実習を含む)) LED と色々な素材を使ったインテリア照明の製作2 9:00-10:30	(講義) エネルギー変換およびエネルギー回生教材としてのモーター 10:40-12:10	昼休み	(実習) 乾電池自動車の設計と製作1 13:00-14:00	(実習) 乾電池自動車の設計と製作2 14:10-15:40	閉講式 15:50-16:20				

実施会場：国立大学法人宮城教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（技術家庭I-2） 「社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領への対応を目指して」									
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ									
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。									
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等									
開 催 期 日	平成23年8月1日～平成23年8月5日							5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	20	人	参加率	80.0%		
開 催 場 所	鳴門教育大学（徳島県鳴門市）									

※ 全体受講定員 325 人、 受講者数 237 人、 参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合 計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	18	90.0	2	10.0	0	0.0	20
		20	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・専門的な内容について学ぶ機会が無かったので、大変参考になった。再度テキストを用いて学習し、現場で使える部分を見い出して活用していきたい。また、現場での研究、研修の場で伝えていきたい。 ・それぞれの領域について、高度な専門知識を知る良い機会となりました。改めて、この教科の専門性の重要性を実感します。直接、中学生につたえられないことも多いですが、様々な形で現場で実践したいと思います。また、全国の先生方との交流や情報交換も大変有意義でした。ありがとうございました。 ・新指導要領での指導で、おそらく困るだろうと思われる部分を詳しく御指導いただいたので、これからの指導に自信が持てそうです。ありがとうございます。 ・何より他県の先生と話ができたこと、技術について5日間集中して講義を受けられたことが良かった。現場では、技術の先生が少なく、各校1人ずついればよい程度。話しも相談も出来ずに日々を過ごすことは本当につらい。このような研修の機会があって、本当によかったと思う。 ・現在の技術科を目指す学生が学んでいる最新の内容に触れることが出来た。新しい知識や経験を得ることは大切なことだと思う。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。 次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別添1)

平成23年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術, I-2)

団体名 鳴門教育大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
平成23年 8月1日(月)		開 講 式	(講義) これからの技術・家庭(技術分野)と評価	昼休み	(講義) 計算機器の変遷	(実習) 計算具教材の開発			
8月2日(火)	(実習) 第1班：材料と加工(木材の曲げ加工) 第2班：エネルギー変換と計測・制御 第3班：情報システムとネットワーク		昼休み	(実習) 第1班：材料と加工(木材の曲げ加工) 第2班：エネルギー変換と計測・制御 第3班：情報システムとネットワーク					
8月3日(水)	(実習) 第1班：エネルギー変換と計測・制御 第2班：情報システムとネットワーク 第3班：材料と加工(木材の曲げ加工)		昼休み	(実習) 第1班：エネルギー変換と計測・制御 第2班：情報システムとネットワーク 第3班：材料と加工(木材の曲げ加工)					
8月4日(木)	(実習) 第1班：情報システムとネットワーク 第2班：材料と加工(木材の曲げ加工) 第3班：エネルギー変換と計測・制御		昼休み	(実習) 第1班：情報システムとネットワーク 第2班：材料と加工(木材の曲げ加工) 第3班：エネルギー変換と計測・制御					
8月5日(金)	(研究協議) 第1・2・3班： 技術教育ディスカッション (各班での協議)		昼休み	(研究協議) 技術教育ディスカッション (全体発表)	閉 講 式				

実施会場： 鳴門教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（技術家庭Jー1）「学校における食育の推進：技術・家庭科における食に関する指導（講義と実習）」						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等						
開 催 期 日	平成23年8月16日～平成23年8月19日					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	18	人	参加率 72.0%
開 催 場 所	横浜国立大学（神奈川県横浜市）						

※ 全体受講定員 325 人、 受講者数 237 人、 参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	17	94.4	0	0.0	0	0.0	1	5.6	18
		17	94.4							

2. 研修内容に関する主な意見

・指導要領の読み取り方・評価から、食の安全まで多岐に渡る内容で勉強になりました。また、全国から集まれた先生方の活動の様子を聞き、大変刺激を受けました。 ・今、緊急に必要と思われる情報を得る事ができたため、個別の質問にも対応していただき、大変ありがたかった。 ・どの講師の方の講義も演習も内容が濃く、しかも語り口は滑らかで、面白く、あっという間の4日間だった気がします。大学時代は講義を面白いと思うことが少なかったので、素晴らしい講師の方々だったんだと思います。 ・家庭科教育に、今、求められていること、生徒に教えるべき基礎・基本の考え方を教えて頂き、本当に勉強になりました。また、今私がやろうとしている授業内容が家庭科の本質から外れようとしていることも分かりました。 ・全国から集まった先生方から、いろいろな情報を得る事ができたこと。また、大学等の先生方から正しい知識、どの様に捉えるべきかという話を聞くことが出来たので、有意義な研修となりました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別紙様式1)

平成23年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭：J-1)

団体名 横浜国立大学

日時	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	15:00	16:00
8月16日 (火)		受付	開講式 10:00 開会 10:02 挨拶 10:12 閉会 オリエンテーション 10:15-10:25	(講義)「技術・家庭科(家庭分野)における学習指導と評価」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 10:30-12:00	昼食	(講義)「学校における食育の推進－新学習指導要領を踏まえた食に関する指導の充実－」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) (報告)「技術・家庭における食に関する指導の実践事例」 30分×2人、質疑応答30分 (担当)田口真澄(群馬県総合教育センター指導主事総括) 真遼国子(高松市立国分寺中学校教諭) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00			
8月17日 (水)				(講義・ワークショップ)「技術・家庭科における食の授業デザイン」 (担当)堀内かおる／杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 9:00-12:00	昼食	(実習)「食品選択能力を高める調理実習指導」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00			
8月18日 (木)			(講義・演習) 「献立作成の指導－食品群と食事バランスガイドについて－」 (担当)金子佳代子(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 9:00-12:00		昼食	(実習)「献立学習との関連を意識した調理実習」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育人間科学部 第1研究棟 312室 調理学実験実習室 13:00-16:00			
8月19日 (金)			(講義)食の現代的問題1 「食育における食品安全性」 (担当)山本和貴(農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 研究員) 教育文化ホール 中集会室 9:00-10:25	休憩 十分	昼食	(ディスカッション) 「学校における食育の推進－技術・家庭科での食に関する指導－」学習指導案発表 (担当)金子佳代子／杉山久仁子(横浜国立大学教授) 13:00-14:30	閉講式 14:40 開会 14:42 挨拶 14:50 修了証授与 15:00 閉会 アンケート回収 諸連絡		

実施会場:横浜国立大学

I 研修概要

研 修 名	産業情報指導者養成研修（技術家庭J-2）「幼児と触れ合う活動と幼児理解に関する指導（講義と演習、実習）」						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等						
開 催 期 日	平成23年7月25日～平成23年7月28日					4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	15	人	受講者数	16	人	参加率
							106.7%
開 催 場 所	東京学芸大学（東京都小金井市）						

※ 全体受講定員 325 人、 受講者数 237 人、 参加率 72.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
		大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	割合 (%)	15	93.8	1	6.3	0	0.0	16
		16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

・ 4 日間の内容、充実していました。今知りたい評価や発表会でのポイント、保育所の現状や観点を絞った観察。他校（県）の現状、実際の授業で使えるヒントになる、おもちゃ作り。そして、指導実践例を考える活動と、大変勉強になりました、ありがとうございます。今後に生かします。
・ 4 日間も家庭科にどっぷり浸かって良かったです。ふれあいはいらないといけなけれど、どうやったら・・・とか、大変そう・・・と思っていたのが、今回の研修で取りあえず相談して、絶対やるぞ！！と思いました。全国の先生と話をし、いろいろな実態を知れて良かったです。ありがとうございました。
・ 現在までも幼児とのふれあい学習は、苦労なく先輩方のご努力のお陰で当たり前に出ていました。事前事後学習をはじめ、おもちゃ作りについても「もっと〇〇したい」「こうやってやったほうがいいな」と思うことがたくさんありました。そういうことが思えるように学ばせて頂いた講師の先生方や家庭科の先生方に感謝申し上げます。
・ 幼児ふれあい体験について、まだ全く取り組めておらず、どうしたらよいのかとても困っていたので、今回参加させていただき、本当に勉強になりました。ありがとうございました。
・ 24年度からのふれあい体験の実施に向け、お尻に火がついた思いです。他の家庭科の先生みんなに受けてもらわなければならない研修だと思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて
・ 研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度産業・情報技術等指導者養成研修日程
 ―幼児触れ合い体験と幼児理解に関する指導（講義と演習）―
 (教科名 技術・家庭，研修番号 J-2)

日 時	9	10	10:30	11	12	13	14	15	16	17
7月25日(月)		受付	開講式 ガイダンス	(講義)「技術・家庭科(家庭分野)における学習指導と評価」 移行期において、何を残し何を变えるのか、充実した指導の在り方を探る。 (文部科学省 筒井恭子)	屋休み	(演習)「新学習指導要領における幼児とのふれ合いに関する指導の充実―」 指導主事 中学校家庭科教員による実際の授業報告と協議を行う。 (文部科学省 筒井恭子、石川県金沢市立金石中学校 大野敦子、神戸市指導主事 田尾みつほ)			(講義)「保育観察Ⅰ」保育観察に必要な予備知識を学ぶ。 (東京学芸大学 倉持清美)	
7月26日(火)		(実習)「保育観察Ⅱ」 約5名ごとに5グループ分け、適宜保育所で観察を行う。乳幼児の発達、保育園についての理解を深める。 小金井市立保育園 (東京学芸大学 倉持清美)					(演習)「人と関わる力を高める授業展開―幼児ふれ合い体験にどう取り組むか―(パネルディスカッション)保育観察を踏まえ、人と関わる力を高める授業がどのように展開できるのかを、いくつかの授業例を基に協議する。 (東京学芸大学 倉持清美、東京学芸大学附属高校 阿部睦子、さいたま市立本太中学校 金子京子、香川大学 妹尾理子、秋田大学 望月一枝)			
7月27日(水)		(実習)「保育観察Ⅲ」 約5名ごとに5グループ分け、適宜保育所で観察を行う。乳幼児の発達、保育園についての理解を深める。 小金井市立保育園 (東京学芸大学 倉持清美)					(演習)「保育観察Ⅳ」 観察した内容について保育の専門家を交えてグループディスカッションを行い、幼児理解に結びつける。 (東京学芸大学 倉持清美、東京学芸大学 福元真由美、淑徳短期大学 井口眞美、田園調布学園大学 矢萩恭子、元聖徳学園附属幼稚園 森本和美)	(講義)「幼児ふれ合い体験指導法」 幼稚園教員によって、幼児と関わるための技能について学ぶ (淑徳短期大学 井口眞美)		
7月28日(木)		(講義)「幼児理解Ⅰ」 保育学習に必要な、幼児理解について主に発達心理学の最新の知見から学ぶ。 (東京学芸大学 倉持清美)	(講義)「幼児理解Ⅱ」 保育学習に必要な、幼児理解について主に発達心理学の最新の知見から学ぶ。 (東京学芸大学 倉持清美)			(講義)「幼児理解Ⅲ」 幼稚園・保育園の現状や、家族など、幼児を取り巻く環境について、最近の現状を学ぶ。 (東京学芸大学 倉持清美)	閉講式			

I 研修概要

研 修 名	平成23年度産業教育実習助手研修（農業）「教科「農業」及び農業科指導法に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。					
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。					
開 催 期 日	平成23年8月22日～平成23年8月27日					6日間
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	15	人 参加率 75.0%
開 催 場 所	愛媛大学（愛媛県松山市）					

※ 全体受講定員 60 人、 受講者数 49 人、 参加率 81.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	10	66.7	5	33.3	0	0.0	0	0.0	15
		15	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・ 普段の勤務では、ほとんど触れる事のできない最先端の技術や研究分野、実践例等を幅広く知ることができ、大変有意義だった。また、地元の教員との交流では得る事の出来ない情報を他県の先生方から教えてもらうことが出来て、大変良い刺激を受けることが出来た。今後も今回作られた先生方とのネットワークを活かしていきたい。また、得られた知識・情報を現場に還元していきたい。今後も是非この研修を開いていただきたい。ありがとうございました。
・ 1日目の演習林実習で、緊張がほぐれて、とても良い仲間を作ることが出来ました。講義も知らない事や、忘れていた事、いろいろでしたが久しぶりの“学生”生活、とてもたくさんのご事を得る事が出来ました。今回作った横のつながりを大切にしたいと思います。この研修に参加することが出来て本当に良かったです。
・ 一昨年に参加された先生に話を伺った時は、「実習という実習はなかった」と聞いていましたが、今回は炭焼き実習や土壌診断、農業問題を含んだオリエンテーリングが組み込まれており、研修生の交流も出来て、本当に有意義な研修になりました。御指導くださいました先生方、企画くださいました関係機関の先生方に厚く御礼を申し上げます。お願いですが後輩、そして農業教育のためにも、是非これからもこの研修を続けていただきますよう、どうかお願いいたします。本当にありがとうございました。
・ 初めは不安な研修でしたが、授業や実習をする中で参加者の方々とも交流することができ、つながりが出来た。また最新の技術を学ぶことができ、とても勉強になりました。鶴見先生を始め愛媛大学の皆様、関係機関の皆様へ感謝いたします。
・ 産業教育実習助手研修は、初めて参加させていただき、大変いい勉強になりました。このような場所・研修先を提供していただく学校を大変ですが、こういった機会を多く作って欲しいです。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・ 実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・ 研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別紙様式1)

平成23年度産業教育実習助手研修日程

(教科名 農業)

大学名 国立大学法人 愛媛大学

8月22日(月)	8:30	9:00	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	18:15
場所	開校式 講義室	11番 講義室	講義3-①	11番講義室	講義1-② 室	11番講義 室	講義2-②	演習林	講義・実習1-③ 演習林	講義・実習3-④ 演習林		
内容	オリエンテー ション	中山間地経営論	休憩	休憩	農山村人材育成(1)	昼休み	農山村人材育成(2)	休憩	農山村資源活用(1)	農山村資源活用(2)		
講師名		笠松浩樹			鶴見武道		鶴見武道		鶴見武道	鶴見武道		
8月23日(火)			8:30	10:00	10:15	11:45	13:00	14:30	14:45	16:15		
場所			講義・実習2-③	演習林	講義3-②	21番講義室	講義3-③	21番講義室	講義1-①	21番講義室		
内容			農山村資源活用(3)		環境保全型農業の 技術と経営	昼休み	野生動物と共存する 農村の設計・計画・管理		自然の恵み 稲			
講師名			鶴見武道		胡 柏		武山絵美		杉本秀樹			
8月24日(水)			8:30	10:00	10:15	11:45	13:00	14:30	14:45	16:15		
場所			講義2-①	21番講義室	講義2-④	21番講義室	講義2-⑤	21番講義室	講義2-⑥	21番講義室		
内容			動物の栄養素獲得戦略	休憩	食品の機能性	昼休み	現代日本の農業政策		都市農村交流論			
講師名			上田博史		菅原卓也		大隈 満		小田清隆			
8月25日(木)			8:30	10:00	10:15	11:45	13:00	14:30	14:45	16:15		
場所			講義1-④	21番講義室	講義3-⑤	21番講義室	講義1-⑤	21番講義室	講義2-⑦	21番講義室		
内容			世界と日本の水資源 問題	休憩	絶滅危惧種の遺伝的 多様性保全	昼休み	食品中の天然物有機化合 物		地域マネジメント論			
講師名			藤原正幸		高木基裕		山内 聡		森賀盾雄			
8月26日(金)			8:30	10:00	10:15	11:45	13:00	14:30	14:45	16:15		
場所			講義1-⑥	農場	講義・実習3-⑥ 農場		講義3-⑦	農場	講義・実習3-⑧ 農場			
内容			土壌の機能と食料生産	休憩	持続的農業生産技術	昼休み	土壌の肥沃度		土壌の化学的特性 測定法			
講師名			上野秀人		上野秀人		上野秀人		上野秀人			
8月27日(土)	8:30	10:00	10:15	11:45	12:30	14:00	14:15	15:45	15:50	16:20		
場所	講義2-⑧	21番講義室	講義1-⑦	21番講義室	講義1-⑧	21番講義室	講義3-⑨	21番講義室	閉校式	21番講義室		
内容	農産物流通と 市場	森林資源の持続的利用	休憩	休憩	新たな食料生産システ ムとしての植物工場(1)	昼休み	新たな食料生産システ ムとしての植物工場(2)					
講師名	中安 章	林 和男			有馬誠一		有馬誠一					

実施会場:国立大学法人 愛媛大学

教職に関する専門科目(1単位) 農業科教育法 1-①～⑧
 教科に関する専門科目(1単位) 農山村地域創生 2-①～⑧
 教科に関する専門科目(1単位) 農業と食料・環境 3-①～⑨

* 8月22日(月) 大学発着13:00 演習林着13:30 移動中も講義 演習林で1泊 (会場:愛媛大学農学部附属演習林)

* 8月23日(火) 演習林発着9:30 大学着10:00 移動中も講義

* 8月26日(金) 大学発着8:00 農場着8:30 農場発着16:15 大学着16:45 (会場:愛媛大学農学部附属農場)

I 研修概要

研 修 名	平成23年度産業教育実習助手研修（工業）「工業実習に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。							
開 催 期 日	平成23年8月22日～平成23年8月27日					6日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	18	人	参加率	90.0%
開 催 場 所	広島国際学院大学（広島県広島市）							

※ 全体受講定員 60 人、 受講者数 49 人、 参加率 81.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

		有意義であった				あまり意義が なかった		全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計	
		大変有意義		概ね有意義											
人数 (人)	割合 (%)	12	66.7	6	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	18	
		18		100.0											

2. 研修内容に関する主な意見

・勉強になることが多くありました。今後の授業に生かせるか心配だが、生かせるようにがんばっていききたい。実習に生かせることが多くあり良かった。 ・新しい分野の勉強も出来て良かった。また、資料もたくさん用意して頂いたので、学校に戻っても活用できると思います。ただ、現在の私の知識では難しい内容で理解できない講義もあったが、これをキッカケに今後も勉強していきたい。 ・工業科の指導では今まで感じていなかった部分をとても良い方向に向けてもらい大変有意義であった。生徒の状態を把握し、自らが学びたいと思わせるような実習が出来るよう、改善していきたい。そして私自身も日々成長していきたい。 ・教育する事の意義を改めて考えさせられました。この研修で得たものを、生徒へ還元できれば良いと思います。 ・初めての研修参加であったが、日々疑問に思っている事や安全教育に対して、意見交換や情報が得られた一週間であった。また、講師の先生方の教育に対する熱心さが伝わり、遠方から参加した価値は大いにあった。産業教育の重要性が改めて感じた期間でもありました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別添 1)

平成 23 年度産業教育実習助手研修日程

(工業)

大学名 広島国際学院大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8月22日 (月)		受付 10:00～ 10:20	10:40 ～ 12:10 (講義) 工業科の指導① (人の発達と技術) 間田泰弘 袋町キャンパス	休憩	12:50 ～ 14:20 (講義) 工業科の指導② (工学教育と科学教育) 間田泰弘 袋町キャンパス	休憩	14:30 ～ 16:00 (講義) 工業科の指導③ (工業教育の目標と内容) 間田泰弘 袋町キャンパス	休憩	16:10 ～ 17:40 (講義) 工業科の指導④ (危機管理・安全指導) 間田泰弘 袋町キャンパス	
8月23日 (火)	9:00 ～ 10:30 (講義) ものづくり① (ものづくり概論) 李木経孝 104B	10:40 ～ 12:10 (講義・演習) ものづくり② (設計と加工) 中村格芳 104B	10:40 ～ 12:10 (講義) 工業科の指導⑤ (工業教育の内容と指導) 間田泰弘 104B	休憩	12:50 ～ 14:20 (講義・演習) 情報と制御① (制御概論) 山本透 105E	休憩	14:30 ～ 16:00 (講義・演習) 情報と制御② (新制御システム) 山本透 105E			
8月24日 (水)	9:00 ～ 10:30 (講義) ものづくり③ (正弦波と工学) 西村正文 104B	10:40 ～ 12:10 (講義) 工業科の指導⑥ (工業教育の内容と指導) 間田泰弘 105E	10:40 ～ 12:10 (講義・演習) 情報と制御③ (数値解析 1) 酒井恒 105E	休憩	12:50 ～ 14:20 (講義・演習) ものづくり④ (ものづくりと材料) 李木経孝 104B	休憩	14:30 ～ 16:00 (演習) ものづくり⑤ (金属系新素材) 李木経孝 104B	休憩	16:10 ～ 17:40 (講義・演習) 情報と制御③ (制御教材 1) 神垣太持 105E	
8月25日 (木)	9:00 ～ 10:30 (演習) 情報と制御④ (制御教材 2) 神垣太持 105E	10:40 ～ 12:10 (演習) 情報と制御⑤ (制御教材 3) 神垣太持 105E	10:40 ～ 12:10 (講義・演習) ものづくり⑦ (環境と資源 2) 渡辺昌規 104B	休憩	12:50 ～ 14:20 (講義・演習) 情報と制御⑥ (数値解析 2) 酒井恒 105E	休憩	14:30 ～ 16:00 (講義・演習) 情報と制御⑦ (数値解析 2) 酒井恒 105E			
8月26日 (金)	9:00 ～ 10:30 (講義) ものづくり⑥ (環境と資源 1) 渡辺昌規 104B	10:40 ～ 12:10 (講義・演習) ものづくり⑦ (環境と資源 2) 渡辺昌規 104B	10:40 ～ 12:10 (講義) 工業科の指導⑧ (学習指導要領) 持田雄一 104B	休憩	12:50 ～ 14:20 (講義・演習) ものづくり⑧ (振動解析) 中川紀壽 104B	休憩	14:30 ～ 16:00 (講義) 工業科の指導⑥ (指導法の工夫— フレキシビリティ—) 間田泰弘・遠藤潤一 104B	休憩	16:10 ～ 17:40 (演習) 工業科の指導⑦ (指導法の工夫— フレキシビリティ—) 間田泰弘・遠藤潤一 104B	
8月27日 (土)	9:00 ～ 10:30 (講義) 情報と制御⑧ (情報活用論) 大塚厚二 105E	10:40 ～ 12:10 (講義) 工業科の指導⑧ (学習指導要領) 持田雄一 104B	12:20 ～ 12:45 閉講式							

実施会場：袋町キャンパス 8月22日(月)

中野キャンパス 8月23日(火) ～ 27日(土)

I 研修概要

研 修 名	平成２３年度産業教育実習助手研修（水産）「水産及び水産科教育法に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として３年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。							
開 催 期 日	平成23年8月8日～平成23年8月12日					5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	16	人	参加率	80.0%
開 催 場 所	北海道大学（北海道函館市）							

※ 全体受講定員 60 人、 受講者数 49 人、 参加率 81.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

		有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答		未 回 収		合計
		大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	割合 (%)	12	75.0	4	25.0	0	0.0	0	0.0	16
		16	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

・企業見学は大変勉強になりました。 ・素晴らしい研修になりました。学校に帰ったら、他の先生と情報を共有し、より良い教育について考えていきたいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。
次年度に向けて ・研修内容を見直しつつ、実施経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

(別添1)

平成23年度産業教育実習助手研修日程表

(教科名：水産)

北海道大学

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8月8日 (月)		開講式	(講義) 水産科学概論	休 憩	(講義) 水産科学通論 1	昼休み	休 憩	(講義・見学) 水産科学通論 2, 3, 4 船舶、港湾施設で実施 (途中、休憩と移動を含む)		
8月9日 (火)			(講義) 水産科学通論 5, 6 (休憩含む)	昼休み	(講義) 水産科教育法 1	休 憩		(講義) 水産科学通論 7, 8 (休憩含む)		
8月10日 (水)			(講義) 水産科学通論 9, 10	昼休み				(講義・実習) 水産科学通論 11, 12, 13 公設試験研究機関、水産関連企業で実施 (途中、休憩と移動を含む)		
8月11日 (木)			(講義) 水産科学通論 14	休 憩	概論・通論 レポート作成	昼休み		(講義) 水産科教育法 2, 3, 4 (休憩含む)		
8月12日 (金)			(講義) 水産科教育法 5, 6 (休憩含む)	昼休み	(講義) 水産科教育法 7, 8 (休憩含む)			教育法 レポート作 成	閉講式	

実施会場：北海道大学函館キャンパス

I 研修概要

研 修 名	平成23年度学校評価指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	組織的・継続的に教育活動その他の学校運営の改善を図ることを目的とした学校評価を円滑に推進するため、第三者評価の観点を含めた自己評価、学校関係者評価の生かし方等について、必要な知識及び技能を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成23年9月27日（火）～平成23年9月30日（金）				4日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	160	参加率
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	124	34	0	0	1	1	160
割合 (%)	77.5	21.3	0.0	0.0	0.6	0.6	
	158	98.8					

2. 研修内容に関する主な意見

・それぞれの専門分野についてスペシャリストの講師の方々の話を短期間で聞けるというのは、このような機会でないと感じました。また、他県のような様々な職位にある先生方と情報交換できて大変有意義でありました。 ・研修の環境がよく、スムーズに充実した研修でした。御配慮いただきました皆様にお礼申し上げます。運営が素晴らしいと思いました。研修の中身を含め、大変有意義でした。 ・理論・先行実例を学んだ上で、班で1つの成果物を作り上げるというのは大変有意義でした。3日目のワークショップをしながら前日までのことを話題にしながら進められ、理解が深まりました。 ・一定の知識を得るとか、検証・考察の結果、結論を導き出すということではなく、「意見を出し合う」「みんなで考える」という活動そのものが大事だと分かりました。研修講師として地元で成果を伝える場合には、それぞれの実情に応じて何をどう伝えるか、改めて検討する必要があります、そのための研修であったのだと感じました。 ・指導主事として学校訪問し、学校評価について指導助言する際の視点が広がり、多面的に学校にとって効果的な指導助言が出来そうな気がしてきた。班員の先生方とは、学校評価は勿論、そこから広がる学校の悩みや課題を話し合えた。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ ・23年度より委託研修として実施した。 ・演習を一体化し全体の流れが分かるように日程に反映させた ・A（改善）→P（計画）にどのように反映させるかに焦点をあて、PDCAサイクルを意識させる演習とした 次年度に向けて ・小中高校の学校種別の部会に加え、教育委員会に関する部会を新たに設置する。 ・実施経費については、全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成23年度 学校評価指導者養成研修 日程表

第1日目									
9月27日 〈火〉	11:45	12:15	12:45	13:45	14:00	17:00			
	課題協議1 「これからの学校評価に求められていること」 文部科学省初等中等教育局 視学官 日置 光久 ◎目的：学校評価ガイドライン（平成22年改訂）を踏まえ、学校評価の意義と目的を理解するとともに、現状と課題について整理する		開講式	受講	休憩	演習1 「各地域における学校評価の取組」 ◎目的：各地域における学校評価の取組について情報交換することにより、課題を共有する	休憩		
第2日目									
9月28日 〈水〉	9:00	10:45	11:00	12:45	13:45	17:00			
	課題協議2 「学校経営の充実を図る学校評価」 玉川大学教職大学院 教授 小松 郁夫 ◎目的：学校評価が学校経営に果たすべき役割及び相互の関係性の在り方について理解する	休憩	課題協議3 「学校改革に求められるリーダーシップ」 筑波大学大学院 教授 浜田 博文 ◎目的：学校評価を生かした学校運営を円滑に進めるために、管理職等に求められるリーダーシップについて理解を深める	昼休み	事例発表・協議 「学校評価を生かした学校改善の取組～信頼される学校づくりをめざして～」 京都市教育委員会 指導部学校指導課 主席指導主事 北尾 恵文 京都市立嵯峨小学校 教諭 中村 佳明 京都市立嵯峨小学校 学校運営協議会会長 角川 彰 五ヶ瀬町教育委員会教育振興グループ 指導主事 澤野 幸司 五ヶ瀬町立三ヶ所小学校 校長 奇藤 亮一 大阪府教育委員会教育振興室高等学校課 主任指導主事 浅田 充彦 大阪府立久米田高等学校 校長 岡村 多加志 ◎目的：先行事例の取組から、学校評価を生かした学校改善の手法、課題への対応策等の実際について理解を深める				
第3日目									
9月29日 〈木〉	8:30	9:00	12:00	13:00	17:00				
	演習の進め方 演習2 「学校評価の手法とその生かし方Ⅰ～現状と課題の明確化・評価結果の分析とその活用方法を学ぶ～」 小学校部会 兵庫教育大学 准教授 大野 裕己 中学校部会 大阪教育大学 教授 木原 俊行 高等学校・幼稚園・特別支援学校部会 山梨大学 教授 日永 龍彦 ◎目的：事例検討を通して、学校運営における学校評価の活用状況に係る現状と課題を把握し、効果的な学校評価を展開するための知識を得るとともに、その普及方法を学ぶ	休憩	昼休み	休憩	部会発表・協議				
第4日目									
9月30日 〈金〉	8:30	11:30	11:45	12:45	17:00				
	演習3 「学校評価の手法とその生かし方Ⅱ～全体発表・協議～」 山梨大学 教授 日永 龍彦 ◎目的：学校評価の充実を図るための方策について理解を深める	休憩	課題協議4 「研修講師となったために」 文部科学省初等中等教育局 視学官 三好 仁司 ◎目的：学校評価に関する研修講師となるための課題を整理する	閉講式					

I 研修概要

研 修 名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるため、学校は地域や学校の実態等に即し、学校の特色を生かした適切な教育課程を編成、実施していくことが重要となる。 このため、学校においてカリキュラム・マネジメントを効果的に展開するための手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等、カリキュラム・マネジメントを円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者					
開 催 期 日	平成24年2月13日（月）～ 平成24年2月17日（金）				5 日間	
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	160	人	受講者数	166	参加率 103.8%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)					

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	133	26	0	0	7	0	166
割合 (%)	80.1	15.7	0.0	0.0	4.2	0.0	
	159	95.8					

2. 研修内容に関する主な意見

・カリキュラム・マネジメントは本市の小中学校において喫緊の課題である為、本質的な内容や手法等、具体的事例を基にした研修や演習が自分自身にとって大変参考になった。本研修で得た事を自分の市町の小中学校に還元していきたい。
・講義・演習がバランス良く組み込まれていて大変有意義な研修でした。演習において、限られた時間の中で課題を仕上げることは大変でしたが、短時間だからこそより集中力が高まり良いものができることを実感しました。
・各講義、演習共にとても有意義な五日間を過ごしました。他校種の多くの先生と多くを語り、作り上げて行く過程で協同（働）の良さ、達成感を得られました。
・研修ノートがとても充実している。演習時程や進め方等も入れて頂いているので、マネジメント研修を行う際の貴重な資料となる。データ共有化を図れる様なシステムが機能していてありがたい。
・研修を企画・運営する上での手法やその留意点がいまいち具体的な事例をもとに説明されてわかりやすかった。地域に戻った時に生かせるヒントが豊富にあり、今後、効果的に活用していきたい。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ
・直前の部会別発表のまとめおよび4日目の演習を効果的に進めるため、3日目課題協議5について時間増を図った。
・受講者の事前課題をもとに各地域の取組状況を説明し情報交換を行う演習1について、受講者アンケートをふまえて協議の時間増を図るとともにワークシートを新たに作成し、より意見が深まるように配慮した。
・アンケート結果をふまえて、4日目の演習3-1の演習時間の十分の確保および5日目の「研修講師となるために」の充実を図るため、開始時間を30分早めて8時半からとした。
次年度に向けて
・研修効果を高めるため、研修後半ではなく初日において「カリキュラム・マネジメントとは何か」を受講者に明確に理解してもらえるような講義・演習に改善する。
・最終日演習3-2における代表班の発表について、特定の教科等に偏ることなくバランスよく組み込まれるよう配慮する。
・実施経費については、全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

